



大阪歯科大学 同窓会報

131 ■ '88秋

132 ■ '88冬

第10回

大阪歯科大学同窓会

全国同窓会員大会特集号

目 次

巻 頭 言	1
第10回 大阪歯科大学	
全国同窓会会員大会	2
学長就任にあたって	33
故大阪歯科大学名誉教授	
松岡操一先生ご逝去	34
理事、支部長、クラス会代表者 合同会議	36
昭和63年度夏期学術研修会	52
昭和62年度	
大阪歯科学会大会	
大阪歯科大学同窓会学術研修会	53
定年退職記念講演	
名誉教授 筒井正弘	104
支部だより	109
クラス会だより	116
朝日大学ニュース	158
紫後会だより	159
学位取得者紹介	162
編集後記	163

巻 頭 言

常務理事 水 谷 光 孝

「憤」

本学は明治の末期に大阪歯科医学校として創設され、大正の中期に大阪歯科大学専門学校となり、昭和22年に大阪歯科大学に発展するまで半世紀以上の星霜を経て今日にいたった。その間先覚者の創業の苦心、またよくこれを守り、血の滲む荆の道をふみこえて、今日磐石の基礎が作られたのである。教育面にまた経営面に生涯を捧げられた歴代の校長、理事長、学長、同窓会会長および同窓の皆さんの並々ならぬ御努力と御苦勞に対し、心から感謝と敬意を捧げたい。

歴史は長きが故に決して尊いものではない。その間に絶えず新清な活力を投入し、改革し、そして培かれた伝統こそが評価されるものである。創設以来77年の光輝ある歴史と伝統のもと今や1万有余名を数えるに至った同窓であるが諸々の要因により、残念ながら幾許か軟弱化の傾向にあることは認めざるを得ない昨今である。この様な時期に「団結と躍進」と銘うって、第10回全国会員大会が錦繡綏なす京都において盛会裡のうちに開催され、二千数百の同窓が一堂に会することは誠に意義深いものであった。席上会長は同窓会本来の目的である会員の福祉、親睦、歯学研修の3本の柱に歯科界の発展に務めるという新しい柱を加え4本の柱で現在の危機に対処するとの所信の表明をされた。これ正に孟子の言う『憤』の心境であろう。『目標たてれば憤の一字をもって志を燃やし、生きる事だ。発憤の志は決して弱めてはならない。』と孟子は言う。

歯科医師急増と医療費抑制の相乗作用の上、諸々の因子が絡み合い、幾多の問題を抱えている歯科界の中にあり、まず我が同窓の軟弱と衰退を懸念し、組織の再点検を行い、その強化と活性化を図るとし、新しい同窓会造りの為、新しい陣容で出発した同窓会であるが、子弟問題と言う大きな壁を如何に打破するかが一つの重大な課題であろう。いま混沌のときに、我々の生きざまが厳しく問われようとしている。迷ってばかりはいられない。先人・達人が、激動の時代を何によって突破していったのかをここで歴史と伝統に問う必要があるのではないか。勿論我々同窓の自意識なくしては文句は言えないが、あらゆる不安材料を打消し、天職である歯科医学、歯科医療に没頭し、結果が同窓会の団結と躍進につながり、大学の発展に寄与できるよう全力を傾けたいものだ。

組織の再点検をし、強化と活性化を命題に打出された会長の「発憤の志」に大いに期待を寄せ、夢とロマンを託すとともに我々としても赤誠をもってこれに応えたいものだ。

第10回 大阪歯科大学
全国同窓会会員大会

「団 結 と 躍 進」

昭和63年11月13日
京 都 都 ホ テ ル



秋曜の11月13日、午後1時より第10回全国同窓会会員大会が「団結と躍進」の旗の下に2200余名の会員が京都都ホテルに結集して盛大に開かれた。

今春就任したばかりの奥野喜一新会長にとっての初の全国大会にふさわしく、文字通り北は北海道、南は沖縄に至るまで全国津々浦々より満を持した同窓会員が、久しぶりにその結束ぶりを内外に示そうと続々と入浴した。

百余名の来賓を迎え、全国29校のこの種会員大会としては一、二を競う規模のものとなったのもそれだけの意味がある。刻々と歯科医学・歯科医療の根幹をゆるがしかねない勢いになっ

てきている時局下で、国民歯科医療の破壊からどうこれを排除し守るのか、母校80周年を3年後に控え、本大会をバネにして更に大きく躍進しようとするこの二つの大きな決意が、期せずして大同結集したのである。

奥野会長の「団結を固め、危機の時代を克服する」との並々ならぬ決心を肌で確めた2200の会員の顔には、新会長を擁立した満足感がありありとうかがえ、引続き会場を移しての大懇親会では先程の厳粛な中にも意気天をつく式典の熱気とは一転して、会員の家族までも含めた和やかな懇親の輪が限りなくひろがっていった。





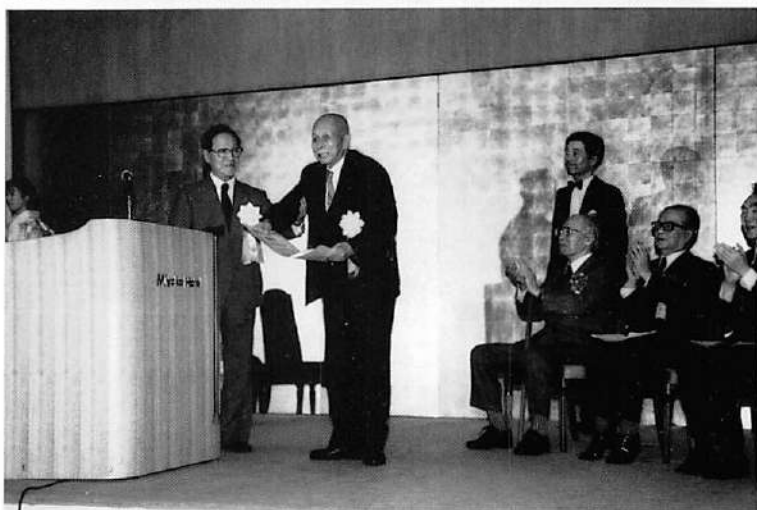
















式典

都ホテル本館 2 階「山城の間」 午後 1 時

司 会 専務理事

新 田 孟

開会のことば

同窓会副会長

森 宏

物故会員に対する黙禱

経 過 報 告 同窓会副会長・大会準備委員長

野 添 静 里

式 辞 同窓会会長・大会会長

奥 野 喜 一

来 賓 紹 介

来 賓 祝 辞 大阪歯科大学理事長

北 川 正 夫

大阪歯科大学学長

稗 田 豊 治

日本歯科医師会会長

山 崎 数 男

全国歯科大学（歯学部）同窓会、校友会代表

日本大学歯学部同窓会会長

伊 東 祐 光

祝 電 披 露

前会長奥野半蔵先生に対する感謝状贈呈

閉会のことば

同窓会副会長

松 本 博

懇親会

都ホテル新館 4 階「瑞穂の間」 午後 3 時

（邦楽合奏）

開宴のことば

同窓会副会長

村 井 俊 郎

乾 杯

アトラクション 郷土芸能 六斎念仏踊り

学 歌 斉 唱

万 歳 三 唱

閉宴のことば

同窓会副会長

村 上 勝

来 賓

大学関係

北宮岡藤上東本中森毛白田豊加山木戸井倉	川森野井田多村利数中田藤岡下田上橋	正康博弁次裕景平一和学也男一昭信善之介夫宏一浩	夫雄郎	奥和田太西福野稗覚佐神中山筆小高古川大新	野田浦田田道川村本西須跡添野池	半正義	蔵治邦恂稔寛治男典也明世一二淳義之眞彬一郎孜
---------------------	-------------------	-------------------------	-----	----------------------	-----------------	-----	------------------------

名 譽 教 授

谷 小 西 川 三 筒 織	口 善 富 元 春 春 正 正	之 夫 造 幸 保 弘 豊
---------------	-----------------	---------------

他大学関係

宮 多 矢ヶ崎 飯 塚 谷 堀	田 慶三郎 和 敏 一 康 忠 彦（京大） 嘉 明（京大） 亘 孝（府立医大）
-----------------	---

日本歯科医師会

山崎 数男
村井 俊郎
秋山 友藏
大浦 波夫
鈴木 實夫
光安 一夫
坂本 俊夫
松島 悌二
野村 靖夫
白神 進務
上田 務久
久木 竹久

近北地区歯科医師会関係

藤井 弘夫
坂本 俊夫
竹内 太郎
久木 竹久
辻本 信輝
福岡 保郎
長谷川 博久
奥野 喜一
村井 俊郎
坊 明男(富山)
渡辺 正美(奈良)
奥山 康博(奈良)
石田 安宏(大阪)
山口 邦男(大阪)
斉藤 武公(大阪)

他大学同窓会校友会

川上 智史(東日本学園)
平 佐武郎(東歯)
西村 恒一(日歯)
伊東 祐光(日大)
臼田 貞夫(日大)
柴田 嘉則(医科歯科)
田中 一雄(明海)
三宅 公彦(神奈川)
村田 慈信(鶴見)
浅野 正弘(愛知)

矢ヶ崎 雅(松本)
岸田 直道(朝日)
赤沢 信(朝日)
諏訪 兼治(朝日)
亀田 寛(阪大)
平山 稔(九歯)

他大学同窓会校友会支部

(京都)

荒木 賢(東歯)
中島 克巳(日大)
安藤 美明(医科歯科)
松井 敏子(鶴見)
溝川 隆則(愛知)
大橋 政博(松本)
佐々木 悦男(朝日)
糸井 昭一(阪大)
大橋 治之(九州)

(大阪)

康本 浩一(北海道)
難波 和之(岩手)
大住 義寿(東歯)
堀井 正雄(日歯)
前田 寿治(日歯)
齋谷 修三(日歯)
森永 義信(日歯)
山本 桂三(日歯)
荒垣 一郎(日大)
佐牟田 吉一(医科歯科)
森上 明夫(明海)
網野 省三(神奈川)
田丸 嘉陽子(鶴見)
川西 旭彦(愛知)
岸本 典之(愛知)
大山 尚毅(松本)
与田 誠一郎(朝日)
梅田 忠邦(阪大)
崎田 道臣(九歯)
春次 賢太郎(福岡)
川越 進(京城)

(兵庫)

林 幹雄(東歯)
池端 邦夫(日歯)
中岡 要(明海)
佐多 進(神奈川)
登利 俊彦(愛知)
宮内 満喜雄(松本)
謝花 幹樹(朝日)
村田 石雄(阪大)
池 伸和(九歯)

新聞社

日本歯科新聞社
医歯薬新報社
歯界報知新聞社
(順不同)

関係業界

株式会社
 モリタ
 ヨシダ
 而至齒科工業
 松風
 三金工業
 長田電機工業
 矢田化学工業
 ライオン
 サンスター
 ニッシン
 京セラ
 タカラベルモント
 朝日レントゲン工業
 バイエル日本齒科
 サンメディカル
 トーワ技研
 クラレメディカル
 臨床齒科社
 永末書店
 近畿齒科用品商協同組合
 日本齒科用品商協同組合連合会
 (順不同)

物故

<昭和59年>

松塚勇介	専5	福島	9月27日
小野英雄	専24	愛知	10月6日
小沢亨	専10	滋賀	10月10日
成田昌治	専28	青森	10月11日
小山篤	医校	岡山	10月12日
鍛形勝	専31	大阪	10月17日
水島定	専5	和歌山	10月29日
高野喜発	専10	大阪	10月29日
横道正	専3	関東	11月5日
十河裕久	大6	大阪	11月22日
赤尾循一	医定	大阪	11月23日
九鬼莊三	大6	大阪	11月27日
石川晃	専16	香川	12月4日
米花淳	大17	高知	12月9日
日野金二郎	専5	大阪	12月17日
馬場明	専26	滋賀	12月17日
松本寛	大9	愛媛	12月17日
宮田末吉	賛助	関東	12月17日
佐々木員雄	専10	大阪	12月18日
中井須恵男	専14	香川	12月20日
尾崎貞治	専5	大阪	12月25日
川添永久	専9	高知	12月27日

<昭和60年>

塩崎増繁	専15	和歌山	1月4日
出口繁男	専6	熊本	1月5日
藤山岩男	専10	兵庫	1月5日
竹葉紀男	大14	兵庫	1月8日
赤松義國	専22	香川	1月10日
今福利男	専7	山口	1月18日
田中賛吉	専18	岡山	1月22日
松山馨	賛助	愛知	1月25日
山川巖	専7	徳島	2月5日
石原貫一	専6	兵庫	2月10日
山田節夫	専32	大阪	2月13日
伊藤守夫	専27	山口	2月27日
雑賀習之	専4	山口	3月5日
本多英太郎	専6	大阪	3月9日
村上義夫	専13	兵庫	3月28日
岡村勝	専28	京都	4月1日

矢川	追村	秀研	実一	専8	兵庫	11月24日
原村	井雅	真輔	大14	専31	兵庫	11月29日
木下	武和	夫男	専2	専6	大阪	12月6日
佐光	原孝	男	専18	専26	大阪	12月16日
石真	岡塚	雅美	専26	専12	大阪	12月17日
飯松	田博	雅	専25		大阪	12月18日
					大阪	12月22日
					大阪	12月24日
					大阪	12月30日
					大阪	12月30日

<昭和61年>

高橋	恵治	専6	長崎	1月2日
牛村	孝太郎	専6	石川	1月2日
石原	利男	専9	香川	1月9日
岡坂	敬一	専23	大阪	1月19日
辻井	弘	大5	大阪	1月21日
松村	敏治	専12	大阪	1月22日
和田	伊三郎	医校	奈良	1月29日
鳴神	達典	専32	三重	1月29日
君野	正明	専13	鳥取	1月31日
大坪	繁	専5	佐賀	2月1日
高木	芳雄	専7	愛知	2月4日
田村	博	専18	大阪	2月11日
大山	三利	専18	大阪	2月14日
森幹	彦	専25	愛知	2月17日
北岡	克巳	大5	大阪	2月18日
桑木	国二郎	専22	大阪	2月21日
佐川	政寛	専8	高知	3月3日
柏谷	哲郎	専21	北海道	3月7日
吉田	弘	専25	大阪	3月9日
湯浅	俊二	専8	石川	3月24日
朝倉	朋次郎	医定	大阪	4月1日
岡本	伍立	専25	大阪	4月5日
森勝	夫	専17	大阪	4月6日
楠剛	彦	専26	大阪	4月7日
西島	典彦	専30	和歌山	4月12日
藤本	敏雄	専14	大阪	4月13日
野田	成徳	専31	鹿児島	4月13日
伊藤	實	専27	兵庫	4月19日
田中	義一郎	専26	兵庫	4月20日
赤松	鎮	専26	大阪	4月23日

守内	武雄	専20	和歌山	4月25日
高島	忠男	賛助	京都	5月1日
安達	久市郎	専16	兵庫	5月5日
久木	崎重	専27	鹿児島	5月5日
前田	敏夫	専8	大阪	5月6日
中田	敏郎	専14	大阪	5月7日
大野	直道	専19	大阪	5月8日
福崎	友之	専15	兵庫	5月12日
佐久間	武夫	専5	京都	5月13日
井上	一治	医校	香川	5月14日
河合	宏	大9	愛知	5月21日
小野	俊吉	専26	兵庫	5月22日
天方	敏郎	専10	大阪	5月28日
藤田	清彦	専16	大阪	6月4日
辻政	太郎	専18	奈良	6月9日
比良野	治朗	専10	大阪	6月11日
門利	衛	専10	広島	6月12日
浜田	幸豊	専25	兵庫	6月26日
林善	作	専18	兵庫	6月27日
入江	清	専7	福岡	7月1日
宮嶋	功	専13	和歌山	7月10日
安田	重徳	大5	大阪	7月11日
宮崎	明敏	大21	京都	7月25日
植西	重	専14	滋賀	7月28日
島谷	嶋一	京城	兵庫	7月30日
中川	正義	専7	大阪	8月1日
久世	勇	賛助	京都	8月11日
内藤	正純	専13	奈良	8月15日
木田	孝治	専16	大阪	8月15日
宇野	保夫	専10	大阪	8月21日
巖正	男	厚修	兵庫	8月23日
吉田	明生	大6	大阪	8月26日
品川	俊一	専2	奈良	9月8日
村上	弘	大11	大阪	9月11日
山木	魁	専6	大分	9月14日
木村	寿治	専29	岡山	9月16日
竹中	武次郎	専13	京都	9月17日
南知	男	大11	大阪	9月19日
福井	良平	専15	大阪	9月22日
坂田	常	医定	京都	9月24日
宮本	正	専25	兵庫	9月26日
阪本	正	専22	大阪	9月28日

澤村	鍵三郎	専31	大阪	9月28日
光井	敏郎	専27	大阪	10月2日
稲垣	正	専19	大重	10月5日
湖山	淳	医校	鳥取	10月6日
江口	裕	専7	愛知	10月12日
南	正雄	専14	大阪	10月18日
岩山	唯	専20	香川	10月18日
栗林	季高	専11	兵庫	10月21日
岡原	実	専16	愛媛	10月21日
中川	秀夫	専16	兵庫	10月22日
灘尾	正義	専31	鳥取	10月24日
菅沼	一夫	京城	大阪	11月11日
木田	建三郎	専16	大阪	11月20日
賀屋	重	大2	大阪	11月25日
伏見	巖	専9	岐阜	11月29日
武井	邦夫	専25	香川	11月30日
菊池	武利	専3	関東	12月1日
吉田	豊作	専20	兵庫	12月3日
片岡	利衛	専11	大阪	12月7日
松本	實	専23	香川	12月8日
谷口	昌久	厚修	鳥取	12月12日
新谷	保次郎	専14	三重	12月16日
宮本	重	専7	愛媛	12月17日
佐野	茂	専11	香川	12月18日
井田	貞治郎	専13	滋賀	12月24日
小島	憲治郎	専7	大阪	12月29日

<昭和62年>

牛村	昭男	専22	石川	1月1日
吉岡	新一	専20	京都	1月13日
上原	俊義	京城	和歌山	1月17日
岸和田	康二	大2	京都	1月19日
宮田	住男	専31	大阪	1月25日
仏願	正次	大6	大阪	1月28日
安東	一光	京城	山口	1月29日
篠原	洋	専6	広島	1月30日
青野	蕉	専3	愛媛	2月2日
吉田	原康	専14	奈良	2月2日
大島	新治	医校	関東	2月3日
石野	晴昭	大12	和歌山	2月8日
谷下	弘	専15	兵庫	2月9日
大下	丈久	専24	福岡	2月10日

松村	正法	専29	大阪	2月22日
山中	正一	専24	京都	2月23日
篠井	友	専10	広島	2月24日
字根	著	専25	関東	3月6日
長田	角夫	専13	広島	3月10日
山本	武徳	専12	関東	3月12日
小野	鍊吉	専15	兵庫	3月12日
佐藤	尊睦	専32	京都	3月16日
安保	正次	大4	滋賀	3月17日
横山	政行	専27	愛媛	3月18日
富永	有伸	医校	大阪	3月24日
磯和	孝	大9	大阪	3月30日
関口	亮三	専13	兵庫	4月5日
古川	鉄美	医定	大阪	4月6日
富田	佑多	専17	愛知	4月7日
己斐	勉	専21	広島	4月9日
広瀬	泰	専30	岡山	4月10日
上原	稔	専21	大阪	4月11日
鈴江	敦	専13	大阪	5月5日
山	秀治	専19	奈良	5月9日
長谷川	徳俊	専5	大阪	5月9日
西奥	喜与志	専1	大阪	5月10日
原	勝弘	大8	兵庫	5月12日
本	芳朗	専19	石川	5月18日
岡田	基範	専26	大阪	5月19日
南	照喜	専16	大阪	5月20日
中山	緋春	専26	石川	5月21日
山田	信義	専8	大阪	5月23日
加賀美	生二	専7	京都	5月26日
渡辺	吉根	専9	愛知	5月27日
大河内	広栄	専15	愛媛	6月1日
畑野	耕男	専19	徳島	6月3日
末広	雄作	医校	大阪	6月7日
福原	啓孝	大11	徳島	6月9日
高松	博	専15	大阪	6月16日
永田	誠一	専21	大阪	6月21日
河合	孫良	専18	大阪	6月22日
岡心	輝	医校	福岡	6月25日
中川	正夫	専10	京都	6月28日
松田	清	専10	大阪	7月1日
篠田	英之介	専12	大阪	7月8日
			大阪	7月14日

黒民橋石市荻横喜中花川長砂川西宮桜桶三石田榎岡味島重北是原梅川木伊福松矢武加加池中長	部本高井川原山多村井越谷田瀬尾川井田宅井崎本松田成山永崎村藤西葉部田茂野藤田野	栄太郎二五岩邦武申博汎盛二五郎利芳保二滋篤高明忠正健次郎金誠八治竹武敏俊正茂勝順征一泰徳	賛助専13専22医校大6専9賛助専24専21大5専17専8大3専31大12専29専6大19専29専28専10専18専29賛助専14大12専8専15専8専25専31大12専10専25専14専30大6	大阪取島兵庫大阪取川奈良賀東大阪東大阪早兵庫大阪山媛歌山大阪和歌山大阪和歌山愛媛岡山知分長崎和歌山大阪愛知大阪和歌山京都大阪香川大阪	7月18日7月25日8月1日8月3日8月12日8月16日8月23日8月24日8月28日9月5日9月7日9月11日9月15日9月17日9月19日9月25日10月6日10月7日10月11日10月15日10月18日10月18日10月18日10月29日11月2日11月3日11月8日11月11日11月16日11月17日11月21日11月23日11月25日12月3日12月5日12月8日12月10日12月10日12月11日12月11日12月11日12月13日
--	---	--	--	--	--

久留井山村河菊村	一彦正太郎修吉平勇	専13専15専16専7専28	広島大阪兵庫大分大阪山	12月19日12月19日12月22日12月27日12月28日12月28日
----------	-----------	----------------	-------------	--------------------------------------

<昭和63年>

新辻岸松下相深菱稲兼重松阪三小瀨古梅中谷堀福施森内谷中高三中飯井矢岡南杉	又兵衛春実貴雄美郷一四正平岡頼基史美智子尚邦幸敏善国克淵雄濶弘資太東徳四敏敬清薫	専14専12専13医校医定専28専26専6専23専19大7専18大17専29大6専16専18専17専7専12専18専30専11専15大2医校専13専14専17専15専10専18	京都大阪大阪大阪兵庫京都大阪北海道兵庫大阪大阪大阪岡山大阪香川大阪台湾鳥取大阪大阪香川大阪奈良京都広島大阪北海道	1月1日1月6日1月11日1月12日1月12日1月18日1月25日2月1日2月5日2月20日2月28日3月15日3月22日3月29日3月31日4月1日4月3日4月5日4月9日4月12日4月16日4月20日4月25日4月29日4月30日5月3日5月7日5月14日5月26日6月1日6月4日6月5日6月8日6月11日
--------------------------------------	--	--	--	--

藤山	川本	益初	一之助	賛助専6	大分	6月11日
鳥越	重男	義男	男	医定専11	大阪	6月13日
玉川	太郎	義男	男	専10	兵庫	6月22日
吉田	久通	義男	男	専14	大阪	6月30日
永長	井丈	義男	男	専11	奈良	7月3日
太田	實	義男	男	専8	関東	7月5日
奈波	文雄	義男	男	専26	兵庫	7月10日
大城	和一郎	義男	男	専28	京都	7月11日
阿部	勉	義男	男	専5	京都	7月13日
徳田	仁	義男	男	大36	兵庫	7月15日
岡生	佳男	義男	男	専7	大阪	7月15日
本多	敬男	義男	男	専13	大阪	7月21日
有城	義男	義男	男	専13	兵庫	7月29日
木村	正二	義男	男	専22	奈良	8月1日
真鍋	祈	義男	男	専18	京都	8月2日
武田	明人	義男	男	専6	愛媛	8月7日
中村	清一	義男	男	専23	広島	8月8日
中村	敬	義男	男	大7	京都	8月11日
後藤	優	義男	男	専31	兵庫	8月12日
太田	甲之助	義男	男	医校	岐阜	8月13日
服部	寿二	義男	男	専22	島根	8月23日
小山	一	義男	男	専26	大阪	9月10日
津谷	寿	義男	男	専28	京都	9月11日
川島	親	義男	男	医校	香川	9月19日
七浦	保次	義男	男	専26	大阪	9月29日
濱口	誠二	義男	男	専21	兵庫	10月4日
神谷	一郎	義男	男	専7	和歌山	10月10日
笠原	勤三	義男	男	専16	兵庫	10月18日
					三重	10月24日

第10回 大阪歯科大学同窓会

全国同窓会員大会

昭和63年11月13日(日)紅葉香る京都都ホテルに全国より同窓の面々が午前10時過ぎ北から南まで多数会員が受付に集まり出し、受付の事務員がうろうろする位の混雑に世話の役員達はういういしく動き、午後1時よりの会員大会会場の本館山城の間に案内していた。セレモニー会場はほどなく満席となった。午後1時新田専務の司会で大会セレモニーの幕は開いた。

森副会長の開会のことばに始まり、物故会員に対し全員が黙禱を捧げ、次いで野添準備委員長の経過報告が行われた。

経過報告

同窓会副会長大会準備委員長

野添静里



本日は公私ご多端のところ、多数ご来賓の皆様ご臨席をいただき、又全国各地より会員・家族の御参加を頂き、かくも盛大に意義深く第10回大阪歯科大学同窓会全国会員大会を開催する事が出来たことを大会委員長と致しまして先づ厚く御礼申し上げます。

では只今から経過報告を申し上げます。

本大会は昭和30年5月1日京都「つる清」において第1回大会が開催されて以来、今回は第10回を迎えるわけでございます。爾来大阪・兵庫・京都が開催地として今日に至って居り、昭和61年12月役員会に於て第10回開催地は京都が内定致しました。

近年大会参加会員が2,000名を越す盛会ぶりでございますので京都に於ける開催会場設定につき収容力、又、大会にふさわしい場所の選定という事で物色いたしましたところ、幸い当都ホテル新館が昭和63年4月竣工という事で、昭和62年3月28日役員会並びに総会におき昭和63年11月13日第10回全国会員大会開催決定、下準備にかかると共に昭和63年3月2日竹内茂前京都府同窓会長が準備委員長として、開催地同窓会としての準備委員会が発足いたしました。

昭和63年3月26日本部同窓会総会に依り奥野喜一同窓会長就任と共に新役員会に於て、11月13日開催の全国会員大会に向っての準備進行状態を確認、「団結と躍進」のスローガン決定、本部同窓会と京都準備委員会を絶えず連携を保ち乍ら今日開催迄の準備を進めて参った次第でございます。

昭和63年4月京都府同窓会総会後竹内前準備委員長の後を引継ぎ、不肖私が準備委員長として今日に至る迄、委員会開催15回、本部同窓会役員との打合せ会5回、その間10月1日には全国支部会長、クラス代表者会議を開催。大会に関するご尽力をお願いすると共に10月28日には当都ホテルにおき、本部常務会と京都準備委員会幹部との合同委員会をもち、度々の会合を重ね懸命に準備を進めて参った次第でございますが、準備不行届のため何かと失礼な点があるかとも存じますが、ご容赦賜われれば幸甚に存じます。

3年後には大学創立80周年を迎えようとして居ります。多年の団結と努力の上に積み重ねて参りました我が大阪歯科大学並びに同窓会の輝かしい歴史の上に本日、又この大会を契機として将来さらに夢多く、稔り豊かなる我々の歴史を積み上げようとしておるのであります。

お互いに助け合い、励まし合い、又信じ合って、益々同窓会の団結と一層の躍進を期し、本大会が意義深く開催されます事を心より願い、経過報告といたします。

次いで同窓会会長、大会会長である奥野喜一先生の式辞が続いた。



式 辞

大阪歯科大学同窓会

第10回全国同窓会会員大会

会 長 奥 野 喜 一

本日は歴史と伝統に輝くわが大阪歯科大学同窓会の第10回全国会員大会を開催いたしましたところ公私共にご多忙の中をまげてご臨席を賜わり錦上花を添えていただきましたご来賓各位にまずもって心より厚く御礼を申し上げます。

また、本同窓会今日の成長・発展の礎をお築きいただきました先輩を始めといたしまして同輩後輩の諸君、そしてご家族の皆様方と共に楽しい和やかなひとときのうちに友情を温め親交を深め合いながらこれからの誓いを共にできますことは私のこの上ない喜びでありますと同時に身の引き締まる思いで一杯であります。

さて昭和30年の5月に第1回の全国校友大会をこの京都の地で開催されて以来30有余年、今や同窓1万有余名を数えるに至り本日のこの盛会を目前にいたしまして誠に今昔の感にたえないところであります。今大会は大変月並みであります、メインテーマを「団結と躍進」と致

しました。このことは全ての組織なり集団の基本でありますし、これなくして組織の存在価値はあり得ないと信じております。敢えて本大会の旗印といたしました真意をお汲取りいただければ幸いです。

私は会長に就任以来いくばくも経過いたしておりませんが前会長奥野半蔵先生は昭和43年4月から20年間会長として今は亡き元学長白数美輝雄先生と手に手を取り合って大学ならびに同窓会の黄金時代を築かれましたが、改めてここに白数先生のご冥福をお祈りし奥野半蔵先生に心からの感謝と敬意の誠を捧げるものでありますと共に私は本同窓会の歴史と伝統の重みと諸先輩の偉大なる母校愛、団結力を身を持って今更ながら実感をしてしております。私はそれらの歴史的事実を踏まえまして広がってまいりました同窓会組織の再点検と整備を行いながら組織を強化しその活性化を進めていかなければならないと考えております。

いまや歯科界全体は医療費抑制と歯科医師増加の相乗作用の影響が大きく出てきており歯科医学、歯科医療の根幹をゆるがしかねない勢いになって参って来ております。更に税制改革、委託技工料問題、民間歯科医療保険、生涯研修、医療法、国保法の改正等々多様な変化の中で危機的状況を迎えております。

従いまして本同窓会の目的であります母校の発展をたすける、会員の福祉・親睦をはかる、歯学の研修に努めるという三本の柱に、歯科界の発展に努めるという新しい柱をたてまして四本柱で全国の歯科大学、歯学部、同窓校友会と緊密な連帯を図りながら日本歯科医師会を鞭撻し危機の時代を乗り越えていかなければならないと決意をいたしております。

わが母校大阪歯科大学は3年後に創立80周年を迎えます。本日の「団結と躍進」をメインテーマにかかげました今大会をバネと致しまして母校創立80周年に向けての力強いスタートをきりたいと思います。そして私たち同窓は世の中の急激で複雑多様な変化に対応し得る自己革新と同窓会の価値観を勇氣を持って創造しながら団結を固め危機の時代を克服し21世紀に向けて着

実に躍進を続けていかなければなりません。私は母校大阪歯科大学の悠久と栄光、歯科界の安定と発展を念じながら同窓会活動に献身の努力を傾注して参りますことをここにお誓い申し上げます。各位のご指導、ご鞭撻ご協力を切にお願い申し上げます次第であります。

最後に今大会の準備万端ご苦労をおかけした大会準備委員長長野添京都府支部会長を初め大会役員の皆様方に心より感謝を申し上げ式辞と致します。

昭和63年11月13日

セレモニー会場万場一斉の拍手の渦しばし止むことなく新しい同窓会活動の幕が開いた感を大きくした場面でした。多数の来賓紹介の後来賓祝辞が始まった。



大阪歯科大学

理事長 北川 正 夫

本日、この盛大な第10回全国同窓会会員大会に学校法人を代表して、御祝辞を申し上げますことを大変嬉しく存じます。

まずは本日の御盛會を心より御祝申し上げます。

私も卒業して53年。

嘗って前理事長 白数美輝雄先生は、

「母校愛とは終始の操なりと、木を見て森を見ず、森の美しさは、遠く離れなければ判らない。」と言われた言葉を今つくづくと実感として味わっているところであります。私はこの純粹で厳肅な式典のなかで、同窓の大先輩の中に、自分の影を見ることができまし、又後輩の中に、大学の伝統の影をみることができのでありまして、全体とは個人の拡大された影像であることを、今はっきりと認識することができるのであります。

皆さん、私のいう影とは、魂でありスピリットであります。大阪歯科大学の伝統とは、目にみえるものではありません。それは家風や国民性と同じで、とらえることのできるものではなく、大学77年の歴史の中で培われてきた文化的遺産であります。そこには創立者や歴代先覚者の、哲学的思想や人間性を反映しながら自然にできあがったものであります。

この伝統ある学風の中で育った同窓の一人一人が日本の歯科医療界の一翼を担ってられる現実を直視するとき私は今さらながら大なる感銘を受けると共に心からの敬意を表するものであります。

本学も今年で創立77年。喜寿の年をむかえたわけではありますが、本学がいささか古い歴史の上に在るとは申せ、いつまでも此の軌跡の上を歩く事は決して容易ではないのであります。

時代の流れと共に変る多種多様な要望とは裏腹に、最近問題化されている、歯科医師の過剰による入学定員の削減、量より質への転換、国庫補助の削減など大学も又きびしい時代を迎えているのであります。

しかしかには厳しい時代になりましようとも私達は、大阪歯科大学存立の意義を明確にし、我国歯学教育の中樞になるべく、不動の地位を確立する所存であります。

今後共皆様方の大学に対する温かい御支援と絶大なるご協力をお願いしまして、本日の挨拶といたします。

昭和63年11月13日



大阪歯科大学

学 長 稗 田 豊 治

錦繡の京都の地に、第10回全国同窓会会員大会が多数の御来賓をお迎えして、かくも盛大に開催されますことを母校大阪歯科大学を代表して心からお慶びとお祝いを申し上げます。

また平素から本学に対して何かと御支援を賜っております御来賓各位に深甚の謝意を申し上げますと存じます。

さて、全国から「団結と躍進」の旗印のもとに集まりました同窓の皆様申し上げます。

私、稗田豊治が前学長森 政和先生の任期満了の後を受け、去る9月1日から光輝ある大阪歯科大学学長に就任いたしました。

大阪歯科大学77年の歴史のなかで、大学になりましてから5代目の学長ということになります。

飯塚淳一郎先生の熟慮、吉崎誓信先生の果敢、白数美輝雄先生の叡智、森 政和先生の篤実、どれ一つをとりましても、私の遠く及ばないところでありますが誠心誠意職務に全力を尽じたいと強く決意いたしておりますことを御報告申し上げますと共に今後の酷しい御鞭撻と温かい御支援を心からお願い申し上げる次第であります。

昨今、私立大学の氷河期といわれる就学年齢層の激減を前にして、一足早く歯科大学、歯学部では入学募集定員の20パーセント削減が来年度から実施されます。歯科教育界にとって危急存亡の秋といえましよう。このことは大阪歯科

大学においても例外ではありません。

由緒ある古き歴史にのみ頼って消え去っていった企業や団体が我々の周囲に多く見られるのであります。

しかし「大阪歯科大学」の名前は絶対消すわけには参りません。

また生き残るための手段としての大学名の変更も許されないのであります。

今こそ大阪歯科大学の全力を挙げてこの苦境に立ち向わねばなりません。

今迄以上に教育の内容を向上させ研究を振興することこそ我が大学の生き残れる道であると堅く信じています。

それには老朽化した施設や設備の更新、教職員の一層の精進も必須のものであり、来るべき大学80周年を目標にこれらの諸問題に取り組んでゆかなければならないと考えています。

同窓の諸氏は勿論、本日御来臨下さいました御来賓各位におかれましても温かい御理解と御援助を心からお願いする次第であります。

「団結と躍進」は同窓会の内のみではなく母校大阪歯科大学と大阪歯科大学同窓会の大きな輪、さらに歯科界全体の旗印とならんことを強く希望いたしまして私の祝辞といたします。



日本歯科医師会
会長 山崎 数男

本当に秋清々しい京都、この地で大阪歯科大学同窓会の第10回会員大会が催されました事に、心から敬意を表したいと思います。昭和45年だったかと思いますが、愛知県の渥美半島でしたか、南にある風光明媚なところで会員大会が当時の奥野半蔵会長、故白数美輝雄先生をはじめ、数多くの会員、またご家族の皆様方が大勢集まられて催された事がございました。当時、奥野半蔵先生は日本歯科医師会会長で、私は常務理事としてお仕えいたしておりました。その時、私は奥野半蔵先生の御命令で挨拶をいたしましたのです。大変驚きました。会員、ご家族の方があい集りまして、和気藹々と全国会員大会を楽しんでおられました。この姿を拝見いたしまして、大阪歯科大学同窓会の何ともいえない家族的な暖かさ、それから力強さを先程、北川理事長がお話しなされましたように形に表わさない建学のスピリットが、精神が、そこに流れておるのを感じた事がございました。

本日、物故会員に我々は黙悼を捧げました。大阪歯科大学の同窓会の先輩には、素晴らしい人材が数多く輩出されました。終戦直後、我々歯科医療界は何処へ行ってもよいのかわからない

状態がございました。その時、西日本の大阪の地にありますこの大阪歯科大学同窓会は、その伝統と人材を育成するというしっかりした厳しい教え方により、国会議員、日本歯科医師会会長、日本歯科医師会の執行部役員とあらゆる人材を送りこみました。それ以後、この40年間余の激動の歯科界の推進役として、指導力を質、量どちらの面からもささえてこられたのが、大阪歯科大学の同窓の皆様なのです。私はこの25年間にわたり、京都、大阪、兵庫と何十回、何百回とまいりました。いつも叱咤激励を受けたり、暖かい励ましの言葉を受けたり、煽てられたり致しました。大阪歯科大学の同窓の一員とまったく同じように、歯に衣をきせず親しく遠慮なく指導をして戴きました。

また色々の事に協力して戴きました。

私、未熟な者ですので大変いたらないのですが、少しでも仕事ができるようにしていただいたのは、本当に大阪歯科大学の同窓の皆様のお陰であります。

奥野喜一会長が申されましたように、歯科界は難問、危機が山積いたしております。この解決の為にどうしても、この伝統あるもっともしっかりした大阪歯科大学同窓会から輩出されている多くの人材のお力を借りるしかないと思っております。

私は、ここにおられます奥野半蔵名誉会長に育てられました。また、奥野喜一会長とは共に協力合って歯科界の為に努力致しました。歯科界内部の事だけでなく、対社会的なレベルで活躍されていますこの気概を後輩に伝えて戴きたいと思います。

又、本日この万端用意いきとどきました式典、宴を準備されました野添静里準備委員長に敬意を表わします。

日本の歯科界の将来をこの大阪歯科大学同窓会が、建学の精神をふまえて、しっかりと安泰にもっていかれたと思います。最後になりましたが、大阪歯科大学と同窓会の発展と繁栄を本日ご参集の皆様のご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

ご静聴ありがとうございます。



日本大学歯学部同窓会

会長 伊東祐光

本日は本当におめでとうございます。なんで私が代表で挨拶をしなきゃならないかなと考えながら、実は今日、新幹線に乗ってまいりました。これは私の考え方としましては、若い頃から奥野喜一先生といっしょに仕事をした仲でございます。まして奥野半蔵先生には、医政の道を教わった門下生の一人でございます。そういう様な事で、たまたま似通っているという事で、おそらく私に、お前代表で祝辞を述べろよという事を言っていたかたんだらうと言うふうには私は思いまして、非常に感激しているわけでございます。

今日の大会の中で「団結と躍進」というテーマでございますが、さきほど奥野会長は、「月並み」という言葉を言われたのでございますが、私は今ほどこのテーマが生きてくるのではないかというふうに思うわけでございます。山崎会長もこの今の我々業界の非常に厳しい環境の中で孤軍奮闘されておりますが、もちろん今度は山崎会長の中で、副会長その他の役員の先生方が非常にベテランで、日本歯科医師会も孤軍奮闘している様でございますが、なかなか敵もさる事ながら、先程の話の中で、歯科医の過剰問題、いろんな問題が出てまいります。これはちょっとやそつとでかたずかない内容の様でございますので、今までの我々のあり方であって、

ちっとも進んでいかない。多少、攻撃的な感覚を持たなければならないというのが、私のいつもの持論でございます。

実は私は今日まいりまして、非常にうらやましく思ったという事は、奥野会長、もちろん歴代の伝統ある同窓会でございますので、全国にこの動員をかけた時にこれだけの会員が集まってくるという事は、同窓会あるいは、学校愛よりほかに私はなにものもないというふうに思います。日本歯科医師会が現在がんばっておるわけでございますが、それぞれの学校の卒業生が集まった会が日本歯科医師会でございます。したがって私は、それぞれの同窓会から、又、学校から巣立った人達が会員である以上は、お前さん、あんたはどこの出だと聞いた時やはり日本大学歯学部同窓会、そういう様な私は感じを持って卒業の皆さんにいつも申し上げているわけでございますが、今こそ私は、こういう風な体制の中で日本歯科医師会をバックアップしていくと言う事が必要ではなかろうかというふうに現在も思っております。その点におきましては非常に奥野喜一会長は、会長になりましてからまだ日がたっておりませんけれども、これだけ動員をできると、これはもちろん奥野喜一先生一人ではございませんが、奥野先生についている各役員の力がえらい強かったというふうに思うわけでございます。今日は多く語る場ではございませんが、申し上げたいと思います。各同窓会役員もみんな来ている様でございますが、是非、大阪の奥野喜一会長又、各役員をなさっている先生方を推進人として、歯科界を盛り上げていていただきたい。そういう事について、我々は少しの疑いもなく、又、信頼度を高めながら私は全国一本になっていけるという自信をもっております。それでもって私は日本歯科医師会を我々が盛り上げていかなければならないという考え方に燃えております。

東京からまいって、関西の方は、私はよくわかりませんが、奥野半蔵先生に、いろいろ医政の内容もおそわった一人でございますので、いよいよここまできたという感じを、現在、私は持っております。

是非、先生方も我々と一緒になって日本歯科医師会を盛り上げて、日本歯科医師会を盛り上げるという事は、我々の業界を盛り上げて行くという事、したがって我々の生活もそうであるという事を考えながら、お互いがんばって行きたいと思います。又、がんばりましょう。今日はおめでとうございます。

開宴のことば

副会長 村井俊郎



乾杯



アトラクション

郷土芸能 六斎念仏踊り



学歌斉唱

万才三唱



閉会のことば

副会長 村上 勝



午後5時過ぎ夕暮れ迫る京都ホテルを後に2千を超える同窓会員は次の大会に向けて進みはじめ、新しい奥野喜一同窓会長の活動力を期待して三三五五帰途について行きました。

祝電披露の後、前会長奥野半蔵先生に対する感謝状贈呈が行われ、大きな拍手のなか20年間に亘った同窓会活動の第一線から引退されたのです。



約1時間続いたセレモニーも盛会裡に、副会長松本博先生の閉会のことばで終わりました。

第二部の懇親会は午後3時より新館4階「瑞穂の間」に移動して開かれました。

邦楽合奏



大阪歯科大学同窓会

第10回全国会員大会に出席して

大阪大学歯学部同窓会兵庫県支部

会長 村田 石 雄

大阪歯科大学同窓会は、大学創設77年の歴史に支えられ、過去、歯科界のリーダーが輩出し、また全国の歯科医師会への人材を数多く送り出しています。この同窓会が開く4年に一度の全国大会に、前回の神戸での大会に続いて、出席できる機会を得ました。

今回、第10回を迎えた大会は“団結と躍進”をスローガンに掲げ、二千数百名という多くの会員が一同に会し、その基本に流れる同窓会意識が、会場に満ちあふれ、その高ぶりは、重大な局面を迎えている歯科界にとって数限りない勇気を与えることができたと感じたのは小生だけではないでしょう。

この大会にご招待を受け出席させて頂き、数多くの歯科界の先輩、後輩の方々と楽しく交歓できる機会を与えて頂いた大会々長奥野喜一先生をはじめとする役員諸兄に心より感謝致します。

第10回全国大会

祝宴会場インタビュー

荒垣 一郎 日大歯学部支部長

実に盛大な活気のある会に出席させて頂きありがとうございます。これからますます大阪歯科大学の発展を期待いたしております。

堀井 正雄 日本歯科大学支部長

まさに団結と躍進そのままの会に出席できて光栄です。

浅野 正弘 愛知学院大学歯学部

大阪歯科大学同窓会の団結力はすごいなと肌で感じました。これからもご指導お願い致します。

斎藤 武公 神奈川歯科大学

奥野喜一同窓会会長の団結と躍進を実行された会だと思います。これからも体に気をつけられて、我々をひっぱっていただければ光栄です。

専6 佐竹 正世

全国大会は毎回出席しています。

大変うれしいです。同級生を探しているのですが、だれも見当らず、奥野（半蔵）君とわたしの2人だけで、ちょっと淋しいです。

専21 愛敬 弘成

非常に盛会でよかったですね。

奥野会長も満足だろうと思いますよ。

一昨日から来ていますので、もうすぐ帰りますが、次回も楽しみにしています。

専22 毛利 弭（大分）

奥野半蔵さんが引退されて、同期の奥野喜一君が会長になり、新しい時代に対応できる同窓会づくりが、今日第一歩を踏み出したと思う。そういう意味で、今日は式典から、懇親会まで、大変うれしい。

将来に新しい希望を持って、同窓会の一員として一生懸命やりたい。

大16 吉田 国厚（奈良）

にぎやかで、大変結構です。

お祭りをあまり見たことがないので、アトラクションに興味がかかります。

久しぶりの同級生の顔が見られてうれしいですね。

藤田 弘（大8回）

懇親会のプロローグが少し長すぎたのではないですか。でも、「団結と躍進」のスローガンを掲げたこの大会に参加して大いに意義がありました。

二宮 隆（大11回）

伊吹山の麓の片田舎で診療していると、都会に出てくるだけで環境の変化に戸惑いますが、卒業して久しぶりに会員大会に参加したので感激はより大きなものがあります。

牧 宏（大13回）

今回は家族で参加させていただきましたが、娘も年ごろになりましたのでいい花婿候補はいないですね。息子もぜひ、大歯に入学したいと張りきっています。

大谷光惟（大15回）

西宮の友人といっしょに参加しましたが会員大会を大いに楽しませていただいています。

学長就任にあたって

大阪歯科大学

学 長 稗 田 豊 治

森政和前学長の任期満了の後をうけ、昭和63年9月1日付で、伝統ある大阪歯科大学の学長に就任いたしました。浅学非才の身であります。同窓生諸氏の御支援を心からお願い申し上げます。次第であります。

さて、母校大阪歯科大学は、3年後の1991年には創立80周年を迎えることになります。

大学とか同窓会の組織の中にいますと、伝統の重さや歴史について、つい忘れ勝ちになりますが、他の組織との比較や、置かれた立場によっては、目に見えない伝統の大きさに驚かされることがあります。

この光輝ある大阪歯科大学を築き、育てこられた歴代の理事長、校長、学長をはじめ時の指導者達、また、大学に連なる組織の方々や学生諸君の御努力に対して満腔の敬意と感謝を申し上げます。と同時に、今後の大阪歯科大学の伝統の継承とさらに発展的向上の責務を考えますとき、その任の重さを痛感している次第です。

日本の教育界を展望しますと、社会構造の変化や、人口の年齢的構成比の変化等によって、高等教育の様相の大きな変化が予想されています。昭和70年からは、大学進学適齢者が漸減し、昭和80年になると、数の上だけでは入学希望者と入学定員が完全に合致するといわれています。すなわち浪人0の時代がやってくるわけであり。そして、大学の序列化は益々進行し、特色のない大学、評判のよくない大学は脱落してゆかざるを得ないといわれています。大学の危機、大学の氷河期といわれるゆえんであります。このような危機が歯科大学、歯学部には一足早く訪れてきています。それは、入学定員削減問題であります。

歯科歯師過剰問題に端を発し、行政の責務と考えられる歯科医療の全国的な適正配置に手がつけられることのないまま大学の入学定員の削減が行なわれ、既に10%減が実施され、加えて昭和64年入学者からはさらに20%減ということが申し合わされ、本学でも128名の入学定員ということで決定しています。医師の過剰問題は最終的に10%減ということで定着しそうですが、歯科大学、歯学部のみが20%減ということでもあります。

過去に歯科医療担当者の養成が私立の歯科大学によって行われてきた歴史的背景からみて、このような事態は大学経営の根元をゆるがす一大事であるといわねばなりません。

その上、定員の削減は、多くのそれぞれの大学の同窓の子弟の母校への入学希望に対して障害になることも自明の理であります。

これらのことは、本学においても例外ではなく、大学の経営的基盤の立て直しが必要とされることとなりますし、今迄より以上に教育、研究の内容の充実をはかってゆかねばなりません。学内外にこのような理解と協力を求めながら母校の危機を乗り越え、明るい希望のある大阪歯科大学を目標として努力してゆきたいと考えています。同窓会員の皆様におかれても、母校衰微して、同窓会のみ栄えるということはありません。同窓会に心を致して頂き、同窓会の目的の一つである大阪歯科大学の発展への援助という精神に立ちかえって心強い御援助を給わらんことをお願いいたします。

昭和63年師走

故 大阪歯科大学
名誉教授

松岡操一先生ご逝去



弔 辞

本日ここに社団法人大阪府歯科医師会東区支部所属終身会員松岡操一先生の告別の儀がしめやかにとり行われますに当たり、4600大阪府歯科医師会会員を代表し、つつしんで哀悼の意を表します。

顧みますれば先生は、明治32年6月9日山口県光市にお生れになり、少年期をのどかな郷里でお過しになられましたが、やがて歯科医師こそ我が天職と笈を負うてご来阪になり、大正デモクラシーのさなか大阪歯科大学の前身であります、大阪歯科医学校にご入学になられ、ひたすら近代歯科医学をご研鑽になり、大正6年春同校をご卒業されましたが、ご卒業後も歯学に対する向学心深く、いまだ歯科界揺籃の期にありまして、情熱を大陸にはせアメリカに渡ってテキサス歯科大学に入学して歯学を深められ、大正13年秋ご帰国とともに母校大阪歯科医学専門学校におもどりになり、昭和26年まで補綴学教授をつとめられて、歯科教育にご尽力、先生の薫陶を受けた多くの歯科医師が今日、地域歯科医療の第一線で活躍いたしております。

その後、縁の北浜の地にご開業されましたのは戦後の混乱のさなかの昭和24年のことでしたが、その間最初の国家試験委員、大阪歯科大学校友会会長をはじめ、歯科界の数々の要職を永年にわたって歴任され、赫々たるご足跡を残されました。

性格温厚にして篤実、人と大切に接することを一途に歩まれた楽天の士、忽然として幽冥境を異にされ明治の遠くなり行くを感じます。

松岡先生、どうか安らかな黄泉の旅につかれ、ご遺族の前途にご加護たれたまわらんことを念じ、また、ご生前中の数々のご業績に対し衷心より感謝と敬意を表し、お別れの言葉といたします。

昭和63年11月30日

社団法人 大阪府歯科医師会
会 長 奥野 喜一

略 歴

明治32年6月9日 山口県光市に誕生
 大正4年4月 大阪歯科医学校へ入学
 大正6年3月 同校卒業
 大正6年9月 文部省歯科医術開業学説試験に及第
 大正7年9月 文部省実地試験に合格す
 大正8年4月 歯科学研究のため北米合衆国及英領カナダ留学す
 大正9年12月 歯科医師免許証を受領す。内務省（第6154号）
 大正13年9月 北米合衆国テキサス州ヒューストン市テキサス歯科大学に入学
 大正14年5月 テキサス歯科大学を卒業しドクター・オブ・デンタルサーゼリーの称号を受く
 大正14年9月 大阪歯科医学専門学校助手を命ぜらる
 昭和元年12月 大阪歯科医学専門学校助教授に任ぜらる
 昭和3年4月 技工学及同実習及矯正実習の担任を命ぜらる
 昭和7年12月 同校教授に任ぜらる
 昭和12年4月 同校附属病院副院長に命ぜらる
 昭和21年 歯科医師国家試験委員
 昭和22年1月 附属病院副院長を辞任す
 昭和26年 大阪歯科大学教授
 校友会々長
 昭和35年3月 京都大学より医学博士の学位授与さる。主論文「歯牙の体液循環に関する研究特に歯髓の通液路について」
 大阪府歯科医師会理事
 昭和63年11月 没

理事・支部長・クラス会代表者合同会議日程

大阪歯科大学同窓会

日 時 昭和63年10月1日(土)午後3時

場 所 太 閤 園 ゴールデンホール

司 会 常務理事 志 築 照 和

1. 開会のことば 副 会 長 松 本 博
2. 会 長 挨 拶 会 長 奥 野 喜 一
3. 来 賓 挨 拶 理 事 長 北 川 正 夫
学 長 稗 田 豊 治
4. 来 賓 紹 介 常務理事 辻 本 信 輝
5. 座 長 選 出 副 会 長 山 崎 弘
6. 議事録署名人指名 専31 成 瀬 悟 大5 前 田 孝 俊
7. 報 告
会 務 報 告 専務理事 新 田 孟
学 内 報 告 副 会 長 西 浦 恂
日歯関係報告 副 会 長 村 井 俊 郎
8. 協 議
1. 第10回全国会員大会について

2. その他
9. 閉会のことば 副 会 長 渡 部 潔

合 同 会 議

会長あいさつ

会 長 奥 野 喜 一

4月から私が同窓会をお預りさせていただくことになった。微力のため、よろしくご協力をお願いしたい。

全国大会を是が非でも成功させねばならないということで、お集りをいただいた。

就任以来、各府県、クラス会の方にごあいさつをしているが、同窓の先生方とお話しして感じたことは、同窓は全て平等でなければならないということです。特に東北地方などでは、同窓が点々としているので、母校・同窓会からの暖かい手を差し伸べて欲しいということを感じた。

同窓会の運営については、近畿偏重にならないよう考えたい。

つぎに、子弟を母校に行かせたい、何とかならないか、という声をよく聞きます。

大学は社会的公正という立場で考えていると思うが、我が母校は同窓の大学というのが今日まで受け継いできた大歯の精神の中核をなすものだと思う。

子弟が大歯に受け入れられないというような場合、そこから何が生まれるかということを大学のほうでも考えていただきたい。

今回、稗田先生が新学長として手腕を発揮されることと思うが、同窓の手によって、ここまで発展してきた同窓会を、どのようにお考えになっているか、お聞きしておきたい。

昭和70年以降には、大学も大きな正念場を迎えることになるが、その時一番頼りになるのは同窓だと思う。

同窓会が大学の発展に寄与していくためには、力を合わせて、組織を強くし、活力を出し、エネルギーを結集しなければならない。

これからの目標になってくると思う。

来賓あいさつ

理事長 北 川 正 夫

みなさまのお元気な姿を拝見してうれしく思います。私は卒業して54年になるが、若き青春時代の友情は永遠であるということを実感している。

同窓というのは集まらねばならない。集まることで交歓が深まり、同窓会が、大学が成長してくると思う。大学も情勢の変化で、困難な立場に立たされている。

昔は300人近くを迎えたこともあったが、いまは、その3分の1程度の人数に減ってきた。奥野会長の話も真摯に受けとめている。

大学も同窓のことは十分に考えていきたい。

大学をよりベターにするため、最善を尽したいと思う。

稗田学長は私の親友であり、師である。学長ともども、二人三脚で大学発展のため力を尽したいと思う。

大歯の集団的指導力とは、理解と協同、友愛と信頼の上に成り立っているものである。

全国大会には、これを遺憾なく発揮していただきたい。

学 長 稗 田 豊 治

大歯は本年で77年を迎えることになった。

大学の周辺を見まわすと難問が山積みしている。例えば、歯科医師過剰問題に端を発した入学定員の10%減が62年から始まり、64年は20%減という申し合わせがあり、本学でも128人という入学定員が決定している。

これは大学にとっても大変なことで、本学に入学希望される方でも、なかなか入り難いという数であり、私たちも十分覚悟しなければならないと思っている。

入学者減ということは、大歯の経済的基盤も脅かすという段階にきており、本校の存亡にもかかわるとみている。

出席者名簿

学内教授 (敬称略)

稗田 豊治	中村 正明
山岡 昭	井上 宏
森 政和	東 義景
高須 淳	田中 昭男
小西 浩二	宮森 康雄
佐川 寛典	野田 寛
藤井 弁次	倉橋 浩一
毛利 学	本多 伊平
川添 堯彬	豊田 紘一
福田 稔	新池 孜

支部会長

北海道	杉沢 健司	専28
青森県	中川 登	専30
岩手県	島津 富	専29
山形県	片山 俊彌	専32
愛知県	益川 武夫	専27
岐阜県	長井 昭三	専29
三重県	森 宏	専22
富山県	魚津 竹男	専30
石川県	竹内 太郎	専31
福井県	大家 淳	大2
滋賀県	井田 勝造	専24
京都府	野添 静里	専27
奈良県	平井 康允	専29
和歌山県	久保 昌弘	専17
大阪府	奥野 喜一	専22
兵庫県	村井 俊郎	専25
岡山県	森本 太郎	専25
広島県	山崎 泰義	専29
鳥取県	谷口 博通	専32
島根県	磯遊 賢三	大4
香川県	鶴田 昭雄	専32
徳島県	川原 和敬	専31
愛媛県	野村 寿郎	専29

高知県	永吉 正武	専23
佐賀県	松枝佐次郎	専16
長崎県	寺田 弘喜	専25
熊本県	鶴田 実馬	専25
大分県	数野 正	専17
宮崎県	山崎 弘	専25
鹿児島県	今井 哲四	専16

クラス会代表者

平林 兼吉	医校	新海 研志	大3
徳永 清加	専2	末廣 達也	大4
西田芳太郎	専5	大野 一郎	大6
佐竹 正世	専6	西海 啓之	大7
西川 黄波	専7	三谷 卓	大8
西川 勝雄	専8	石堂 越夫	大9
横田 正夫	専9	加納 晴彦	大10
天野藤太郎	専10	大頭 孝三	大12
市村 隆三	専11	松田 毅	大13
増田 逯平	専13	大西 洋二	大14
尾崎 貞隆	専15	太田 利光	大15
竹内豊次郎	専16	小室 樹	大17
岩間 宏	専17	蓮舎 勝克	大18
大崎波真治	専18	山崎 一郎	大19
谷上 利夫	専19	森井 徹雄	大20
磯島吉之祐	専20	太田 謙司	大23
尾持 二郎	専21	末瀬 一彦	大24
橘高 邦典	専22	竹村 明道	大26
花岡 友三	専23	杉本 将憲	大27
矢谷 澄	専26	栗原 良浩	大29
菊池 泰	専27	西川 義公	大31
伊崎 信雄	専28	長谷川一弘	大32
加藤喜久雄	専29	嶋村 清次	大33
大迫 仁	専31	城使 万司	大34
石崎 彦介	医定	阪田 昌英	大35
天津 典男	大1	三谷 徹	大36

同窓会役員

会 長	奥野 喜一	専22
副 会 長	森 宏	専22
"	村井 俊郎	専25
"	森本 太郎	専25
"	山崎 弘	専25
"	野添 静里	専27
"	益川 武夫	専27
"	有山 金吾	専28
"	松本 博	専28
"	西浦 恂	専28
"	渡部 潔	専32
専務理事	新田 孟	専30
常務理事	井田 勝造	専24
(組織)		
"	志築 照和	専28
(渉外)		
"	田中 正忠	専28
(組織)		
"	辻本 信輝	専29
(渉外)		
"	加藤喜久雄	専29
(組織)		
"	伊藤 彰彦	専29
(福祉)		
"	山口 昭郎	専29
(組織)		
"	上領 清範	専31
(福祉)		
"	竹内 太郎	専31
(渉外)		
"	中塚 裕	専32
(渉外)		
"	鶴田 昭雄	専32
(組織)		
"	長濱 禎昭	大 1
(渉外)		
"	岡本 圭史	大 2
(学術)		
"	藤原 一成	大 3
(編集)		
"	新海 研志	大 3
(福祉)		
"	坂本 茂樹	大 3
(組織)		
"	田中 紀生	大 4
(組織)		
"	水谷 光孝	大 5
(庶務)		
"	沢田 稔	大 7
(渉外)		
"	三谷 卓	大 8
(会計)		
"	緒方 満	大10
(渉外)		
"	岡 邦恭	大11
(渉外)		

"	橋本 猛伸	大12
(庶務)		
"	田治米保夫	大12
(学術)		
"	黒川 森夫	大12
(学術)		
"	井堂 孝純	大13
(編集)		
"	松田 毅	大13
(渉外)		

庶務部

理 事	高垣雄二郎	専22	大 阪 府
"	大内 弘	専28	大 阪 府
"	吉田 厚雄	専31	大 阪 府
"	那須 義文	専32	大 阪 府
"	野村 実	専32	石 川 県
"	美田 良治	専32	兵 庫 県
"	山本 直哉	大 1	滋 賀 県
"	嘉ノ海昭吾	大 3	兵 庫 県
"	岡田 利雄	大 4	兵 庫 県
"	福原 英晃	大 5	大 阪 府
"	前田 孝俊	大 5	兵 庫 県
"	三村 敏郎	大 7	大 阪 府
"	富田 之康	大 8	大 阪 府
"	田中 利幸	大10	大 阪 府
"	吉田 隆行	大12	岡 山 県
"	蒲生 洵	大15	大 阪 府
"	岡本 学	大16	大 阪 府
"	山崎 一郎	大19	大 阪 府

会計部

理 事	川口 秀夫	専22	大 阪 府
"	多名部金徳	専30	大 阪 府
"	牛嶋 奎宇	専32	大 阪 府
"	今井 政一	専32	大 阪 府
"	斉藤 精司	大 3	京 都 府
"	山村 純雄	大 4	大 阪 府
"	井上 弘	大 7	大 阪 府
"	三坂 明美	大 7	兵 庫 県
"	森田 龍雄	大10	大 阪 府
"	津谷 功	大12	兵 庫 県
"	小室 智	大13	大 阪 府
"	中谷 勝	大15	大 阪 府

組 織 部

理 事	久保 昌弘	専17	和歌山県
"	磯島吉之祐	専20	兵庫 県
"	橋高 邦典	専22	大 阪 府
"	安田 良三	専23	大 阪 府
"	田村 正	専26	兵庫 県
"	瀧野 俊一	専26	兵庫 県
"	木村幸三郎	専27	大 阪 府
"	吉光 照夫	専28	広 島 県
"	杉沢 健司	専28	北 海 道
"	松本 治男	専29	鳥 取 県
"	平井 康允	専29	奈 良 県
"	長井 圭作	専30	三 重 県
"	井上 敏治	専31	大 阪 府
"	白石 好夫	専32	岡 山 県
"	佐久間正敏	専32	島 根 県
"	磯貝 満彦	専32	愛 知 県
"	山元 祐次	大 1	滋 賀 県
"	村上 義和	大 4	福 岡 県
"	光満 寛守	大 6	大 阪 府
"	宮尾 昌顕	大 8	和歌山県
"	桜井 守	大 8	滋 賀 県
"	安田 修	大 8	愛 知 県
"	吉田 耕次	大 9	大 阪 府
"	西岡 忠文	大10	香 川 県
"	田中 清隆	大10	岐 阜 県
"	竜門 逸弘	大11	大 阪 府
"	野冽 秀孝	大13	大 阪 府
"	坪井 康修	大14	大 阪 府
"	蓮舎 勝克	大18	大 阪 府
"	森井 徹雄	大20	大 阪 府
"	太田 謙司	大23	大 阪 府

学 術 部

理 事	片尾 信之	専24	京 都 府
"	鈴木 能弘	専25	京 都 府
"	花岡 繁一	専27	奈 良 県
"	大塚 礼三	専30	大 阪 府
"	上田 正治	専30	京 都 府
"	成瀬 悟	専31	大 阪 府
"	鈴木 住尚	専32	和歌山県

"	坂口 可子	専32	大 阪 府
"	西田 真和	大 2	兵 庫 県
"	久保 龍三	大 5	兵 庫 県
"	岩崎 重信	大 6	京 都 府
"	飛田 昇	大 6	京 都 府
"	井関 功	大 8	和歌山県
"	野阪 嵩	大 8	奈 良 県
"	富永 才助	大 9	滋 賀 県
"	中村 守良	大 9	大 阪 府
"	井上 浩一	大 9	岡 山 県
"	土井 昭勝	大11	大 阪 府
"	森 弘温	大11	大 阪 府
"	太田 利光	大15	大 阪 府
"	大谷 弘	大15	大 阪 府
"	住谷 道夫	大15	兵 庫 県
"	小室 樹	大17	大 阪 府
"	小林 徹	大18	兵 庫 県

福 祉 部

理 事	守下 辰弘	専22	大 阪 府
"	内海 利正	専24	兵 庫 県
"	寺西 敏一	専25	兵 庫 県
"	山崎 泰義	専29	広 島 県
"	小林 三郎	専30	大 阪 府
"	入江 正信	専31	大 阪 府
"	上西 淳伺	専32	和歌山県
"	三浦 康宏	専32	大 阪 府
"	加藤 武男	専32	滋 賀 県
"	下村銭三郎	大 7	大 阪 府
"	龍門 睦正	大 8	大 阪 府
"	石堂 越夫	大 9	大 阪 府
"	奥田 正計	大10	大 阪 府
"	服部 素直	大10	京 都 府
"	稲塚 英樹	大11	京 都 府
"	明石 貴雄	大12	兵 庫 県
"	山口 隆久	大15	大 阪 府
"	浅田 貞琴	大15	京 都 府
"	服部 孝司	大15	岡 山 県

編集 部

理 事	川村 幸雄	大 3	兵 庫 県
"	村田 安充	大 4	大 阪 府
"	天方 孝彦	大 4	兵 庫 県
"	米本 優	大 9	奈 良 県
"	水田 吉彦	大10	兵 庫 県
"	菱田 稔	大11	大 阪 府
"	後藤 進	大13	大 阪 府
"	金田 順三	大13	大 阪 府
"	山口 省三	大13	兵 庫 県
"	豊川 輝久	大16	兵 庫 県
"	井芹 令雄	大17	兵 庫 県
"	濱田 明嗣	大18	京 都 府
"	岩井 康容	大20	大 阪 府
"	比良野政彦	大20	大 阪 府

法 人 役 員

理 事 長	北川 正夫	専14
常務理事	森 政和	専26
理 事	加藤 信一	専18
"	稗田 豊治	専27
"	宮森 康雄	
監 事	和田 正治	専15
"	奥野 喜一	専22

渉 外 部

理 事	久木 竹久	専28	滋 賀 県
"	内藤 清	専31	愛 知 県
"	藤井 啓史	大 5	大 阪 府
"	川田 雄祥	大 6	徳 島 県
"	村瀬 進	大 7	兵 庫 県
"	長谷川博久	大 9	京 都 府
"	尾上 徹	大12	京 都 府

監 事

監 事	津島 大麓	専20	兵 庫 県
"	河上 泰男	専24	京 都 府

顧問、相談役

顧 問	北川 正夫	専14	京 都 府
"	多和 敏一	専14	関 東
"	森 政和	専26	大 阪 府
"	稗田 豊治	専27	大 阪 府
相 談 役	加藤 信一	専18	大 阪 府
"	筒井 正弘	専22	奈 良 県
"	松本 清	専24	兵 庫 県

会 務 報 告

第 2 回 理 事 会

支部会長・クラス会代表者会議

(63年4月1日～9月20日迄)

昭和63年10月1日

大阪歯科大学同窓会

1. 会 員

会員数	12,946名	死亡会員	2,679名
現在数	10,016名	不 明	251名

2. 物 故 者 (本 人)

死亡年月日	支 部	卒回	氏 名
6 3. 4. 1	大 阪 府	専16回	梅 野 邦 雄
6 3. 4. 3	大 阪 府	専18回	中 達 幸 三
6 3. 4. 5	香 川 県	専17回	小 谷 敏 春
6 3. 4. 9	広 島 県	専 7 回	堀 部 善 克
6 3. 4. 12	大 阪 府	専12回	福 嶋 国 臣
6 3. 4. 16	台 湾	専18回	施 克 淵
6 3. 4. 20	鳥 取 県	専30回	森 本 郁 雄
6 3. 4. 25	大 阪 府	専11回	内 海 潤
6 3. 4. 29	大 阪 府	専15回	谷 田 弘
6 3. 4. 30	大 阪 府	大 2 回	中 川 清 資
6 3. 5. 3	香 川 県	医 校	高 橋 太 文
6 3. 5. 7	関 東	専13回	三 宅 東 光
6 3. 5. 14	大 阪 府	専14回	中 島 徳 三 郎
6 3. 5. 26	奈 良 県	専17回	飯 田 四 良
6 3. 6. 1	宮 崎 県	専17回	井 上 敏 文
6 3. 6. 4	京 都 府	医 校	矢 谷 敬 吉
6 3. 6. 5	広 島 県	専15回	岡 村 敏 行
6 3. 6. 8	大 阪 府	専10回	南 清

死亡年月日	支 部	卒回	氏 名
6 3. 6. 1 1	北 海 道	専18回	杉 村 薫
6 3. 6. 1 1	大 分 県	賛 助	藤 川 益 一
6 3. 6. 1 3	大 阪 府	専 6 回	山 本 初之助
6 3. 6. 1 3	大 阪 府	医 定	烏 越 重 男
6 3. 6. 2 2	兵 庫 県	専11回	玉 川 義 男
6 3. 6. 3 0	大 阪 府	専10回	吉 田 太 郎
6 3. 7. 3	奈 良 県	専14回	永 長 久 通
6 3. 7. 5	関 東	専11回	長 井 丈 二
6 3. 7. 1 0	兵 庫 県	専 8 回	太 田 實
6 3. 7. 1 1	京 都 府	専26回	奈 波 文 雄
6 3. 7. 1 3	京 都 府	専28回	大 城 和一郎
6 3. 7. 1 5	兵 庫 県	専 5 回	阿 部 勉
6 3. 7. 1 5	大 阪 府	大36回	徳 田 仁
6 3. 7. 2 1	大 阪 府	専 7 回	岡 生佳男
6 3. 7. 2 9	兵 庫 県	専13回	本 多 敬 男
6 3. 8. 1	奈 良 県	専13回	有 城 義 男
6 3. 8. 2	京 都 府	専22回	木 村 正 二
6 3. 8. 7	愛 媛 県	専18回	真 鍋 祈
6 3. 8. 8	広 島 県	専 6 回	武 田 明 人
6 3. 8. 1 1	京 都 府	専23回	中 村 清 一
6 3. 8. 1 2	兵 庫 県	大 7 回	中 村 敬
6 3. 8. 1 3	岐 阜 県	専31回	後 藤 優
6 3. 8. 2 3	島 根 県	医 校	太 田 甲之助
6 3. 9. 1 0	大 阪 府	専22回	服 部 寿 二
6 3. 9. 1 1	京 都 府	専26回	小 山 一
6 3. 9. 1 9	香 川 県	専28回	津 谷 寿

計 4 4 名

(家 族) (一親等・配偶者)

死亡年月日	支 部	卒回	氏 名	続柄
6 3. 4. 3	滋 賀 県	大 12	坂 本 信 行	母
6 3. 4. 5	京 都 府	大 5	小 島 正 嗣	母
6 3. 4. 9	大 阪 府	大 8	鈴 木 宏 一	母
6 3. 4. 9	大 阪 府	大 19	川 井 量 司	父
6 3. 4. 9	京 都 府	大 30	松 尾 博 之	父
6 3. 4. 13	大 阪 府	大 3	坂 本 和 夫	母
6 3. 4. 13	兵 庫 県	大 26	木 下 昌 広	父
6 3. 4. 30	山 口 県	大 7	蔵 田 克 彦	父
6 3. 5. 5	兵 庫 県	大 8	藤 尾 豊	母
6 3. 5. 7	京 都 府	大 9	小 川 由 基	父
6 3. 5. 8	香 川 県	大 15	古 市 明	父
6 3. 5. 8	京 都 府	大 23	奥 田 耕 三	母
6 3. 5. 9	大 阪 府	専 21	板 谷 禎 二	妻
6 3. 5. 12	大 阪 府	大 5	寺 野 清	母
6 3. 5. 19	大 阪 府	大 13	松 村 道 哉	母
6 3. 5. 22	大 阪 府	大 7	脇 幸 子	母
6 3. 6. 22	岡 山 県	大 9	中 井 宏 之	母
6 3. 5. 25	大 阪 府	専 32	木 村 慎一郎	父
6 3. 6. 1	大 阪 府	大 28	森 出 享 弘	父
6 3. 6. 2	大 阪 府	大 17	里 見 雅 輝	父
6 3. 6. 4	兵 庫 県	大 24	松 本 重 之	父
6 3. 6. 17	京 都 府	専 28	曾 根 徳 郎	母
6 3. 6. 17	大 阪 府	大 2	寺 内 一 彦	父
6 3. 6. 17	大 阪 府	大 18	片 桐 英 一	父
6 3. 6. 18	兵 庫 県	専 22	和 田 茂 之	父
6 3. 6. 28	大 阪 府	大 12	新 井 清	母
6 3. 6. 28	徳 島 県	大 23	松 島 寛	父
6 3. 7. 7	京 都 府	専 30	中 川 米 三	母

死亡年月日	支 部	卒回	氏 名	続柄
6 3. 7. 8	奈 良 県	専 32	白 井 健 裕	母
6 3. 7. 10	大 阪 府	大 15	有 田 弘	母
6 3. 7. 14	大 阪 府	専 25	三 島 吉 博	母
6 3. 7. 14	奈 良 県	専 26	吉 田 家 久	母
6 3. 7. 14	高 知 県	大 12	倉 橋 征 司	母
6 3. 7. 18	広 島 県	大 24	河 村 久 輝	母
6 3. 7. 21	大 阪 府	大 8	川 本 孝 寛	父
6 3. 7. 24	兵 庫 県	専 30	保 井 諸 至	妻
6 3. 7. 24	熊 本 県	大 18	岡 田 知 久	母
6 3. 7. 25	奈 良 県	大 10	八 尾 義 春	父
6 3. 7. 31	島 根 県	大 11	永 井 克 正	母
6 3. 8. 2	大 阪 府	専 32	太 田 正	母
6 3. 8. 3	大 分 県	専 7	福 原 季 好	妻
6 3. 8. 3	広 島 県	大 6	斉 藤 和 三	母
6 3. 8. 3	京 都 府	大 19	志 賀 収	父
6 3. 8. 9	三 重 県	大 3	岡 田 実 之	長男
6 3. 8. 11	和 歌 山 県	大 2	山 本 哲 夫	父
6 3. 8. 11	京 都 府	大 11	稲 塚 英 樹	母
6 3. 8. 13	京 都 府	専 29	松 岡 巖	父
6 3. 8. 13	大 阪 府	専 30	阪 田 晴 夫	母
6 3. 8. 14	奈 良 県	専 28	木 村 雅 行	父
6 3. 8. 16	和 歌 山 県	大 8	岩 橋 延 直	母
6 3. 8. 21	京 都 府	賛 助	柿 木 義 夫	父
6 3. 8. 24	広 島 県	大 2	波 田 次 郎	母
6 3. 8. 29	大 阪 府	大 9	森 田 吉 彦	母
6 3. 9. 1	大 阪 府	大 26	野 口 吉 廣	母
6 3. 9. 3	滋 賀 県	大 1	山 本 直 哉	母
6 3. 9. 7	三 重 県	専 32	松 本 実	父
6 3. 9. 9	大 阪 府	大 27	杉 本 将 憲	父

死亡年月日	支 部	卒回	氏 名	続柄
6 3. 9. 1 0	岡 山 県	専 28	池 田 一 雄	母
6 3. 9. 1 2	大 阪 府	専 8	横小路 義 和	妻
6 3. 9. 1 2	大 阪 府	大 35	共 田 義 和	父
6 3. 9. 1 6	滋 賀 県	専 32	西 川 勉	母
6 3. 9. 1 7	奈 良 県	大 26	越 智 宏 行	長男

計 6 2 名

3. 支部総会

	支 部	開 催 地	出 席 者
63. 4. 23	福 井 県	芦原温泉	益川副会長
63. 4. 29	京 都 府	都ホテル	会長
63. 5. 21	熊 本 県	熊本キャッスルホテル	
63. 5. 21	広 島 県	広島グランドホテル	森本副会長
63. 5. 28	関 東	南国酒家	村上副会長
63. 5. 28	愛 媛 県	県 歯	松本副会長
63. 5. 28	福 岡 県	割ぼう 一条	山崎副会長
63. 6. 18	佐 賀 県	嬉野温泉	山崎副会長
63. 6. 19	岐 阜 県	サンピアホテル	森副会長
63. 6. 19	奈 良 県	樫原神宮会館	会長・新田専務
63. 6. 25	香 川 県	高松 可川ホテル	会長・新田専務
63. 7. 9	大 阪 府	ホテルプラザ	会長ほか
63. 7. 10	富 山 県	金 茶 寮	会長・新田専務
63. 7. 23	静 岡 県	ホテルアルカデア	森副会長
63. 8. 6	宮 崎 県	宮崎観光ホテル	
63. 8. 20	北 海 道	プリンスホテル	会長・新田専務
63. 8. 21	東北 6 県 (支部長会)	仙 台	会長・新田専務
63. 8. 27	和 歌 山 県	県 歯	松本副会長
63. 8. 28	徳 島 県	浜 伊	会長・新田専務
63. 9. 4	長野・新潟 (支部長会)	長野ロイヤルホテル	会長・新田専務
63. 9. 18	愛 知 県	都ホテル	会長・新田専務・岡常務

4. クラス会総会

年 月 日	クラス	開 催 地	出 席 者
63. 4. 24	大24回	広島ターミナルホテル	
63. 4. 29	専 8 回	三笠温泉	
63. 5. 12	専12回	広島 宮島	
63. 5. 14	専16回	南 信 州	
63. 5. 19	専 7 回	琴 平	
63. 5. 19	専 9 回	新 東 洋	
63. 5. 21	専32回	松江 なにわ別館	
63. 5. 21	大 7 回	岡山東急ホテル	森本副会長
63. 5. 23	専14回	洲 本	
63. 5. 30	大30回	奈良ロイヤルホテル	有山副会長
63. 6. 4	専29回	和歌山ターミナルホテル	松本副会長
63. 6. 18	大12回	ホテル プラザ	会長・新田専務
63. 7. 9	大 8 回	大 分	
63. 8. 20	大21回	ニューオータニ札幌	会長・新田専務
63. 9. 10	大 5 回	和歌山ターミナルホテル	松本副会長
63. 9. 10	大 8 回	三朝温泉	
63. 9. 17	専23回	高松 渭水苑	
63. 9. 17	専24回	都ホテル	野添副会長

5. 支部会長異動

滋賀県 新 専24 井 田 勝 造	旧 専15 川 村 輝 雄
京都府 新 専27 野 添 静 里	旧 専15 竹 内 茂
愛媛県 新 専29 野 村 寿 郎	旧 専28 河 内 梯治郎
福岡県 新 大 6 山 下 実	旧 大 3 山 中 孝 昭
大分県 新 専17 数 野 正	旧 専 7 故河 野 剛 吉
奈良県 新 専29 平 井 康 允	旧 専27 花 岡 繁 一
徳島県 新 専31 川 原 和 敬	旧 専25 津 田 稔
香川県 新 専32 鶴 田 昭 雄	旧 大 3 塩 田 正 久

6. クラス会代表者異動

大10 新 加 納 晴 彦 (大阪府) 旧 緒 方 満 (大阪府)
大36 新 三 谷 徹 (大阪府) (新 卒)

7. 福祉部関係

63年春叙勲・受章

専11回 中久木 健児郎 (愛知県) 勲六等瑞宝章
専17回 中 村 篤 夫 (大阪府) 勲五等瑞宝章
専20回 坂 田 三 一 (京都府) 勲四等瑞宝章
専28回 佐 川 肇 (徳島県) 藍綬褒章
専28回 岩 崎 行 男 (関 東) 藍綬褒章
専29回 辻 本 信 輝 (和歌山県) 藍綬褒章

8. 編集部関係

会報No 130 8月30日発送
会報No 131 12月中旬発送予定

9. 渉外関係

(1) 47都道府県歯科医師会会長中、同窓会員は次の13名である。

竹 内 太 郎 (石 川 県 専31) 田 中 勇 雄 (三 重 県 専26)
久 木 竹 久 (滋 賀 県 専28) 辻 本 信 輝 (和歌山県 専29)
福 岡 保 郎 (奈 良 県 専27) 長谷川 博 久 (京 都 府 大9)
奥 野 喜 一 (大 阪 府 専22) 村 井 俊 郎 (兵 庫 県 専25)
森 本 太 郎 (岡 山 県 専25) 上 田 務 (鳥 取 県 大1)
松 島 悌 二 (広 島 県 専28) 白 神 進 (徳 島 県 大8)
野 村 靖 夫 (宮 崎 県 専32)

(2) 日歯役員は次の8名である。

副 会 長 村 井 俊 郎 (兵 庫 県 専25)
常務理事 大 浦 波 夫 (兵 庫 県 専18)
" 鈴 木 實 (京 都 府 大8)

理 事	松 島 悌 二	(広 島 県 専28)
”	野 村 靖 夫	(宮 崎 県 専32)
”	白 神 進	(徳 島 県 大 8)
常務監事	上 田 務	(鳥 取 県 大 1)
監 事	久 木 竹 久	(滋 賀 県 専28)

(3) 日齒代議員は現在27名である。

内 藤 清	(愛 知 県 専31)	田 中 勇 雄	(三 重 県 専26)
竹 内 太 郎	(石 川 県 専31)	諸 頭 昌 彦	(滋 賀 県 専29)
村 上 勝	(京 都 府 専28)	長谷川 博 久	(京 都 府 大 9)
福 岡 保 郎	(奈 良 県 専27)	和 中 光 次	(和 歌 山 県 専26)
辻 本 信 輝	(和 歌 山 県 専29)	新 田 孟	(大 阪 府 専30)
木 村 慎一郎	(大 阪 府 専32)	藤 井 啓 史	(大 阪 府 大 5)
沢 田 稔	(大 阪 府 大 7)	南 木 秀 夫	(兵 庫 県 専30)
岡 邦 恭	(大 阪 府 大11)	高 松 平 人	(大 阪 府 大11)
松 田 毅	(大 阪 府 大13)	志 築 照 和	(兵 庫 県 専28)
善 本 秀 知	(兵 庫 県 専29)	長 濱 禎 昭	(兵 庫 県 大 1)
中 塚 裕	(兵 庫 県 専32)	森 本 太 郎	(岡 山 県 専25)
村 瀬 進	(兵 庫 県 大 7)	河 内 悌治郎	(愛 媛 県 専28)
木 庭 茂	(岡 山 県 専25)	尾 上 徹	(京 都 府 大12)
川 田 雄 祥	(徳 島 県 大 6)		

(4) 日齒政連役員は次の7名である。

副 会 長	松 島 悌 二	(広 島 県 専28)
副理事長	河 内 悌治郎	(愛 媛 県 専28)
理 事	木 庭 茂	(岡 山 県 専25)
”	竹 内 太 郎	(石 川 県 専31)
”	馬 場 隆 司	(大 分 県 専25)
”	藤 井 啓 史	(大 阪 府 大 5)
”	辻 本 信 輝	(和 歌 山 県 専29)

10. ポストグラデュエートコース委員会

63年度コースは6コースを予定している。すでに1～3コースは実施した。

11. 第10回全国会員大会関係

日 時 11月13日(日)

場 所 京都 都ホテル

案内書は会報No130号(8月下旬)に同封折込にて全会員に発送した。

また、支部会長・クラス会代表者にも登録者増強方依頼した。

12. 名簿編集委員会

第10回全国会員大会を期に頒布できるよう編集を行っている。

13. 会則改正委員会

次回理事会ならびに63年度総会に提案できるよう改正案作りを進めている。

14. 全国歯科大学(歯学部)同窓会・校友会役員懇話会

日 時 7月9日(土)

場 所 松本歯科大学
(当番校)

出席者 渡部副会長・品川常務理事

テ ー マ 「歯科医療界の今後を考える」

尚、次回は11月12日、日本歯科大学の当番で開催される。

(学 内 報 告)

1. 昭和63年度大学ならびに大学院入学式

日 時 4月8日(金) 場 所 大学講堂

大学入学生 145名 大学院入学生 20名

2. 人 事

- (1) 昭和62年度末定年退職された筒井、織田、外海の3教授には4月1日付、
名誉教授の称号が授与された。

- (2) 覚道教授（生理）が4月15日付、小西教授（口衛）が9月16日付、法人理事に就任された。
- (3) 木下（矯正）、倉橋（生物）両教授、河原助教授（OMM）が法人評議員に就任された。
- (4) 東（口解）、田中（病理）、新池（化学）各氏が6月13日付、教授に就任された。
- (5) 稗田教授（小児歯科）が9月1日付、学長に就任された。

3. 第81回歯科医師国家試験

試験日 4月5・6日 発表 5月17日

受験者 新卒 177名 既卒 23名 計 200名

合格者 新卒 151名 既卒 12名 計 163名

（本学平均 81.5%・全国平均 84.4%）

4. 昭和64年度入学試験要領（抜粋）

・募集人員 128 名

・出願期間 昭和64年1月9日～1月30日

・試験日 昭和64年2月4日・5日

・試験科目 数 学（数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析）

理 科（物理、化学、生物＜各科目とも理科Ⅰの範囲を含む＞
のうち2科目選択）

外国語（英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語ⅡB）

・その他 小論文、面接

◎ なお入試要項は昭和63年10月中旬にできる予定です。

◎ 問い合わせ先

大阪歯科大学 大学事務課・入試係

〒540 大阪市東区京橋1-47

TEL (06) 943-6521

◎ 昭和61・62・63年度入試問題集（プリント）御入用の方は、上記の大学事務課・入試係へ郵送料（切手240円）を添えて御請求下さい。

昭和63年度



夏期学術研修会

昭和63年度夏期学術研修会が、7月30日（土）31日（日）の両日、学術部と地元愛媛県支部のお世話で、松山市内の愛媛県口腔保健センター講堂で開かれた。

もどり梅雨の不安定な天候も去り、真夏日を越えた松山市内で、2日間にわたり延べ150人の先生方が熱心に受講した。

研修会は、岡本圭史常務理事が司会し、研修テーマ選択の経緯について説明のあと、放射線学講座古跡養之眞教授が「X線写真は人体地図なのか」―正しい情報を得るために―と題して、保存学講座藤井弁次教授が「コンポジット充填はどこまで信頼できるか」―その現状と将来―と題してそれぞれ講演した。

懇親会では、奥野喜一同窓会長をはじめ、多数の来賓が出席したが、席上、奥野会長は「この夏期研修会が愛媛支部の先生方大変なお世話で開かれたことに感謝したい。生涯研修事業に関連して、厚生省では研修ポイントの状況いかんで、保険医の指定を拒否する場合があるとまで言っているようだ。

生涯研修とは、私たちが自ら研修を積み重ねるものであり、この意味から同窓会として、側面から協力していく考えである。

来る11月13日（日）京都で第10回全国同窓会大会が開かれるが、こぞって参加していただくようお願いしたい」とあいさつした。



昭和62年

大阪歯科学会大会

大阪歯科大学同窓会学術研修会

と き 昭和62年11月7日(土)

13:30~16:30

ところ 大阪歯科大学大講堂



新素材の歯科への応用と展望

〈シンポジウム〉

司会 戸田 忠夫 (大阪歯科大学教授・口腔治療学講座)

1. 新素材の理工学的評価 中村 正明 (大阪歯科大学教授・歯科理工学講座)

2. 保存修復における新素材の応用 熊崎 護 (大阪歯科大学助教授・歯科保存学講座)

3. クラウンブリッジにおける新素材の応用 川添 堯彬 (大阪歯科大学教授・歯科補綴学第2講座)

4. 骨補填材としての新素材 今井 久夫 (大阪歯科大学助教授・歯周病学講座)

3. クラウンブリッジにおける新素材の応用 川添堯彬講師の原稿は次号に掲載致します。



新素材の理工学的評価

歯科理工学講座

中 村 正 明

1. はじめに

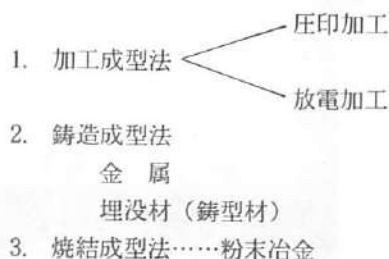
歯科臨床に不可欠な人工材料は今日に至るまで数多くつくられてきたが、いまだ天然歯のすばらしさに及ぶものはない。より良い歯科材料の開発を目ざして多数のメーカーがしのぎをけずり、新製品の発表が相次ぐ昨今である。ユーザーである歯科医師側はそんな新製品ラッシュの中で、すぐにでも飛びつきたい期待感と、反面、これまでに何度も夢破れた苦い経験から慎重に行動せねばとの気持ちが複雑に交錯しているのではないだろうか。今回は時間の制約もあるので、現時点での金属、レジン、セラミック各材料について手際よく展望をしたい。

2. 金属材料

金属材料は口腔内の強大な咬合力に耐えるに足る弾性係数、強さ、硬さなどの機械的性質を有している。したがって、いままで金属材料が担ってきた修復材料としての役割は、今後も決して変わるものではないと思われる。しかし、高分子材料の発達に伴って、歯科修復全体のなかで金属材料使用の割合が徐々にではあるが低下してくることは十分考えられる。現在のおも

な金属材料は銀合金、金銀パラジウム合金、金合金、白金合金、Ni-Cr合金およびCo-Cr合金である。それぞれが長い臨床実績を有しているだけに将来ともに使用され続けるだろう。それらを主な用途からみた(表1)。これからの金属材料であるチタンならびにその合金も追加して比べたが、1用途について複数の合金が挙げられる。歯科臨床の場では諸条件を検討して選択されるだけに、それぞれの用途に適した材料数が多いほど選択の幅が広がるので好ましいといえる。例えば、昭和62年初め以来問題になった金属アレルギーについては、アレルギー性陽性と判明した合金以外の材料選択が望ましい。不断の材料開発の努力によって種々の材料が提供されていれば歯科臨床のさまざまな局面に対処できる。

図1. 純チタンおよびチタン合金の成型法



つぎにこれからの金属材料としての純チタンおよびチタン合金についてみよう。軽量で生体適合性に富み、比強度が大きい点などはバイオマテリアル(生体材料)として好適である。しかし、熔融温度が従来の歯科用合金に比較して高く、しかも高温活性であるという点が、成型上、とくに鑄造成型上での最大の難点であった。図1に主な成型法を挙げたが、これらの各成型法のいずれもが純チタンあるいはチタン合金の諸用途の成型に利用できる可能性を持っている。まず、圧印加工によってTi-6Al-4V合金の超塑性を用いて圧印床作製が有望であるし(奥野ら、1988)、NC放電加工によってアタッチメントのような複雑な形状の加工が行える(稲用ら、1987)。そして、最大の進歩は埋没材の改良と鑄造環境の改善による鑄造成型法である

表1. 金属材料とその用途*

	銀合金	金銀パラジウム合金	金合金	白金合金	Ni-Cr合金	Co-Cr合金	純チタンチタン合金
インレー	○	○	○	—	—	—	—
クラウン&ブリッジ (C&B)	?	○	○	○	○	○	○
陶材焼付	—	○	○	○	○	○	○
C&B	—	○	○	○	○	○	○
床	—	○	○	○	○	○	○
インプラント	—	—	—	—	—	○	○

* 欠損修復 ただし、成形充填用の金属材料は除く。

う。これにより陶材焼付鑄造冠を含むクラウン・ブリッジ作製が行える(井田, 1987)。また、粉末冶金による多孔質人工歯根も有用である。以上のように、成型法の開発により以前にはまったく手の届かなかった、この金属の歯科利用もいよいよ急ピッチで展開していくだろう。

さらにはジルコニウムやステンレス鋼の利用もこれからの重要テーマである。ジルコニウムは元素周期律表でチタンと同族であり、きわめてよく似た性質を有している。チタンに比較して密度はやや大きく軟らかい。しかし、耐食性ではチタンに比べて優れており、これからの有望な金属材料である。一方のステンレス鋼については、JISのSU S316やSU S410などが種々のインストルメントとして歯科領域では用いられてきた。しかし、整形外科分野においては外科修復用合金としてはCo-Cr合金に近い評価が得られている。さらに、強さ、疲労強さ、加工性、経済性などの諸点ではCo-Cr合金よりも優れているともされ、歯科臨床においても修復用合金として研究開発していく必要がある。

3. 高分子材料

この材料は近年めざましく発展してきた材料である。その最たる例はコンポジットレジンであろう。Bowen (1956) により発表されて以来、今日までベースレジンやフィラーに工夫がこらされ改善されてきた。幸いなことに、ほぼ同時期にBuonocore (1955) により考案された歯質改良手段としての酸エッチング法の応用ともあ

いまって、保存修復学の有力な武器となった。より確かな歯科修復のための材料側と歯質側の双方向からの歯質接着性の研究は、シーラント材やコンポジットレジンに結実した。

つぎの段階は、歯質、主にエナメル質から象牙質への接着対象の変化である。すでにエナメル質に対しては一定の成果が得られているが、より広い歯質接着面の確保あるいはあまり多くのエナメル質を期待できない歯頸部窩洞においては、象牙質に対する接着は重要である。以前には、いわゆるトータルエッチングの名の下にエナメル質に加えて象牙質も一緒にリン酸溶液で処理してしまう方法が提唱されたこともあったが(総山ら, 1985)、最近ではそれも見直され、本来の慎重な扱いに戻っている(藤井ら, 1987)。GLUMA (Asmussenら, 1985) や、塩化第2鉄(中林ら, 1982) 処理などによる象牙質の改質が種々試みられているが、スメア層の処理とも合わせていまだ決定的な方法はない。

接着対象が歯質以外、すなわち金属やセラミック材料へ拡大していくにつれて、歯科臨床テクニックが新たな展開をしてきた。接着ブリッジ、歯周固定スプリント、ラミネートベニア冠や破折した陶材焼付鑄造冠の補修などと急速な用途拡大がおこった。それら材料メーカーの華々しい宣伝とテクニック普及コースの多さが目立つが、真の接着性評価は今後の臨床遠隔成績によって下されよう。

レジンの重合硬化システムの変化も興味深い。従来の加熱重合システムと常温重合システムに

表2. レジン重合システムと用途

	シーラント材	コンポジット レジン	硬質レジン	レジン床	リベース材
加熱重合	—	—	○	○	○
常温重合 (化学重合)	○	○	—	○	○
光重合	○	○	○	○	○

加えて新たな光重合システムの登場である(図2)。一般工業界では広く活用されていた重合方式の導入は、歯科臨床における利点もあって急速に普及した(図3)。また、その用途も徐々に拡大している(表2)。今後、歯科臨床において完全に定着したレジンの重合硬化システムとなることが期待できる。

床用材料としてのアクリルレジンの出現は、歴史的にもその性能からも画期的なものであった。その後、常温重合システムも加わって現在の隆盛へと続いてきた。今日なお歯科用高分子材料の基盤を成している。しかし、その機械的性質、寸法精度や生体安全性の諸点での物足りなさについてはかねてから改善が望まれていた。そして、その改善に向けてエンジニアリングプラスチックの導入が検討されている。ポリサルホン、ポリエーテルサルホンやポリフェニレンサルファイド各レジンなどであり、ポリサルホンレジンはずでに数年前から歯科用として導入されている。これらレジンには機能性樹脂として、ポリエチレン樹脂やエポキシ樹脂などの汎用プラスチックと区別される。一般的に優れた機械的性質、良好な寸法安定性や生体安全性などが期待できる。したがって、歯科臨床に使える利点は多い。しかし、すでに歯科界には確立されたアクリルレジン成型システムがある。それを乗り越えて新しい材料が普及するには、材料本来の性質が優れている上に使用操作上での優位性が必須条件である。今後、上記のエンジニアリングプラスチックが広く普及するかどうかについては注意深く見守る必要があろう。

図2. レジンの重合システム

1. 加熱重合

PMMA ポリマー + MMA モノマー
過酸化ベンゾイル
↑熱
→重合硬化

2. 常温重合

粉液タイプ

PMMA ポリマー + MMA モノマー
過酸化ベンゾイル 第3アミン
→重合硬化

2ペーストタイプ

キャタリスト + ユニバーサル
過酸化ベンゾイル 第3アミン
→重合硬化

3. 光重合

レジンモノマー
光増感剤 + 還元剤 → 重合硬化
↑光

図3. 光重合システムの利点

- 十分な操作時間がある
充填用、硬質レジン用、リベース用
- 気泡の混入を少なくできる
充填用
- 色調安定性
充填用

以上、将来にわたって高分子材料が歯科材料として今まで以上に使用されるのは確かであるが、この系統の材料にいま1つ望まれる点は生体適合性のあるレジンモノマーの開発である。レジン材料が示す組織刺激性はなかなかやっかいな問題であり、この点での改良が持たらずプラス面は計り知れない。

4. セラミック材料

陶材による歯冠修復も、現在までに一定の技術水準に達している。化学的安定性、組織親和性ならびに審美性に優れ、圧縮強さが大きいのに反して、引張、せん断あるいは衝撃力に対して弱い。このような陶材の弱点を強さの大きいアルミナ粒子によって加強したアルミナス陶材冠や、靱性の大きな金属によって加強した陶材焼付鑄造冠は広く臨床に活用されている。しかし、35%~40%もの大きな陶材の焼成収縮を補償するには依然として高度な技術が要求される。このようなマトリックス法による築造成型法や金属との組み合わせによる従来のテクニック以外に、近年になって興味ある成型法が相次いでいる(図4)。

図4. セラミック材料による歯冠修復

I セラミック材料のみ

A フルカバレッジ

1. 築造成型法(ジャケット冠)

- 1) マトリックス法 Pt箔 約25 μ m厚
マトリックス上にアルミナス陶材(粉末および純アルミナ片)でコア焼成、その後低溶陶材でベニア仕上げ、マトリックスは全焼成後に除去(アルミナス陶材冠)

2) ダイ法

耐火性ダイ上へ直接に築造、焼成

2. 鑄造成型法(キャストابلセラミック冠)

- 1) マイカ系ガラス
- 2) アパタイト系ガラス
- 3) リン酸カルシウム系ガラス

いずれも金属の鑄造成型法と同じステップで成型し、鑄造後に結晶化処理を行う

3. 射出成型法

コア陶材(アルミナス陶材)を鑄型へ射出成型・焼成、低溶陶材でベニア仕上げ

B ラミネートベニア

原則として前歯唇面のみ 耐火性ダイ上に低溶陶材を焼成

II 金属との組み合わせ

1. 陶材焼付鑄造冠(金属セラミックス)

合金

貴金属合金	卑金属合金
Au合金	Ni-Cr合金
高カラット合金	Co-Cr合金
低カラット合金	オーステナイト系
Pd合金	Fe-Cr合金

陶材

低溶陶材、オペーク陶材

2. 金属箔焼付冠

1) 金属箔+酸化スズ被膜

- ・ ツインホイル法 25 μ m Pt箔、2層
外層 酸化スズ被膜を作り、アルミナス陶材でコア焼成(化学結合) 低溶陶材でベニア仕上げ

内層 焼成後に除去

- ・ シングルホイル法

単層箔に焼成

2) プリーツホイル法

金属箔 51~58 μ m厚

重層箔 純Pt箔(中心)、その両面にAu-Pd箔、その外面を純Auコート

単層箔 純Pt箔のみ、ただし圧接後に金ろう流ろう

陶材

低溶陶材、オペーク陶材

その代表例は鑄造成型法による、いわゆるキャストセラミック冠である。マイカ系、アパタイト系あるいはリン酸カルシウム系ガラスの3種類が発表されているが、いずれも金属の鑄造成型法と同じステップで成型し、鑄造後に結晶化処理を行う。成型時の収縮による寸法変化も従来の陶材に比較して少ないとされ、セラミック冠成型の新しい方法の1つである。つぎに射出成型法による方法がある。まずコア陶材を鑄型へ射出成型後に焼成し、その上に通常の低溶陶材を焼成仕上げるもので、やはり成型時の寸法変化が小さいといわれている。さらに、従来のように金属箔を使用するものの、種々に工夫をこらしてある箔上に陶材を焼成し、箔付きのまま装着する金属箔焼付冠がある。また、歯冠全体ではなく唇面のみを修復するラミネートベニア冠も限定された症例ながら応用可能となってきた。耐火性ダイ上に低溶陶材を焼成して成型するもので、接着性合着材の改良によって現実のものとなってきた。これらの新しいセラミック冠はそれぞれ特長を有しており、これからの歯科臨床で用いられるようになろう。しかし、実際の臨床では単冠の症例のみではない。数多いブリッジの症例に対応できるようになるかどうか、上記のセラミック冠成型法、とくに鑄造成型法および射出成型法、にとっては1つのカギとなると思われる。

生体活性型セラミック材料も話題の材料である。まず、ハイドロキシアパタイトがある。骨や歯を構成している成分に類似の組成で、骨組織とのなじみも良好で骨組織との結合も期待できるという(青木、1987)。しかし、硬組織代替材料に必要な十分な強さに欠ける難点がある。粉末、顆粒、多孔ならびに緻密体の形状があり、人工歯根、骨補填材としての応用にはじまり、歯磨材や合着材への応用も考えられている。つづいてリン酸3カルシウム(TCP)がある。ハイドロキシアパタイトと同じく生体活性型セラミックスで、 α 相、 β 相等の合計3相がある。溶解性は β 相がハイドロキシアパタイトの約2倍、 α 相が約4倍と大きい(青木および丹羽、1987)。骨組織とのなじみもよく、埋入後には

本材料の周囲には骨新生も望めるといわれている(Driskellら、1971)。しかし、ハイドロキシアパタイトの場合と同じく、強さ不足である。上記のような性質の違いから、 α 相は合着材に、 β 相は骨補填材に用途が異なる。以上の生体活性型セラミックスによって骨増生が認められたという報告もなされている。しかし、骨形成能、骨誘導能および骨伝導能と骨新生にまつわる諸作用と、生体側の各種条件との関係にはまだ不明の点も多い。もともと局所硬組織に何らかの不可逆性の治癒不能な重大欠陥あるいは年齢要因が存在したために、その代替材料として生体活性型セラミック材料が持ってこられた経緯がある。一方、これら材料に期待する作用は局所組織における再生治癒能力の存在が決め手である。動物実験条件下でりっぱに骨形成をみたというデータもあるが、それら実験環境は当初から硬組織代謝上から何ら問題点のない健全組織の場ではという感もある。いずれにしても今後の骨生理にかかわる基礎的研究とともに、これら材料の臨床遠隔成績が待たれる。

5. 複合化の必然性

1種の方法ですべての機能を回復できると好都合であるが、現実には不可能である。そこで異なった材質の材料を組み合わせることでそれぞれの材料の長所を合わせ持たす複合化が必要となってくる。図5に歯科臨床における材料組み合わせ例をあげた。材料複合化成功の最大のキーポイントは、当然のことながら組み合わせ材質間の接着処理がうまく施されていることである。単なる混合だけでは片方の材料のみの場合よりもかえって劣る結果になる場合が多い。その点からして近年の複合材料では巧みに処理されており、材料複合化の方向は今後も引き続いて模索されることであろう。

6. 審美修復の流れ

いままでは、医師は患者の疼痛や疾病を治療し緩和するのが医療の本質的な使命と考えられていた。歯科医師は欠損部を充填あるいは補綴し、基本的な患者の口腔機能である咀嚼や発音などを回復してきた。しかし、もはやそれだけでは済まない時代に突入している。いわゆる審

図5. 歯科材料での組み合わせ例

1. コンポジットレジン
フィラー……強さ・硬さの向上、熱膨張係数の低下、耐磨耗性向上、重合収縮の減少、吸水率の減少
2. アルミナス陶材冠
アルミナ粒子や純アルミナ片……強さの向上
3. 陶材焼付鑄造冠
鑄造冠……機械的性質の向上（曲げ強さ、靱性）
陶 材……審美性、なじみ（歯肉）
4. アパタイトコーティングしたチタン製人工歯根
金 属……機械的性質の向上
アパタイト……なじみ（組織）

美修復の流れである。

これに対して反論もあろう。もうすでに歯科界は十分に審美性の高い修復物、すなわち、陶材冠やインレー、アクリルレジン、コンポジットレジンや陶材焼付鑄造冠などを提供してきたのではないかと。なにもいまさらあらためて、という意見である。しかし、我々が遭遇しはじめた新しい歯科臨床の流れは、歯科界の現在の事情と、患者、すなわち国民の大いなる意識変革に根差しているように思える。まず、欧米先進国を中心にした歯牙齲蝕罹患率の低下である。歯科医師がいままでかなりの時間を割いてきた齲蝕治療の件数が減少した上に、歯科医師数の過剰問題が加わって、これから余剰の時間をいったい何をやって行くべきかという点である。なるほど高齢者治療や歯周療法の発展もあるが、いま1つ歯科学の独自性が十分に発揮できるものが必要であった。ここへ審美修復の動きが急速に高まってきたものと考えられる。つぎなる歯科界の黄金時代への活路となり得るのがこの審美修復であるとまで極言する人もいる(Faunce, 1987)。

もう1つの大きな因子は国民の意識変革である。その最大の功労者はマスメディアであり(Sheets, 1987)、情報化社会の直接的な効果による所産であろう。本来は専門領域のホットなテーマである接着歯学、ラミネートベニア冠、インプラント、矯正装置などや、歯科界ではまだ使われてもいない有望材料にいたるまで、あらゆるマスメディアによって詳しくしかも繰り返し報道される。このインパクトは絶大である。加えて、健康と安全性に対する意識の高まりから、医院を訪れる患者は自らの症例、可能な治療法の種類や予想される遠隔成績までも詳しく知りたがる。そして、さらに底流にあるのは競争化社会からくる一般的風潮も見逃せない。勝者はすべからず若々しく快活で、健康的でしかも微笑みを絶やさない、のが重要な成功の秘訣とするものである。多くの人々が勝者たらんと必死になる。歯科学が担当する顎顔面複合体領域は、ヒトのコミュニケーションや知性を発揮する中心的存在であるだけに、上記の風潮にも関連して歯科臨床にかけられる審美修復の要求には並々ならぬものがあるわけである。次元はまったく異なるものの、男性化粧品の流行、男性の美容や成形手術の隆盛は、その人の本質や中身はともかく、表面だけでも社会的な身分に相応しい姿に取りつくろいたいとする、審美修復が目ざす方向に似ているという感じがしてならない。

上記のような時代背景の中で、歯科界としても本格的な審美修復時代に対応できる体制をとっておく必要がある。まず、歯科医師の診療技術はもちろんのこと美学や色彩学などの広範な領域の研修、歯科技工士や歯科衛生士などの診療チームの確立と患者教育とそれぞれの段階での対処とともに、歯科材料メーカーにおいても審美修復に適した新材料の開発にも取り組む必要がある。

7. 生体適合性

歯科材料、器具なしには歯科臨床はあり得ない。欠損修復、手術的療法、不正咬合の改善、小児の歯科臨床および口腔衛生と大別できる歯科臨床の中で、最も大きなウェイトを占めてい

るのが欠損修復であるのを考えれば明らかであろう。材料・器具の使用目的は患者の健康と福祉に貢献するためである。残念ながら、一方には使用したがゆえのマイナス面が存在する場合があるのも事実である（図6）。現在、使用されている歯科材料のほとんどは理想的な材料選択基準にあてはまらない。しかし、現実には歯科医師の前で治療を待っている多くの患者がいる。臨床は1日といえども中断できないのである。この点に関しては、材料を使う場合の“功と罪との比率、benefit-to-risk ratio”からの解決によるのが賢明であろう。ある材料の歯科材料としての功（長所）が罪（短所）をはるかにしのぎ、しかもその短所を確実にコントロールして抑え込むことができれば、その材料の使用は認められるべきである。その好例は医薬品の使用にみることができる。

近年、我々の生体に用いられる材料はその生体適合性が厳しく求められるようになってきた。歯科材料は言うにおよばず、整形外科分野などで使われる材料も等しく、いわゆるバイオマテリアルとして扱われる。今後も生体に安全な材料をという願望はなお一層高まることであろう。

8. おわりに

現在、話題になっている材料の種類と数の豊富さには目をみはるものがあり、過去にその例をみない。はたして、これらの新素材が床用材料のアクリルレジンや超高速切削用エアータンピンなどのような一時代を画すものとなり得るのだろうか。新製品の開発サイクルは、研究室における試作品から広く臨床での評価を得るまでに5～10年の長い年月を要す。その対象とするものが生体であるだけに当然のことといえる。今回、取り上げた話題の諸材料についてもやがて冷徹な評価が下ることになるろう。

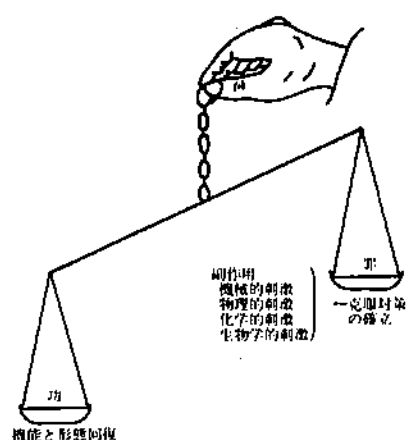


図6. バイオマテリアル使用の基準は？
Benefit-to-risk ratio（功と罪との比率）で（中村ほか、1983）



保存修復における新素材の応用

大阪歯科大学歯科保存学講座 熊崎 護

近年、歯科医学の発展は目覚ましく、特に歯科材料の改良と進歩には目を見張るものがある。

保存修復の分野では、(1)保存修復材料のうち高分子材料として、複合レジンとウレタン系、または4メタ系ボンディング材などが挙げられる。(2)他科との関連においては、セラミックインレー、チタン合金インレー、アパタイト(HAP)、 α TCP、 β TCPなど、補綴科、歯周病科とともに論ずることが必要な材料がある。(3)メカトロニクスとの関連においては、光重合型コンポジットレジン、レーザー重合レジン、CAD、CAMなどが挙げられる。また、将来への展望としては歯髄保護材としてCapping, Lining, Base材など、歯科臨床に欠かせない新材料もあり、さらに前処理としての酸処理剤、グルマ、ヘマ、サルチル酸など、スメアー処理との関連において、臨床面から重要な素材も考えられる。

このように、次々に新しい材料が現れるのに伴い、これらを用いる場合、従来の修復材とは全く異なった方法が出現してきている。この考え方の根底には生体組織への無害性など、今までの充填の概念を含めて生物学的な立場からみた生体充填材という考え方が重要視されてきて

いる。

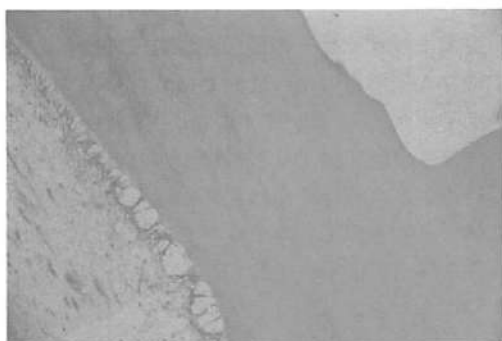
こうした考え方は、私たち研究者にとっても歯科界全体にとっても喜ばしいところである。

今回はこれら多くの素材のうち、特に歯質に接着して過酷な口腔環境での使用に耐えうるような充填物質の性質や、接着機構や歯質の構造と使用方法の関連においても考えてみたいと思う。

次いで、メカトロニクスの関係では光重合型コンポジットレジン、私どもの開発したレーザー重合レジンなど枚挙にいとまがないが、ここではレーザーによる象牙質バリアーの発現、すなわち象牙細管の封鎖についても言及してみたいと思う。

〔歯髄保護材としてのベース材およびライナー〕

現在、修復材として用いられているもので、全く歯髄保護を必要としないものがあるかどうかについて、いろいろな見解があるが、特にコンポジットレジン修復では、その材料の性質上、生体反応が全くないことは考えられず、その結果歯髄は基質変化を受け、再生不能に陥ることは十分考えられるところである(図1)。



(図1)

修復後の歯髄に対する刺激としては、①修復物そのものの刺激、すなわち歯髄を刺激する可能性の高い修復物、②辺縁漏洩などによる外來刺激、③感染象牙質中の細菌による毒素などが考えられている。

それに対する歯髄保護処置としては、従来より2つの方法がある。

広範囲で、深い齲蝕がある場合に用いられるベース法と、デンチン上に非常に菲薄な保護膜を作って歯髄を保護するライニング法である。

今回は紙面の関係上、ベース材は表1のように分類したので参照して頂き(表1)、臨床応用操作が容易であるライニング法について述べてみたいと思う。

ベース材

グラスアイオノマーセメント系

1. Base Cement Pink (Shofu)
2. Base Cement White (Shofu)
3. Ketac Band (ESPE)
4. Ketac Silver (ESPE)
5. Kelon Silver (ESPE)

アルミ酸カルシウムセメント系

1. Altect Cement (GC)

α -第3 燐酸カルシウム系

1. Apatite Liner Type 1 (Sankin)
2. Apatite Liner Type 2 (Sankin)

(表1)

従来よりライナーの種類としては、表2に示す通り4種のものが一般的である。パルフィークライナー、キャピラインは、いずれもポリマー性で歯髄に対する刺激は少ないと考えられているが、コパライトは天然樹脂をアルコールに溶解したもので、ライニング効果については問題が残ってくる。

ライナーの種類

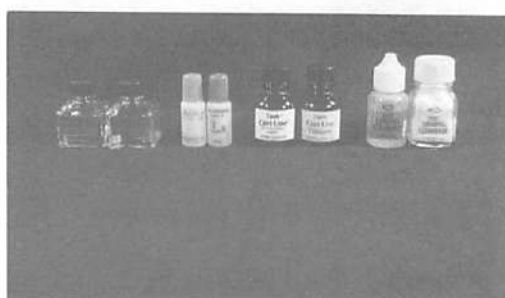
1. Palfigue Liner (Tokuso) ポリマー性
2. Cavi-Line (L.D.Caulk) ポリマー性
3. Panagraf Super Liner (Nippon Shiken) モノマー性
4. Lining Cement (GC)

グラスアイオノマー+酸化亜鉛
エックス線造影性

(表2)

ライニングセメントはグラスアイオノマーセメントを基材にして、コンポジットレジンの裏層用に開発されたものである。臨床応用時には前2者に比べて、テクニックに困難がある場合もあり、確実に行うことは容易ではないと思われる。(図2・パルフィークライナー参照)

以上のライニング材について、歯髄保護が十分に行われているかどうかを判定する方法は少なく、臨床応用後の経過観察によって効果判定を行うに留まっていた。



(図2)

今回は、これらライニング材を使用した場合のライニング効果判定法として、蝕蝕測定に使用されているカリエスマーターを利用することにより、ライニング効果の判定が臨床的に容易に行えることが分かった。その一部を紹介するので、臨床に応用して頂ければ幸いである。

5種のライニング材を抜去歯に塗布し、直後と、生理食塩水中に24時間浸漬した後の電気抵抗を測定した(表3)。

裏層直後の電気抵抗値はElite Cementの ∞ 以外は1.5~2 M Ω 前後の抵抗値を示した。Elite Cementは裏層直後で電氣的に完全な絶縁材と考えることができる。

裏層後24時間生理食塩水中に浸漬したものは、電気抵抗値の大きなものはP-Linerで910 K Ω を示し、一番小さい電気抵抗値を示したものはElite Cementの238 K Ω であり、裏層効果は減少していると考えられる。

Elite Cementの電気抵抗値の減少は裏層材中最大であった。

	Elite cement	Lining cement	Copalite	Cavi-Line	P-Liner
Lining 0 hr	∞	2 M Ω	1.64M Ω	1.46M Ω	1.6M Ω
Lining 24 hr	238K Ω	428K Ω	294K Ω	314K Ω	910K Ω
No Lining	186K Ω				

(表3)

24時間後の浸漬でも、Elite Cementのほぼ2倍の428 K Ω で、吸水性の差ではないかと考えている。

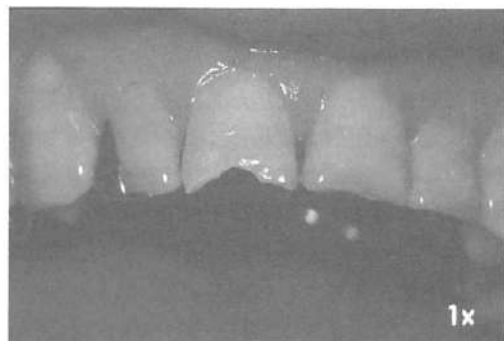
またパーニッシュ系裏層材のCopaliteが244 K Ω 、Cavi-Lineが314 K Ω で、Lining Cementよりも小さい値を示し、いずれも吸水性によるか、半透膜的性質があるのではないかと考えられるが、いずれにしても吸水性の大きいものほどイオン透過性も大きく、電気抵抗値も小さくなり裏層材としては不適當である。

最も電気抵抗値の大きかったP-Linerもライニング直後に比べて1/2程度の電気抵抗値の減少が見られるが、他のものに比べると24時間後の電気抵抗値は最も大きかった。

以上の結果より、裏層の良否は電気抵抗値の大きいものほど状態が良いと思われ、臨床応用に利用できることがわかった。

〔臨床応用例〕

本症例は本学付属病院外来へ訪れた27才の男



(図3)

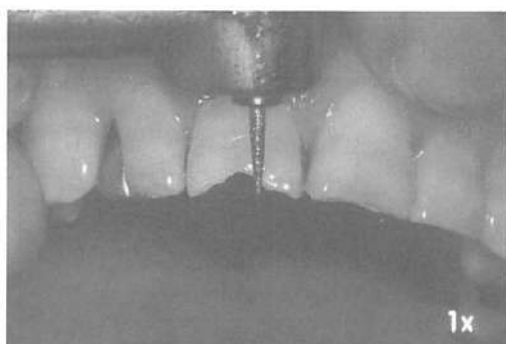
性で、上顎11の切端破折により来院したものである(図3)。

図4はそのX線写真を示す。根尖部にも病巣を認めず、歯髄も正常で歯槽骨にも異常を認めない。



(図4)

審美的にもレジン充填材の適応症と思われるので、切端部はできるだけ削除を控え、舌側面および切端部の一部にベベル状のシャンファーを形成した。また、歯髄への距離的影響が大きいと考えられ、できるだけ薄い裏層を必要とするのでP-Linerでライニングを行うこととした(図5)。



(図5)

破折切端部にカリエスマーターを接触させて電気抵抗値を測定したところ、350 K Ω 付近であった。



(図6)

次いで、同部位にスポンジでP-Linerを塗布し、数秒後さらに2回目の塗布を行い、再度カリエスマーターで測定を行ったところ電気抵抗値は1.7 M Ω という大きな値を示した。

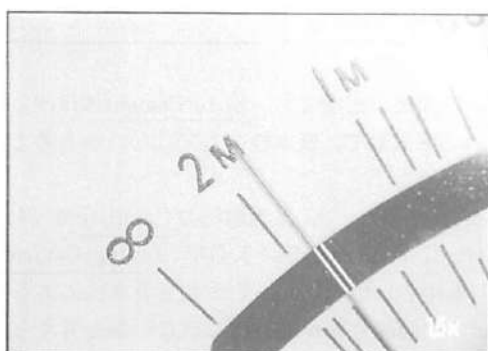


(図7)

このことは裏層が十分に行われたことを意味し、もし抵抗値1 M Ω 以下の小さい値を示す場



(図8)



(図9)

合には再度P-Linerを塗布し、抵抗値が1 M Ω 以上になるようにする必要がある。

通常は2回程度の塗布で抵抗値は1 M Ω 以上を示すようである。

既に述べたように、ライニングの良否が電気抵抗値の上昇によって確認できることは臨床的には大変有意義であると考えている。

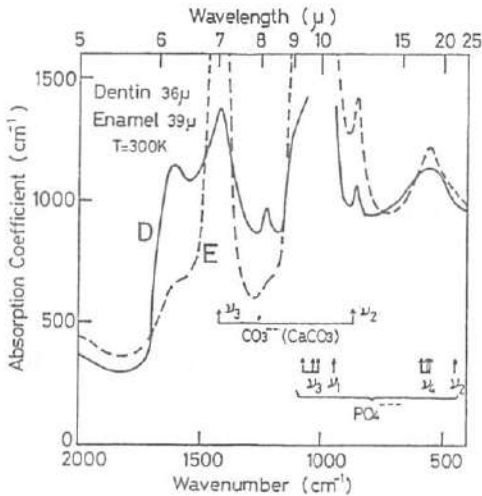
〔レーザー照射によるバリアーの発生〕

さて、歯の表面にレーザー光線を照射することがSognaesによって初めて試みられてから20年余りが過ぎようとしている。

この間、歯科分野において種々なる実験が試みられてきたが、今回私たちは象牙質に直接レーザー光線を照射することによって、象牙細管を含めた象牙質に形態的な変化を生じさせ、外来物質の浸透を阻止することができたのでお話し上げたい。

臨床上で、歯髄や口腔粘膜に為害作用を与えないような低エネルギーレーザー照射でも最大限の硬化を象牙質に生じさせるため、レーザー

光線と歯質との基礎的研究ともいえる各種レーザー、すなわち窒素をはじめアルゴン、ルビー、Nd:YAG、炭酸ガスレーザーなどの象牙質に対する吸収係数および到達深度などについて赤外線分光光度計によって検討を行った。その結果、象牙質とエナメル質に得られたスペクトル吸収帯は、象牙質、エナメル質ともほとんど同じであり、その構成成分は両者ともほぼ同じであると考えられる。吸収帯よりアパタイトの象牙質、エナメル質における結晶化は非常に不完全であると推測された(図10)。



(図10)

また、各種レーザー光線の吸収係数および到達深度はCO₂レーザーで6.3 μmであった(表4)。

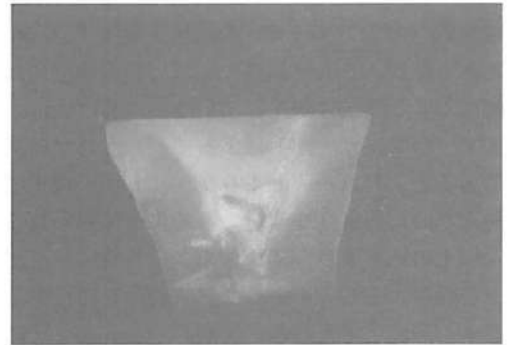
象牙質におけるレーザーの到達深度

レーザー線	波 長	吸収係数(cm ⁻¹)	到達深度(μm)
窒素	337.1 nm	8.0×10 ²	12
アルゴン	488.0 nm	6.7×10 ²	15
ルビー	694.3 nm	5.9×10 ²	17
Nd:YAG	1.06 μm	5.4×10 ²	19
(第2高調波)	530.0 nm	6.5×10 ²	15
(第3高調波)	353.0 nm	7.7×10 ²	13
炭酸ガス	10.6 μm	1.6×10 ³	6.3

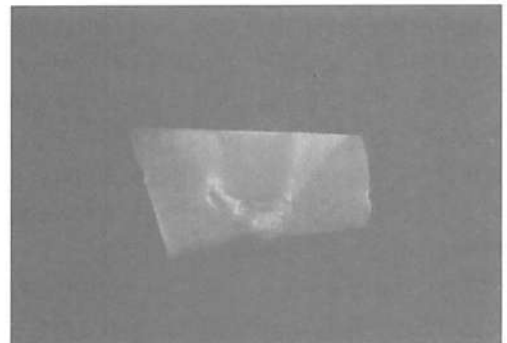
(表4)

表4より、歯髄に対する影響が小さく、レーザー光線ができるだけ表面で作用することが望ましいことから、炭酸ガスレーザーが最も適当であると考えられる。

以上の結果から、CO₂レーザーを出力2 W、照射時間を1/16秒・1/8秒・1/2秒・1秒・2秒・3秒・4秒・5秒・6秒の9段階を設定して変化させ、照射した結果、1/4秒・1/2秒・1秒・2秒のものが良い結果を認めた。すなわち2 W、1～2秒照射では色素浸透は阻止され、明らかにバリアーを認める。バリアーの直径は照射時間の増加に伴って大きくなり、また、バリアーの深度も深くなる。(図11「1/16秒」、図12「2秒のもの」、図13「SEM像」)。

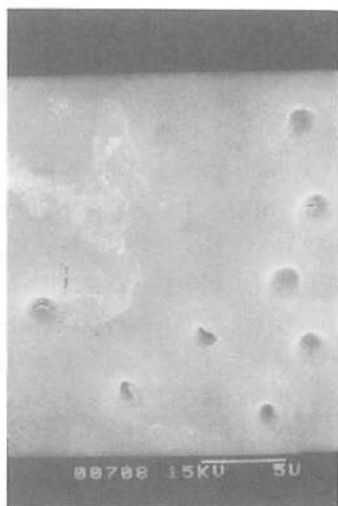


(図11)



(図12)

2 W、1秒のもののSEM観察では、象牙質表面は溶融され細管も非常に小さくなって、完全に封鎖されている様子が伺われる。すでに述べたように、赤外線分光光度計による結果から、



(図13)

象牙質への CO_2 レーザーの到達深度は $6.3\ \mu\text{m}$ であったが、SEM観察によれば照射部位には酸に対する抵抗性が生じている。これは表面スメアーがレーザー照射によって焼結された結果であると思われ、表面より $7\sim 10\ \mu\text{m}$ 前後まで何らかの実質変化を伴っているように思われる。

以上の結果よりみて、将来、象牙質にレーザーを照射することによって外来刺激を防止することが可能と考えられ、裏層材や Lining 材に代わって $1\sim 2$ 秒間レーザーを照射することで外来刺激防止の可能性が伺われる。

猿の歯牙を用いた実験では、2秒程度の照射では歯髄に対する為害作用も認められなかった。

以上レーザーが象牙質に及ぼす影響について筆者の行なった実験を中心に述べてきたが、とくに象牙質バリア発生について十分臨床に应用可能と考えられ、すでに2、3臨床に应用し、もっか観察を続行中である。この他筆者らの開発したレーザー重合レジンなどがあり、今後レーザーが歯科分野に应用され、第3の技術改革が行なわれるのもそう遠くないものと確信している次第である。

引用文献

1. 鈴木 栄：可視光線照射レジンに関する研究. 日歯保誌 1981: 24(2): 471 ~ 485.
2. 木内賢直：可視光線重合レジンの歯質透過後の硬化深度および臨床応用に関する研究. 日歯保誌 1982: 25(2): 279 ~ 293.
3. 渥美和彦：レーザーの医学への応用(5). 医学のあゆみ 1970: 73(12): 701 ~ 706.
4. 長田康司：Nd-YAG レーザに対する有効色素の探究. 1983: 62(5): 1045 ~ 1061.
5. 山本 肇：レーザーによるう蝕予防研究の現段階. 歯界展望 1981: 57(4): 633~641.
6. 庄司 茂ほか. Nd:YAGレーザー照射による歯および充填物境界の変化に関する研究. 日本レーザー医学会誌 1983: 3 (4): 108.
7. STERN R H, SOGNAES R F. Laser inhibition of dental caries suggested by first test invivo J Am Dent Assoc 1972: 85: 1087 ~ 1090.
8. STERN R H, EASTGUTH H, MAUTNER W, J. MORGAN, C. Potential clinical application. Opt Laser Technol 1975: 109: 22~24.
9. STERN R H. The laser in dentistry. Proc Soc Photo-Opt Instrum Eng 1974: 109: 117 ~ 121.
10. 熊崎 護, 豊田紘一, 善入邦男, 藤井弁次, 篠野覚士：レーザー重合レジンに関する研究 (1)日歯保誌, 28(1): 202~209 (1985)
11. 熊崎 護, 豊田紘一, 善入邦男, 藤井弁次, 篠野覚士：レーザー重合レジンに関する研究 (2)日歯保誌, 29(1): 289~296 (1986)



骨補填材としての新素材 — HAP, TCP の臨床応用と

その臨床的推移—

歯周病学講座

今井久夫

I はじめに

生体というものは、損傷をこうむった場合、通常は生体の力でいずれは治癒していくとされている。その場合の創傷治癒は瘢痕治癒であると言われている。歯槽骨においても例外ではなく、生理的にも破骨・造骨といった改造が起こっており、骨の破壊が起こった場合、その原因の除去と病変の改善を図ることにより、生体の力での骨造生がある程度期待できる。

一方、生体は一つの受精卵からの細胞が分裂、増殖を繰返しながら内胚葉、外胚葉に分かれ、それらがさらに分裂しながら各種臓器、骨、粘膜、皮膚細胞に分化し一個の生体を形成しているが、この生体を構成する細胞でも、いったん損傷が生じると、その分化の程度により再生力が異なると言われている。すなわち、分化程度の低い細胞ほど再生、増殖力が旺盛であり、分化の程度が高い細胞ほど分化、増殖能力が緩慢であると言われている。例えば、歯周組織の一

つである歯槽骨も例外ではなく、未分化な間葉細胞である骨芽細胞と線維芽細胞とにより構成されているが、この骨芽細胞は線維芽細胞に比べ分化の程度が高いため、どうしても線維芽細胞よりも再生、増殖が遅れ、骨が再生されるよりも、線維芽細胞により形成された線維組織の再生、増殖が優勢となり、骨欠損部の大部分が線維組織に置換され骨形成が遅れ易い。この傾向は、骨の欠損が大きければ大きいほど顕著であるため、外部からの線維組織の侵入を出来るだけ阻止し、より多くの骨の再生を期待しようとする意図から、現在行われている骨移植が考えられるようになった。

周知のように、移植に利用される移植材としては、現時点では他の人工合成移植材よりも、新鮮自家骨がもっとも有効であるとされている。しかし、自家骨の場合採取部位、採取量などに制約があり、同時に供給側 (donor site) の二次的の外科侵襲が加わるなどいくつかの問題点もある。そこで自家骨に代わる代用骨としての人工合成移植材が注目をあびるようになってきた。古くは Dressman (1982)¹⁾ が 8 名の患者を対象にそれぞれの骨欠損部に石膏を試用したが、あまり良い結果は得られなかったようである。本教室でも民上 (1983)²⁾ 橋本 (1983)³⁾ 三瀬 (1987)⁴⁾ 護邦 (1987)⁵⁾ らも実験的に骨欠損を作成し、石膏を移植し好結果を得たとの報告はしているが、実際に起こった臨床的な歯周炎を対象としての報告ではない。その後数多くの人工合成移植材料が開発され、基礎的、臨床的に応用、検討され逐次報告されてきている⁶⁻¹²⁾。その内でも tricalcium phosphate (以下、TCP と略す)、hydroxyapatite (以下、HAP と略す) といったバイオセラミックスが近年とくに注目をあびるようになり、基礎的、臨床的に研究が進められ、細胞毒性がなく、生体親和性にも優れていることが証明され、骨欠損部での骨修復能を秘めていることも併せ報告されてきた^{6,7,10,12,13)}、が、歯周組織の真の意味での再生といった面から見た場合、必ずしも満足すべき結果は得られていないようであり、現在各分野で研究が進められている。

しかし、従来の人工合成移植材料に比べてHAP、TCPはあらゆる面で勝っていることは事実であり、滅菌、消毒、操作性の面でも優れている。

以上のことから、これらバイオセラミックスとしてのHAP、TCPの有用性、有効性を勘案の上実際の臨床の場で見うけられる各種骨欠損部に応用し、その臨床的推移について観察を行った。

1. 骨移植材の条件

骨移植材の条件として Levin (1974)¹⁴⁾ の考えを参考にまとめてみると

- ① 骨形成を促す
 - ② セメント質の形成を促し、歯根との再付着を生じさせる
 - ③ 生体との親和性が高く、毒性、抗原性、起炎性、発癌性を有さない
 - ④ 容易に入手でき、操作性が良い
 - ⑤ 滅菌、消毒が容易で比較的安価である
- ことなどが挙げられるが、現時点でのHAP、TCPは③、④、⑤についてはその条件が満たされているものの、①、②については未だ確証は得られておらず、現在これらの条件が満たされるべく各分野での研究が進められている。

2. セラミックスの歴史と反応

人工合成材料としてのセラミックスの研究の歴史は浅く、僅か20年足らずである。このセラミックスの中でも、我々が通常臨床の場で応用しているのは、かなり純度の高いセラミックスでファインセラミックスと呼ばれている。

最近になって、このファインセラミックスの開発が大きく進展し、強度的にも改善され、生体内親和性にも優れ、細胞毒性の無いものが次々に製造され、人工骨、人工歯根、人工関節などに使用されるようになった。このような生体に使用されるセラミックスを別にバイオセラミックスと呼ばれている。このバイオセラミックスも生体に対する反応により以下のごとく3つに区分けされている。すなわち、

① 生体内不活性 (bioinert) セラミックス

生体内ではその成分がほとんど溶解されないが、無刺激性で安定なセラミックス

アルミナ、チタニア、カルシウムアルミネート、アルミノシリケート

② 生体内活性 (bioactive) セラミックス

移植材はほとんど吸収されず、成分がわずかに溶解して、移植材周囲に増骨を促すセラミックス

バイオグラス、結晶化ガラス、ハイドロキシアパタイト (高結晶性)「HAP」

③ 生体内分解 (崩壊) 性 (biodegradable) セラミックス

生体内で分解 (崩壊)・吸収されながら、新生骨に置換していくようなセラミックス

リン酸カルシウム「TCP」、ハイドロキシアパタイト (低結晶性)「HAP」である。

一方、移植骨の機能の理想は骨形成能 (移植した骨や骨髄組織自身による直接的な新生骨形成を生む機能) を有していることであるが、残念ながらバイオセラミックスにはこのような機能は有しておらないようである。しかし、骨誘導能 (移植した骨および骨髄組織が未分化間葉細胞を骨芽細胞に分化させ、骨形成に参加させる機能)、骨伝導能 (移植した骨および骨髄組織が直接骨形成に加わるのではなく、母床骨からの新生骨が移植骨部に成長、増殖する際の足場あるいは支持として働く機能) のいずれかの機能は有している可能性が考えられるが、現在でもバイオセラミックスが骨誘導能を有している^{7, 15)}。あるいは骨誘導能は無いが骨伝導能は考えられる^{7, 10, 16, 17)}など意見の一致はみえない。私見としては現時点でのバイオセラミックスには骨誘導能の期待は薄く、むしろ骨伝導能であると考ええる。

3. バイオセラミックス (HAP, TCP) インプラント観察対象症例

今回のHAP、TCPインプラントの対象は下記に示すような疾患により惹起された骨欠損部、あるいは他の処置との併用により、その臨床効果がより高められると考えられる症例、すなわち

1) 歯周炎骨欠損部への応用

2) 根分岐部病変への応用

3) 根尖病巣部骨欠損への応用

4) 歯内一骨内インプラントとの併用応用などである。

4. 臨床所見の評価基準

今回の臨床的推移の評価方法は以下に示すような評価基準に準じて行った。

1) ポケット測定値 (probing depth: 以下 P. D. と略す)

ポケットの測定は平板の 1 mm 間隔での目盛りを付与したポケットプローブを用い mm 単位で測定した。

1) プロービング時の出血 (gingival bleeding index: 以下 G.B.I. と略す)

ポケットプローブをポケット内に挿入し、ポケット内から取出し、10~15秒後にポケット内からの出血が認められれば“+” (活動性ポケット)、出血が無ければ“-” (非活動性ポケット) とし、ポケット内の炎症の有無ならびに治療の効果を評価した。

3) アタッチメントレベル (attachment level: 以下 A. L. と略す)

歯頸部すなわちセメント・エナメル境 (C. E. J.) からポケット底部までの距離をポケットプローブにより mm 単位で測定した。

4) 歯の動揺度

歯の動揺度については、生理的範囲内の動揺を M₀、軽度な動揺 (近遠心あるいは頬舌のないいずれかの動揺) を M₁、中等度の動揺 (近遠心、頬舌の動揺) を M₂、高度な動揺 (近遠心、頬舌、上下の動揺) を M₃ として判定した。

5) 歯肉の状態

歯肉の発赤、腫脹ならびに歯肉からの出血、排膿については、無ければ“-”、軽微であれば“±”、中等度の場合を“+”、著明に認められれば“++”とした。

6) X線所見

隣接面部の骨吸収状態は図1に示すような骨吸収メジャーを用い測定を行い%表示とした。しかし、根尖部、根分岐部などの骨吸収状態は、骨吸収メジャーの使用が不可能なため、透過度の度合いにより判定し

た。すなわち、透過度が見られないと“-”、軽度な場合“±”、中等度な場合“+”、高度に認められた場合を“++”として判定した。

II 各種骨欠損部への応用と臨床的推移

1. 歯周炎骨欠損部への応用

1) 垂直性骨欠損部への応用

バイオセラミックス応用の骨欠損形態としては、あまり多くの骨添加が期待できないとされているロート状の深い骨欠損を有する3壁性ならびに2壁性、あるいは深いクレーター状欠損形態に有用である^{10,18)}との報告でもわかるように、私も数年前からこのようなケースにTCP、HAPなどの応用を試みてきたので、今回は2~3のケースについての臨床的推移を紹介する。
(症例No 1、2、3)

clinical card からわかるように、3症例の内1症例 (症例No 1) はTCP移植1年後に抜歯を余儀なくされた。本症例の場合、初診時でのX線写真像、口腔内所見でもわかるように、隣接面とくに71の近心部に骨縁下ポケットを伴った高度な垂直性の骨吸収が見られると同時に、71の根周囲を取巻く透過像も見られ、歯の動揺度もM₃であり、その予後は不安視されていた。しかし、年齢も若く、歯の保存を熱望する患者の意思をくみ、歯肉剥離搔爬術を行い遠心部を含め入念な搔爬を行い、近心隣接面並びに根尖周囲の骨欠損部にTCPの移植を試みた。しかし、本症例のような場合、粒子の大きさや填塞器具の形態、大きさなどの関係上、隣接部骨欠損部へのTCP填塞はある程度可能であっても、根尖周囲にまでの填塞が不可能であり、徹底した搔爬のみに止どめざるを得なかったことにも起因しているかもしれない。上野ら (1987)⁷⁾も根尖周囲の残存骨を殆ど有さない6症例にバイオセラミックスを応用し、正否が相半

ばしたと報告しており、本症のケースと考え併せた場合、根尖周囲にまで骨の破壊が及んでいると思われるようなケースへのバイオセラミックスの応用にはより慎重に対応しなくてはならない。

一方、他の2症例〔症例No 2、3〕は現在も臨床的には異常もなく、良好な経過をたどっているが、本症例の場合、隣接面のみに限局した、垂直性の3壁性骨欠損であったことが、好結果につながったのかもしれない。しかし、反面このようなケースでは歯肉剥離搔爬術のみで骨破壊部の搔爬を徹底して行うことにより、骨の再生が期待出来ることもあり、移植の必要性の有無を問う今後の課題であるが、本症例の臨床的推移をこれからも継続観察していくことにより、何等かの解答が得られるかも知れないと考え、現在も経過の観察を行っている。

2) びまん性水平型骨吸収への応用

一般的に1壁性ならびに水平性骨欠損部へのバイオセラミックスの適応は移植材の骨欠損部での保持、滞留の面からも、あまり良い結果が得られないとの報告からも、びまん性水平型の骨吸収部へのHAP、TCPの応用はあまり行われていないようである。前述のように垂直性で3壁性骨欠損においては、歯肉剥離搔爬術により骨面を露出し、直視下で病的不良肉芽の除去とルートプレーニングの徹底を図ることにより、新生骨の造生が期待できる可能性は十分考えられる。反面、びまん性の水平型骨吸収の場合その可能性が極めて薄くその予後も必ずしも良好とはいえない。しかし、我々臨床家にとっては、このような予後が必ずしも良いとは言えない、むしろ悲観視されるような症例にこそ本材のようなバイオセラミックスの応用を行い、その歯の延命が図られるならば、きわめて喜ばしいことであり、バイオセラミックスの真の目的もこの点にあると考える。このような観点から、かなり高度なびまん性の水平型骨吸収を伴った歯周炎にも、HAP、T

CPの応用を試みてきた。〔症例No 4〕

clinical card、X線写真像からもわかるように、かなり高度なびまん性水平型骨吸収を伴った歯周炎である。そこで将来永久固定を前提に、歯肉剥離搔爬術を行い骨欠損部にHAPを移植した。なお、永久固定（本ケースの場合ポーセレン連続冠固定）時に出来るだけ3+3への負担を軽くする目的で、咬合を少し浅くし、同時に臨床的歯冠・歯根比を考慮して3+3の歯質の削除量はかなり多くなることが予測されたため抜髄を行った。本症例の場合現在1年数カ月を経過していたが、臨床的には異常は認められず、良好な経過をたどっている。本ケースの場合、HAPインプラントの効果も考えられるが、固定を行うことにより、個々に加わる咬合力をうまく多数歯に分散させることが出来たこととの相乗効果がこのような結果をもたらしたのではないかと推察される。本症例がたまたま事前に考えていた以上の良い結果が得られたことにより、全ての同様なケースに成功するとの結論づけははなはだ早計であると考えられるが、今後の長期的経過の継続観察と、同様なケースへの応用症例数をより多く観察していくことにより何らかの糸口が得られるものと思われる。そこで、現在も同様なケースにバイオセラミックスを応用し、追跡観察を行っているが、観察期間が1年未満のため2～3年経過した時点で再度まとめて報告する所存であるが、今回の結果から、バイオセラミックスの移植が、びまん性水平型骨吸収に応用しても、必ずしも悲観的ではなく、むしろ固定処置等とうまく併用することにより、かなりの効果が得られるのではないかと考える。

2. 根分岐部病変への応用

根分岐部へのHAP、TCPの応用としての、基礎的研究としては、石川ら(1985)²⁰⁾、清水ら(1985)¹¹⁾、田中ら(1985)¹⁰⁾、塩入ら(1987)²¹⁾が、臨床的には上野ら(1987)²⁾、徳永(1987)²²⁾、今井ら(1987)²³⁾といったように、

この2～3年の間にかなりの基礎的、臨床的検索がなされてきている。このことは、以前では予後が不安視されておった根分岐部病変も現在では必ずしもそうではなく、綿密な診査、診断、適正な治療によりかなりの長期間、保存が可能となってきたが、同時にそれら治療の効果をより一層高めるための一助としてのバイオセラミックスの応用がかなり有効であるとの考えから、この種の研究が盛んに行われるようになってきたものと思われる。反面、これらバイオセラミックスの根分岐部病変へ応用を疑問視している者もあるが¹⁾、根分岐部病変へのHAP、TCPなどのバイオセラミックスの応用がかなり有効であることを示唆している人達もかなりの多くを数える。そこで、私も根分岐部病変の処置と並行してHAP、TCPの移植を行い、その臨床的推移の観察を行ってきたのでその一端を紹介する。

1) 歯周炎による根分岐部骨欠損への応用

前述のように、この2～3年の間に歯周炎による根分岐部骨欠損に対し、その部の骨の再生を期待する目的でHAP、TCPの臨床的応用がなされ、その賛否両論はあるものの、そのケースによってはかなり有効な結果が得られているとの報告も多い。そこで私も数年前から、根分岐部病変による骨欠損部にHAP、TCPの移植を試み、その臨床的推移の追跡観察を行ってきたが、今回は移植後比較的早期に抜歯を余儀なくされたケースを含め2症例について紹介する。〔症例No 5、6〕

最初の症例〔症例No 5〕はTCP移植1年後に抜歯を余儀なくされたケースである。初診時でのX線写真像ならびに口腔内写真でもわかるように、グリックマンの分類3級に属するかなり高度な根分岐部病変であった。各種診査、検査の結果抜歯と診断したが、患者が当該歯の保存を強く希望したために、6の延命を図るべく方向で治療に着手した。初期治療後、できるだけ外科的な侵襲による歯肉の退縮、それに伴う知覚過敏などを考慮して、ポケット搔爬を行っ

た。その後経過観察中に歯髓炎様症状を呈したため歯内治療を行い暫間充填にて経過の観察を行っていたが、1年数カ月経過するも、その経過は芳しくなく患者に説明、了解のもと歯肉剥離搔爬術と根分岐部骨欠損へのTCPの移植を行った。しかし、移植後約1年目に歯肉の退縮が著明となり、根分岐部も口腔内に露出し（グリックマンの分類4級）、根尖部に達する深いポケットの形成とポケットからの排膿、出血も見られ、自発痛も覚えるようになった。そこで暫間固定を除去すると歯の動揺度もM₃を呈し、X線的にも根尖部にまで波及した広範囲な透過像が認められるようになり、種々な角度から診査した結果、予後不良と判定し、抜歯を決断した。現在⑦6⑥のブリッジが装着されている。

本ケースは初診時の時点ですでに抜歯と診断したような高度な根分岐部病変であったことと、徳永（1987）²²⁾の指摘しているような、下顎大臼歯の根分岐部は2級に限ること、3級のように頬舌的に交通しているような場合は禁忌である。との意見とを考慮併せた時、このような結果は止むを得なかったのかもしれない。同時に、結果論ではあるが、もし歯肉剥離搔爬術、TCP移植といった外科的処置を行わず、定期的なスケーリング・ルートプレーニングと言った初期治療を継続して徹底的に行っていたとするならば、もう少し歯の延命が図れたかもしれない。

次のケース〔症例No 6〕も前症例と同様、グリックマンの分類3級に該当するかなり高度な根分岐部病変であった。しかし、本症例では歯肉剥離搔爬術、TCP移植後歯内治療の必要性は生じたものの、5年経過した現在でも、歯肉の退縮はあるものの、歯の骨植状態も極めて堅固で、咀嚼時でも何等の支障もなく臨床的には良好な経過をたどっている。反面、X線的には骨の再生は起こっておらず、初診時より良くなっているような所見は同われず、歯槽硬線（白

線)の出現も認められておらない。本症例の場合T C Pが吸収置換される以前に何等かの原因で流出したのか、あるいは吸収したものの生体の骨再生能力が乏しいためにうまく骨増生できなかったかのいずれかではないかと考えられる。この点については現在追跡観察中の他の症例とも考え併せ今後の検討すべき問題である。

2) 髄床底穿孔部への応用

抜髄ならびに根管治療時に細心の注意を払っているにもかかわらず、根管側壁や髄床底部に人工的穿孔を引き起こすことがある。とくに、大臼歯部における髄床底部での穿孔は将来歯周組織の破壊にもつながり、その病因的意義は大きい。

この髄床底穿孔部へのバイオマテリアルの応用も近年盛んに行われ、Himel ら(1985)²⁴⁾、樋出(1985)²⁵⁾、樋出ら(1986)²⁶⁾、今井ら(1987)²⁷⁾が基礎的、臨床的に検討を行い、その有用性、有効性を示唆している。そこで、私も髄床底穿孔部閉鎖材としてのバイオセラミックスに着目し、臨床の場で2~3のケースに応用しその臨床的推移を観察してきたので、H A Pを穿孔部に応用した症例を紹介する。〔症例No 7〕clinical cardでもわかるように、上の咬合痛を主訴として来院してきた。各種診査、検査の結果慢性化膿性根尖性歯周炎と診断した。なお、根分岐部のX線所見から、根分岐部髄床底部に穿孔の疑いがあるため、オンレーを除去したところ、直径約3mm程度の穿孔が確認された。そこで、根分岐部病変の処置としての歯肉剥離掻爬術と髄床底穿孔部閉鎖と髄床底穿孔部直下の骨欠損補填のためのH A Pの移植を同時に行った。その結果、咬合痛、歯の動揺の軽減をはじめとする臨床所見の改善が認められたが、約1mm程度の歯肉の退縮も起こった。

一方、X線所見としては、依然として根分岐部でのH A Pの存在を伺わせる不透過像が認められたが、現時点では良好な臨床経過をたどっている。

3) 歯周一歯内併用療法への応用

歯周一歯内併用療法の代表的なものとしては、切断抜歯(ヘミセクション、トリセクション)、根切除があげられる。このような処置を必要とするケースでは、抜歯除去する根の支持歯槽骨はかなりの吸収をおこなっているため、根を抜歯除去した場合、その部の陥凹が著しくなり、ブリッジなどの作製時にポンティックの位置、形態に苦慮することがある。そこでこれらの問題を少しでも解決するために、ヘミセクションやルートリセクションでの抜歯窩にバイオセラミックスを応用することにした。しかし、堤(1987)²⁸⁾の、埋伏歯の抜歯窩に応用し、好結果を得たとの報告があるものの、本ケースのような症例にバイオセラミックスを応用し、長期観察を行っての報告は極めて少ない。反面、今回のようなケースでのバイオセラミックスの応用が成功すれば、前歯部のような審美性が要求されるような部位での、抜歯窩に使用することにより、ポンティックの形態付与の面、あるいはポンティック基底面と歯肉との調和の面なども含め、歯周一補綴の関連からも好都合となる点が多い。〔症例No 8、9、10〕

症例1〔症例No 8〕はヘミセクションを行い、抜歯窩にT C Pを移植したケースである。X線写真像でもわかるように、歯槽骨ならびにその上部組織である歯肉の陥没も少なく、ポンティックの基底面も両隣在歯とうまく調和をとることが出来たケースである。次の症例〔症例No 9〕は上顎口蓋根を抜歯し、その抜歯窩にH A Pを移植し、その臨床的推移を観察したケースであるが、clinical cardならびにX線所見からもわかるように、現時点では臨床的には異常は認められてはいない。従来から、上顎大臼歯口蓋根の抜歯は咬合関係からも予後が不良視されていた。しかし、本症例において、良好な結果が得られたということは、H A Pを抜歯窩に移植したことにより、抜歯窩骨面から進展してきた新生骨がうまくH A

Pを取巻くような状態を呈した結果、歯根の支持がより強化されたことにも起因しているのかもしれない。ただ、今回の症例だけでもって結論を出すのはいささか早計な感はまねがれず、今後症例数を増しての観察と同時に、本症例のより長期的な観察も必要と考え、現在も継続して経過の観察を行っている。しかし、今回の結果から従来では悲観視されていた上顎大臼歯口蓋根の抜歯も、抜歯窩にバイオセラミックを応用することにより、必ずしも悲観的でないことが示唆された。

最後の症例〔症例No10〕は、ルートリゼクションの抜歯窩への応用であるが、これも抜歯部歯肉の極度な陥没を防止する意味と、少しでも残存歯根の支持を高めるために応用したもので、現時点では前2症例同様、臨床的には良好な経過をたどっている。

以上3症例について説明したが、3症例の内1症例がTCP、2症例がHAPを移植したが、TCPのケースでは、2年4カ月目のX線所見では骨と移植材との境界はほとんど不明瞭となったが、HAPの場合では、骨との境界が明瞭であり、HAPの残存が伺われるような所見が見られた。なお、症例No9は口蓋部に移植の為、X線所見での骨との境界は観察出来なかった。いずれにしても、今回紹介した全症例が現時点では良好な結果をたどっていることは事実であるが、今後も経過の観察を行い、5～10年後の結果を楽しみにしている。

3. 根尖病巣部骨欠損への応用

根尖部の病変により根尖部歯周組織の破壊が起り、高度な根尖病巣が見られるようになり、歯内治療のみではその治癒が期待出来ない場合、根尖搔爬ならびに根尖切除などといった外科的処置が施される。このようなケースでは、殆どといっていいほど根尖部周囲の骨は破壊、吸収を被っている。従来からこのような歯内病変由来による骨破壊の改造は可逆的で、歯周疾患由来の骨破壊の改造は非可逆的であるとされている。従って、今回紹介するようなケースでは、

根尖部の病巣を外科的に完全に取除き、良好な根尖封鎖を行ってやれば、ある程度の骨の再生は期待でき、バイオセラミックスインプラントの必要はなかったかもしれない。しかし、高度に骨が破壊されているような場合では、バイオセラミックスの性状を考えた場合、骨補填ならびに根尖部封鎖のために応用したとしても決して意味の無いことではないと考え、数例のケースに応用し、その臨床的経過の観察を行ってきた。同様に堤(1987)²⁸⁾はⅡ根尖搔爬部に、星野(1987)²⁹⁾もⅡ歯根尖切除術後にHAPを移植し、好結果を得たとの報告を行っている。今回は移植後比較的早期抜歯となった症例を含め、2例について紹介する。〔症例No11、12〕

本症例〔症例No11〕はⅡの根尖部圧痛を主訴として来院してきた患者である。歯内治療により圧痛は消退したものの、X線所見では依然として透過度の消退が認められないため、根尖病巣部の除去を図る目的で、当該歯の歯肉剥離搔爬術を行ったところ、根尖部に想像していた以上の高度な骨破壊が確認された。そこで根尖病巣部の搔爬の徹底を図ると同時に、骨欠損部にTCPの移植を行った。移植後1年6カ月経過した時点では、X線的には軽度な透過像は認められるものの、臨床的には疼痛などもなく経過は良好である。

次に紹介する症例〔症例No12〕は、75歳とかなり高齢な患者であるが、各種診査、検査結果から抜歯したほうが賢明であると判断した。しかし、残存歯が残り少なくなってきたことから、患者の出来るだけ保存してほしいとの希望を踏まえ、Ⅱの根尖搔爬を行い、骨欠損部にTCPの移植を行い、A-splintにより、暫時経過の観察を行っていた。しかし残念なことに、1年2カ月目にポケットからの排膿ならびに歯の動揺も著明となり、自発痛や咬合痛も伴ってきたために、抜歯を余儀無くされた。このケースも抜歯が適応と考えられるにもかかわらず、患者の意思を尊重して残してきたわけであるが、患者自身はかなり満足はしていたようであった。例えは適当でないかもしれないが、一般医科においては、明日の命さえ危ぶまれる患者に対し

ては、無駄で徒労に終る可能性が多分にあるにもかかわらず、延命を図るべく最善の努力が払われるのと同様に、歯科においても、例えその努力がむくわれなくても、出来る限りの延命策を請うじることが歯科医としてのフィロソフィーであると考えた場合、本症に対する処置は決して誤っていないと確信している。また、抜歯後における抜歯窩のX線写真像でもわかるように、TCP移植部でのTCPの残存が伺われた。その結果、通常の抜歯後のような抜歯窩の極度な陥凹もなく、義歯作製時にも好都合となった。

本症のようにかなりの高齢者で、しかも天然歯の保存を強く希望する患者、あるいは上野ら(1987)¹⁾の言っているバイオセラミックスは適応以外に、通常の処置では罹患歯の保存を図ることが不可能な症例に限って用いるべきである。との意見とを考え併せた時、本症例のように歯の延命を図るべく手段としての利用もバイオセラミックスインプラントの1応用法であると考ええる。

4. 歯内一骨内インプラントとの併用応用

周知のように歯内一骨内インプラントは、骨の吸収に伴う臨床的歯冠一歯根比の不均衡を改善し、その歯の骨植の安定、強化を図るためのものである。換言すれば、一種の歯内固定法(endodontic splint)であり、挿入された金属、セラミックピンは歯の安定装置(stabilizer)の役目を果たしている。

以上のようなことから、歯内一骨内インプラントを必要とするような歯においては、かなり高度な骨の破壊、吸収がある。そこで、歯内一骨内インプラントを行うと同時に、骨欠損部にバイオセラミックスを移植することにより、より一層の増強が図られるとするならば、その利用価値は十分にあるものと考え、10数歯に適用してみた。今回紹介するケース(症例No13)は、Ⅱに歯内一骨内インプラントを行い、Ⅲの骨欠損部にTCPの移植を行ったものであるが、1年経過後のX線写真像ならびにclinical cardからもわかるように、根尖部の圧痛、違和感などもなく臨床的には順調な経過をたどっている。

本症例のような歯内一骨内インプラントとバイオセラミックスの併用応用を行っての、臨床的経過を追った観察報告は現時点では見られておらないことから、他者との比較は出来ないものの、今回の観察結果から、バイオセラミックス利用の1方法となるのではないかと考える。

なお現在、右側の小臼歯を抜歯(叢生歯)し、左側小臼歯部の位置に歯内一骨内インプラントにより再植し、その部にHAPを同時に移植し、経過の観察を行っているので、機会をみて報告する。

Ⅲ 今後の展望と問題点

病気というものが、その原因と抵抗力のバランスに破綻が生じた時に発症すると言われているように、同程度のケースに同じように移植を行っても、異なった結果が生ずるということは、バイオセラミックスが骨再生の場を確保はしてくれるものの、その後の成否を左右するのは個々の再生能力、すなわち生体の抵抗力が大きく関与するものと考えられる。このことから、バイオセラミックス応用に際しても、疾患の程度もさることながら、年齢なども考慮にいれておくことが大切であると考ええる。一方、現在臨床で応用されているバイオセラミックスには骨伝導能がある^{7・10・16・17)} 骨誘導能がある^{7・15)}、TCPが良い¹¹⁾、HAPの方が骨移植には適している^{6・13)}など意見の統一は見られておらない。このように、意見の一致が見られておらないということは、反面、色々な問題点が多々残されていることを意味している。しかし、現在臨床で利用されているバイオセラミックスのほとんどが、細胞毒性がなく、生体親和性の面でもかなり優れたマテリアルであるというのが、大方の考えのようである。そこで、現在問題点として考えられるような事項について挙げてみると

(1) 歯根膜線維の再生と機能的配列が期待できるバイオセラミックスの出現

生体新素材の表層を一層の骨組織が被覆している場合には明らかな歯根膜組織中のコラーゲン線維が進入していることが認められるが、新素材が直接歯根膜組織中に露出してい

る部位では、コラーゲン組織の進入は認められず、線維の機能的配列も不十分である³⁰⁾。また、移植後、根尖部に生じる骨形成の際にも、歯根と新生骨あるいは新素材との間には歯根膜の再生は確認されていない。⁷⁾ などといった報告からも今後の問題点であろう。

(2) 積極的な骨形成能がない

骨形成能を期待することは無理としても、骨誘導能が確実に期待できるものの出現が待たれる。

(3) 移植材の維持が不安定である。

(4) 移植材填塞時の圧、範囲などが不統一である。

移植材填塞時の量については、骨縁より多くても、少なくともいけないう。同縁が適当であるとの意見が大勢を占めているが、圧、範囲については、非吸収性の移植材(HAP)においては、できるだけ密に、しかも死腔を作らないように充填する必要があるが、吸収性の移植材(TCP)は自家骨と同じような充填の方法でも十分に効果があるように思える。³¹⁾ といったような意見はあるが、確証は得られておらない。この点での見解の統一がまたれる。

(5) 移植部の歯槽骨に歯槽硬線の出現が見られない

青野ら(1987)¹³⁾は、HAPを移植した場合、移植後かなりの長期間経過しているにもかかわらず、歯槽硬線の出現が見られないとしており、私が行ってきたほとんどの症例においても、歯槽硬線の出現を見ていない。このことは、山田ら(1987)³⁰⁾の生体新素材の表層が歯根膜組織中に直接露出している部位では、明らかなコラーゲン線維の進入が認められず、線維の機能的配列も不十分であった。との報告からも歯槽硬線の出現しないことが推察される。従って、バイオセラミックス移植後の歯槽骨の形態、ならびに骨様組織が、自家骨移植後の回復時の状態と若干異なっている事が考えられる。

(6) 骨の量的増加は勿論であるが、歯根膜を含めた歯周組織の改善、すなわち、修復(repair)

ではなく、再生(regeneration)が期待出来る

・ バイオセラミックスの出現

(7) 適応、禁忌の確立

(8) 抗原性の問題

HAP、TCP双方において、体液性免疫は見られなかったが、TCP(シンソグラフ)では、細胞性免疫の成立が認められた。³²⁾との報告がある。

(9) 骨内に取込まれた非吸収性のバイオセラミックスが、再度骨吸収が生じた場合の行方は?

非吸収性のバイオセラミックス移植による、骨の再生が可能となったとしても、将来その部が疾患に犯されないといった保障はない。そのような時、非吸収性であるがために、いったいどのような運命をたどっていくのか、現時点では不明な点が多い。上野ら(1987)⁷⁾も同様に、移植後、骨組織の形成によってその内部に取込まれた新素材の粒子が、病変の再発により、再度の吸収の際に、非吸収性であるが故に深部歯周組織や顎骨内に残留する点を考慮しなくてはならないとしている。

(10) 移植後歯肉の退縮がおこる。

(11) 吸収性、非吸収性使用用途の確立

船越³¹⁾ら(1987)は、吸収性の新素材(TCP)は2壁性、広い3壁性、狭い3壁性骨欠損およびそれらの複合型欠損に適しているが、1壁性骨欠損や根分岐部病変にはあまり良い結果が得られない。また、非吸収性の新素材(HAP)は、組織吸収が起こらないので、1壁性骨欠損や根分岐部病変に対しての移植材として使用することも可能なようである。と報告している。原ら(1987)³²⁾も、骨補填材としては、骨再生が起こる場には吸収性の材料を使用して将来は完全に骨に置換することが望ましく、骨再生が期待出来ない場には、非吸収性で永久的に填塞部に止まる材料が望ましい。ヒトの歯周炎における垂直性骨欠損は、本来、治療することにより歯槽骨再生が起こる場であると考えられるので、吸収性の材料が望ましい。としているが、確たる使用用途の区分はなされていない。

IV おわりに

Barkhordar ら (1986)³⁴⁾ が、synthograft を根尖搔爬部に応用し、結果として失敗をしたことの理由に、感染源と炎症巣の除去が不完全であったことを挙げ、HAP や TCP は生物学的適合性において良好ではあるが、持続的な弱い感染が存在する場合には、これら材料の使用は禁忌かも知れない。と言っているように、歯周治療の基本となるべき処置をなおざりにしてのバイオセラミックインプラントの成功は望まれず、むしろ地味ながらもブラックコントロール、スケーリング・ルートプレーニングといった初期治療を徹底して行い、再評価の後に基本に忠実な歯周外科とバイオセラミックスの移植とが相俟ってこそ成功が望めるのである。しかし、その前提には綿密な診査と的確な診断、予後の判定ならびに患者自らが行うブラックコントロールの励行があることは言うまでもない。

現時点でのバイオセラミックスの応用は、歯周外科の主役ではなく、あくまでも脇役であることを重ね強調しておきたい。

最後に本症例の治療に際し、御助力いただいた、歯科補綴学第二講座末瀬一彦助手、歯科補綴学第二講座大学院井田治彦先生、ならびに口腔治療学講座の畠銀一郎助手、伊地智弘昌助手に心より謝意を表する。

引用文献

- 1) Dressmann, H.: Über Knochenplombierung. Beitr. Klin. Chir., 9, 804—810, 1892.
- 2) 民上良徳: Infrabony pocket への plaster implant 応用に関する基礎的研究—とくに下顎骨の実験的骨欠損への plaster of paris implant を考慮して—日歯周誌, 25, 9—43, 1983.
- 3) 橋本光示: Infrabony pocket への plaster implant 応用に関する基礎的研究—実験的骨欠損に対する paste 状 plaster の応用—日歯周誌, 25, 44—65, 1983.
- 4) 三瀬博司: Infrabony pocket への plaster implant 応用に関する基礎的研究 骨表面に新生骨を誘導させる能力 日歯周誌, 28.
- 5) 護邦忠弘: Infrabony pocket への plaster implant 応用に関する基礎的研究 顆粒状 plaster implant における歯周組織の態度について 日歯周誌, 28.
- 6) 若月達也: 顎骨欠損部への Hydroxyapatite (HAP) 移植後の治療過程に関する実験的研究 多孔性 HAP と緻密性 HAP との比較について, 歯科学報, 85, 931—952, 1985.
- 7) 上野和之, 高谷直伸, 菅野 健, 熊谷敦史, 大阿久国賢, 八重柏 隆: 生体新素材の歯周治療への応用—とくに移植後の臨床経過について the Quintessence, 別冊, 167—179, 1987.
- 8) 末田 武, 中山清貴: 生体活性ガラスの歯周治療への応用に関する基礎的研究: the Quintessence, 別冊, 155—166, 1987.
- 9) 勝谷芳文, 堀田善史, 岩田幸雄: ブロック状ならびに顆粒状ハイドロキシアパタイトの歯槽骨欠損移植材としての応用. the Quintessence, 別冊, 79—92, 1987.
- 10) 田中良彦, 和泉雄一, 渡辺 久, 萩原さつき, 石川 烈: 多孔質アパタイト移植に関する臨床的研究 術後1年間の観察結果 日歯周誌, 27, 444—457, 1985.
- 11) 清水光雄, 原 耕二: シンソグラフト応用による垂直性骨欠損の補填 2年間の観察期間症例について. 日歯周誌, 27, 643—650, 1985.
- 12) 林 成忠, 木村美保, 呉 哲彦, 米良豊常, 西原達次, 野口俊英, 木下四郎, 加藤一男: サルの歯槽骨欠損部における Hydroxyapatite の移植の臨床および組織学的研究. 日歯周誌, 25, 919—935, 1983.
- 13) 青野正男, 原宣興: 辺縁性歯周炎における骨移植材としてのハイドロキシアパタイト, the Quintessence, 別冊, 51—65, 1987.

- 14) Levin, M. P., Getter, D. E. and Bhaskar, S.N.: Biodegradable ceramic in periodontal defects. Oral Surg., 38, 344—351, 1974
- 15) 原 宜興, 岸 哲也, 古川猛士, 鄭 有仁, 長嶺尚子, 谷 和代, 吉村祥子, 赤峰昭文, 前田勝正, 青野正男: リン酸カルシウム系セラミックの歯周治療への応用 3. 実験的歯周炎へのHydroxyapatiteの応用。日歯周誌, 26, 542—555, 1984.
- 16) 鴨井久一, 那波明夫, 米山武義, 林 英昭, 西澤和利, 渡辺是久: 歯周治療における骨移植の研究第2報 Hydroxyapatiteのマイクロラジオグラフィおよび病理組織学的研究。日歯周誌, 26, 523—531, 1984.
- 17) 山田 了, 大須賀 豊, 築瀬一彦, 飯島敏, 渡辺一夫, 佐藤 弘, 佐藤徹一郎: ラットの歯槽骨欠損部への Hydroxyapatite 補填に関する組織学的研究。歯科学報, 86, 687—695, 1986.
- 18) 山田 了: 垂直性骨欠損部への Biomaterialの応用。歯科ジャーナル, 22, 773—783, 1985.
- 19) 野間弘康, 石川達也編集, 大野 誠著: 骨補填材の基盤の臨床。歯周炎による垂直性骨欠損へのアクトセラムK補填手術 初版, クインテックスKK, 東京, 1987, 39—55.
- 20) 石川一郎, 松江美代子, 田原 洋, 山田総一郎, 桐野忠昭, 松江一郎: ビーグル犬の根分岐部病変への各種移植材の比較検討。日歯周誌, 27, 570—587, 1985.
- 21) 塩入隆行, 松江美代子: 根分岐部に移植したHAPの骨形成および歯根膜の両生に関する研究, 日歯周誌, 29, 689—705, 1987.
- 22) 徳永憲一: 歯科における生体新素材の応用—下顎大臼歯部の根分岐部病変に自家骨と人工合成移植材(HAP)を用いた3症例について— the Quintessence, 別冊, 235—245, 1987.
- 23) 今井久夫, 三瀬博司, 護邦忠弘, 民上良徳, 山岡昭: バイオセラミックスの根分岐部病変への応用—とくに tricalcium phosphate について— the Quintessence, 別冊, 141—154, 1987.
- 24) HIMEL, V. T., BRARY, J. & WEIR, J.: Evaluation of repair of mechanical perforation of the pulp chamber floor using biodegradable tricalcium phosphate or calcium hydroxide. J. Endod., 11, 161—165, 1985.
- 25) 樋出 誠: 無機医用生体材料の応用による髓床底穿孔部の処置に関する実験病理学的研究。歯科学報, 85, 571—611, 1985.
- 26) 樋出 誠, 中村恭子, 原 泰司, 古沢正仁, 山之内美恵子, 中川寛一, 伊藤彰人, 浅井康宏: 無機医用生体材料の応用による髓床底穿孔部の処置に関する実験病理学的研究補遺, 特にハイドロキシアパタイトを長期間応用した場合について。日歯保誌, 29, 752—761, 1986.
- 27) 今井久夫, 上羽建二, 釜谷晋平, 山岡 昭, 伊地智弘昌, 鈴木陽子, 畠 銀一郎, 戸田忠夫: Bioceramicsの臨床応用, その1 髓床底穿孔部への応用。日歯保誌, 30, 205—212, 1987.
- 28) 境 義親: 歯科における生体新素材の応用 多孔質ハイドロキシアパタイトの歯周および根尖部骨欠損への応用。the Quintessence, 別冊, 107—112, 1987.
- 29) 星野清興: アパタイトセラミックス骨補填材の応用。the Quintessence, 113—125, 1987.
- 30) 山田 了, 佐藤徹一郎: 生体新素材が骨新生, 歯根膜線維形成に及ぼす影響に関する諸問題。the Quintessence, 別冊, 183—198, 1987.
- 31) 船越栄次, 川木戸 敏: 歯科における生体新素材の応用 歯周外科治療における生体新素材, 吸収性ならびに非吸収性骨移植材の応用。the Quintessence, 別冊, 247—257, 1987.

- 32) 原 耕二, 清水光雄, 片桐慎治, 杉田浩之, 和田隆史: β -tricalcium phosphate(TCP) 移植の臨床応用とその問題点。骨のでき方についての病理組織学的研究を加える。the Quintessence, 別冊, 127-139, 1987。
- 33) 笹岡邦典, 瀬戸院一, 次田 正, 鶴 純明: 各社3リン酸カルシウム(β -TCP)の抗原性に関する実験的研究。第30回秋季日本歯周病学会抄録集, 50, 1987。
- 34) Barkhordar, R. A. & Meyer, J. R.: Histologic evaluation of a human periapical defect after implantation with tricalcium phosphate。Oral Surg.61,201-205,1986。



写真1 術前のX線写真



写真2 インプラント後10カ月目のX線写真像

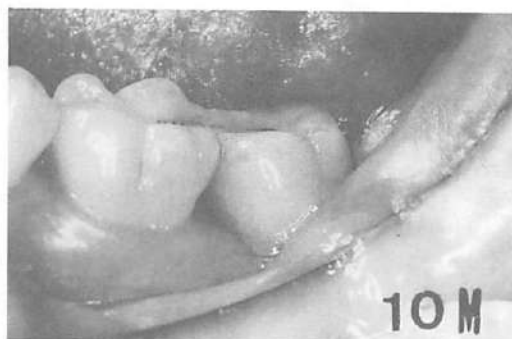


写真3 インプラント後10カ月目の口腔内



写真4 インプラント後1年目に抜歯



写真7 インプラント後3年10カ月目の
X線写真像



写真5 術前のX線写真像



写真8 インプラント後3年10カ月目の
X線写真像



写真6 術前の口腔内



写真9 術前のX線写真像



写真10 術中の口腔内（歯肉剥離掻爬術）



写真13 術前のX線写真像



写真11 インプラント後4年10カ月目のX線像（初診時より5年2カ月経過）



写真14 術中の口腔内（歯肉剥離掻爬術）



写真12 初診時より5年2カ月経過後の口腔内



写真15 インプラント後1年4カ月目の口腔内



写真16 インプラント後1年4カ月目の
X線写真像



写真19 インプラント後1年目の
X線写真像



写真17 初診時のX線写真像



写真20 ブリッジが装着された口腔内



写真18 初診時の口腔内

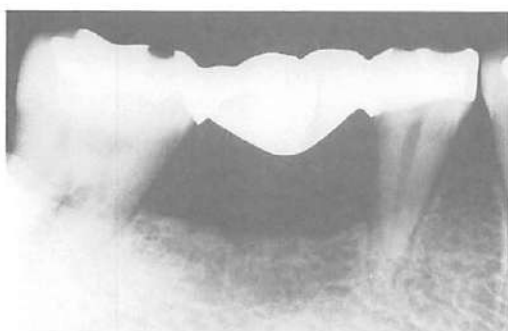


写真21 ブリッジが装着されたX線写真像



写真22 初診時のX線写真像



写真25 インプラント後5年目の口腔内



写真23 術中の口腔内（歯肉剥離掻爬術）



写真26 初診時のX線写真像



写真24 インプラント後5年目のX線写真像



写真27 髄床底穿孔を示す口腔内

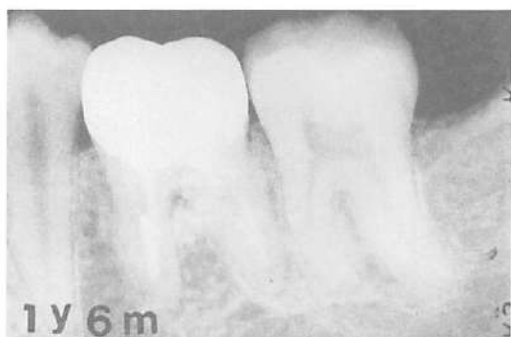


写真28 インプラント後1年6カ月後の
X線写真像



写真31 ヘミセクション、インプラント
後7カ月目のX線写真像（イン
プラント材と骨の境界が明瞭）

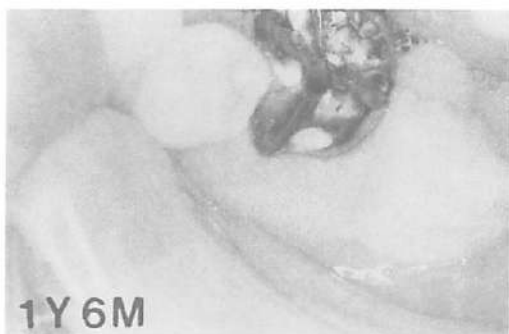


写真29 インプラント後1年6カ月後の
口腔内

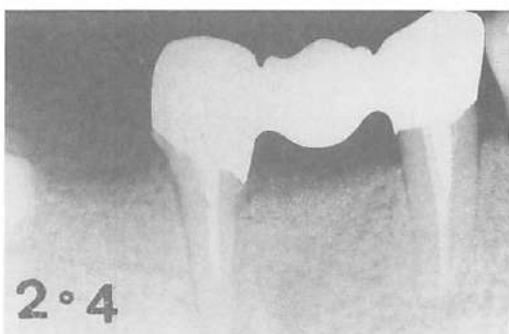


写真32 術後2年4カ月目のX線写真像
（インプラント材と骨と境界不
明瞭）



写真30 初診時のX線写真像



写真33 術後2年4カ月目の口腔内



写真34 初診時のX線写真像



写真37 口蓋根抜歯、インプラント後
2年目の口腔内



写真35 初診時の口腔内



写真38 歯内治療終了1ヶ月目のX線写真
像



写真36 口蓋根抜歯、インプラント後
2年目のX線写真像



写真39 ルートリゼクション直後の口腔
内、搔爬後インプランテーション

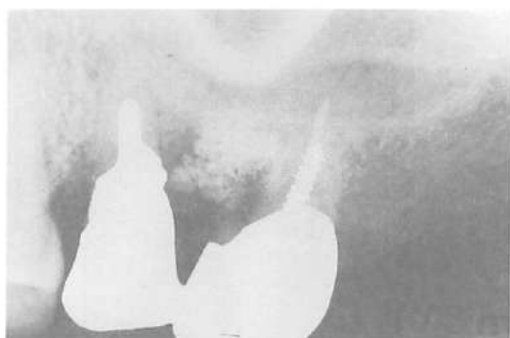


写真40 ルートリゼクション，インプラント後1年3カ月目のX線写真像（HAPの残留著明）



写真43 初診時の口腔内

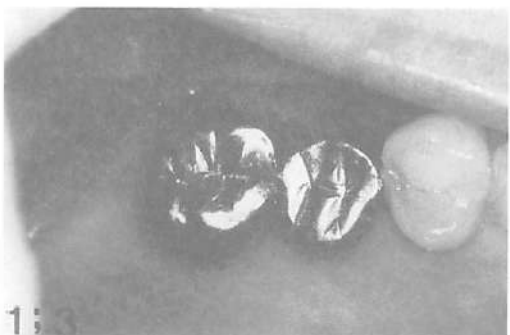


写真41 ルートリゼクション，インプラント後1年3カ月目の口腔内



写真44 根尖搔爬術中（根尖部の骨吸収著明）

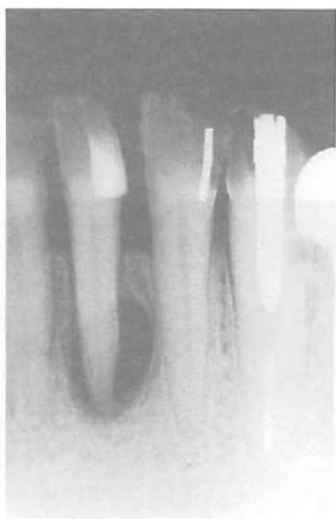


写真42 初診時のX線写真像



写真45 術後1年6カ月目のX線写真像



1; 6

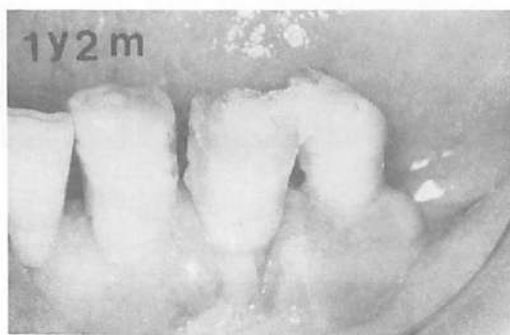
写真46 術後1年6カ月目の口腔内（歯肉の退縮は改善されておらない）



写真48 根尖搔爬、インプラント、ワイヤーレジン固定1年2カ月目のX線写真



写真47 歯肉治療終了時のX線写真像



1Y2m

写真49 術後1年2カ月目の口腔内、歯肉の退縮著明



e x t

3 m

写真50 抜歯後の3カ月目のX線写真像

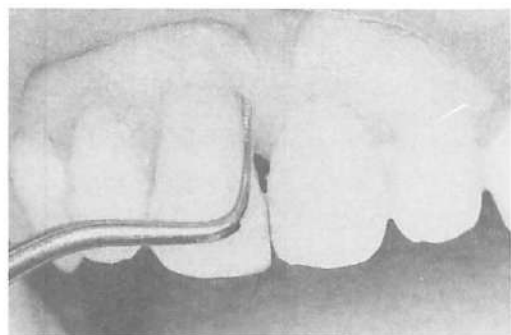


写真51 術前の口腔内

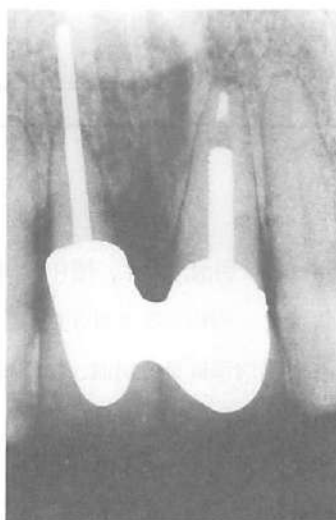


写真53 歯内一骨内インプラント，TCP
インプラント後1年目のX線写
真像



写真52 歯肉治療終了時のX線写真像



写真54 歯内一骨内インプラント，TCP
インプラント後1年目の口腔内

clinical card

カルテNo 2403

姓名：横● 和● 性：♂，♀ 年齢：27歳 生年月日：明治，大正，昭和 32年 7月16日 初診日：昭和59年 8月3日 主訴：歯肉部排膿、出血、歯の動揺 手術日：昭和60年 4月19日 移植部位：7 近心骨欠損部 移植材料：Synthograft				(備考) 移植後1年目の昭和 61年 3月 4日に予後 不良と判定、抜歯に いたる。(昭和61年 1月24日にインレー 固定)
clinical findings				
	手術日	6カ月後	1年後	(備考)
臨床所見	S60 / 4 / 19	S60 / 10 / 25	S61 / 3 / 4	
ポケット測定値	7 mm	4 mm	5 mm	
プローピング時の出血	+	-	+	
アタッチメントレベル	6 mm	4 mm (G. A : 1)	6 mm	
歯の動揺度	M ₃	A-splint	inlay split	抜歯時M ₃
歯肉の状態 腫脹	+	+	++	
発赤	+	+	++	
排膿	+	-	++	
出血	+	+	+	
X線所見	65%	60%	80%	

clinical card

カルテNo. 2403

姓名：藤◎ 純◎ 性：♂、♀ 年齢：53歳 生年月日：明治、大正、昭和 14年12月25日 初診日：昭和54年11月9日 主訴：歯肉部出血、排膿 手術日：昭和59年11月20日 移植部位：7 近心骨欠損部 移植材料：Synthograft				(備考) 移植後暫時経過の観察を行い、約1年後に⑦⑥⑥のブリッジの装着をする
clinical findings				
	手術日	6ヵ月後	1年後	(備考)
臨床所見	S59/11/20	S60/5/11	S60/12/23	
ポケット測定値	8 mm	6 mm	4 mm	近心部
ブローピング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	7 mm	6 mm (+1)	ブリッジ	
歯の動揺度	M ₂	M ₁	ブリッジ	
歯肉の状態 腫脹	+	-	+	
発赤	+	-	+	
排膿	+	-	-	
出血	+	-	+	
X線所見	100%	60%	測定不可	

clinical card

カルテNo. 2403

患者氏名：藤● 純●

(備考)

術後3年4ヵ月後の臨床状態は良好であったが、3年10ヵ月後の状態は必ずしも良好とは言えず、特に歯肉の状態が芳しくなかった。しかし、X線所見は普通である。

clinical findings

	2年後	3年4ヵ月後	3年10ヵ月後	(備考)
臨床所見	S61/9/4	S62/3/31	S62/9/17	
ポケット測定値	4 mm	4 mm	5 mm	
プロービング時の出血	—	—	+	
アタッチメントレベル	ブリッジ	ブリッジ	ブリッジ	
歯の動揺度	ブリッジ	ブリッジ	ブリッジ	
歯肉の状態 腫脹	—	—	+	
発赤	—	—	+	
排膿	—	—	—	
出血	—	—	+	
X線所見	測定不可	測定不可	測定不可	

症例No. 2

clinical card

カルテNo 018

姓名：尾● 美●子 性：♂，♀ 年齢：36歳 生年月日：明治，大正，昭和21年1月12日 初診日：昭和57年10月6日 主訴：歯肉部排膿、歯の動揺 手術日：昭和58年1月28日 移植部位： <u>65</u> 隣接面骨欠損部 移植材料：Synthograft				(備考) 移植後2年2カ月目に若干再発傾向がうかがわれたため、TBIの徹底をはかる
clinical findings				
	手術日	8カ月後	2年2カ月後	(備考)
臨床所見	S58/2/28	S58/12/17	S60/10/9	
ポケット測定値	5 mm	3 mm	4 mm (+1)	
プロービング時の出血	+	-	+	
アタッチメントレベル	6 mm	5 mm (+1)	5 mm	
歯の動揺度	M ₂	M ₀	M ₁	
歯肉の状態 腫脹	+	-	+	
発赤	+	-	+	
排膿	+	-	-	
出血	+	-	+	
X線所見	50%	48%	40%	

症例No 3

clinical card

カルテNo. 018

患者氏名：尾◎ 美◎子

(備考)

術後4年8カ月経過するも、臨床的、X線の所見は良好である。しかし、骨メジャーによれば5%の骨吸収が認められた。

clinical findings

	3年2カ月後	4年後	4年10カ月後	(備考)
臨床所見	S61/4/1	S62/2/20	S62/10/13	
ポケット測定値	3 mm	3 mm	2 mm	
プロービング時の出血	—	—	—	
アタッチメントレベル	5 mm	5 mm	4 mm (A. L : 1)	
歯の動揺度	M ₀	M ₀	M ₀	
歯肉の状態 腫脹	—	—	—	
発赤	—	—	—	
排膿	—	—	—	
出血	—	—	—	
X線所見	40%	40%	45%	

症例No. 3

clinical card

カルテNo 2403

姓名：藤◎ 純◎ 性：♂，♀ 年齢：53歳 生年月日：明治，大正，昭和14年12月25日 初診日：昭和54年11月9日 主訴：歯肉部腫脹、歯の動揺 手術日：昭和61年5月23日 移植部位： <u>2-1-2</u> 骨欠損部 移植材料：BONETITE				(備考) 移植手術後暫間固定 にて経過を観察の後 永久固定を術後10カ 月目に行った
clinical findings				
	手術日	4カ月後	1年4カ月後	(備考)
臨床所見	S61/5/23	S61/9/4	S62/9/17	
ポケット測定値	6 mm	4 mm	3 mm	平均値
プロービング時の出血	+	—	—	
アタッチメントレベル	7 mm	6 mm (G.A:1)	splint	
歯の動揺度	M ₂	M ₁	測定不可	
歯肉の状態 腫脹	+	—	—	
発赤	+	—	—	
排膿	+	—	—	
出血	+	—	—	
X線所見	72%	65%	測定不可	

clinical card

カルテNo 4198

姓名：北● 末● 性：♂，♀ 年齢：41歳 生年月日：明治，大正，昭和 20年9月24日 初診日：昭和56年4月1日 主訴：歯肉部出血、 <u>6</u> 咬合痛 手術日：昭和57年10月15日 移植部位： <u>6</u> 根分岐部骨欠損部 (Glickman, 3) 移植材料：Synthograft				(備考) 上昇性歯髓炎様症状を呈したため、歯内治療を行い、その後移植手術を行ったが経過芳しく無く、1年後に抜歯にいたる
clinical findings				
	手術日	6ヵ月後	1年後	(備考)
臨床所見	S 57 / 10 / 15	S 58 / 4 / 28	S 58 / 10 / 19	
ポケット測定値	7 mm	4 mm	3 mm	
プローピング時の出血	+	+	+	
アタッチメントレベル	8 mm	8 mm (G. A : 1)	8 mm (G. A : 1)	
歯の動揺度	M ₂	A-splint	M ₃	
歯肉の状態 腫脹	++	+	+	
発赤	++	+	+	
排膿	+	—	+	
出血	++	+	+	
X線所見	+++	+++	+++	

症例No 5

clinical card

カルテNo 5783

姓名：中● 由● 性：♂、♀ 年齢：35歳 生年月日：明治、大正、昭和 26年2月25日 初診日：昭和57年7月15日 主訴：歯肉退縮、口腔内違和感 手術日：昭和57年12月3日 移植部位：7 根分岐部骨欠損部 (Glickman,3) 移植材料：Synthograft				(備考)
clinical findings				
	手術日	1年後	1年8カ月後	(備考)
臨床所見	S57/12/3	S58/12/3	S59/8/30	
ポケット測定値	4 mm	2 mm	2 mm	分岐部
プロービング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	6 mm	5 mm	5 mm (G. A : 1)	
歯の動揺度	M ₁	M ₀	M ₀	
歯肉の状態 腫脹	+	+	-	
発赤	+	+	-	
排膿	+	-	-	
出血	+	+	-	
X線所見	+++	+	+	

clinical card

カルテNo. 5783

患者氏名：中◎ 由◎

(備考)

移植による骨の再生は伺われないが、歯の骨植状態は堅固である。しかし、口腔清掃状態はあまりよくなく、TBIの徹底をはかっている。

clinical findings

	2年7カ月後	4年4カ月後	5年後	(備考)
臨床所見	S60/7/20	S62/4/7	S62/10/23	
ポケット測定値	2 mm	2 mm	2 mm	
プロービング時の出血	—	—	+	
アタッチメントレベル	5 mm	5 mm	5 mm	
歯の動揺度	M ₀	M ₀	M ₀	
歯肉の状態 腫脹	—	—	—	
発赤	—	—	—	
排膿	—	—	—	
出血	—	—	—	
X線所見	++	+	+	

症例No. 6

clinical card

カルテNo 416

姓名：上● 建● 性：♂，♀ 年齢：26歳 生年月日：明治，大正，昭和 34年12月18日 初診日：昭和60年 6月25日 主訴：「6」咬合痛 手術日：昭和61年 4月19日 移植部位：「6」根分岐部穿孔部 移植材料：Alveograf				(備考) 「6」約10年前に歯内 治療を受ける。再治 療の後、穿孔部と根 分岐部骨破壊の部分 に移植、経過は良好 である。
clinical findings				
	手術日	1年後	1年6ヵ月後	(備考)
臨床所見	S61 / 4 / 19	S62 / 3 / 26	S62 / 10 / 26	
ポケット測定値	5 mm	2 mm	2 mm	分岐部
プローピング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	6 mm	4 mm (G. A : 1)	4 mm	
歯の動揺度	M ₁	M ₀	M ₀	
歯肉の状態 腫脹	±	-	-	
発赤	±	-	-	
排膿	+	-	-	
出血	+	-	-	
X線所見	++	±	±	

clinical card

カルテNo 2255

姓名：土● 博● 性：♂，♀ 年齢：46歳 生年月日：明治，大正，昭和 12年9月7日 初診日：昭和59年4月19日 主訴：歯肉部排膿 手術日：昭和59年10月14日 移植部位： <u>6</u> 切断抜歯抜歯窩 移植材料：AUGMEN				(備考) 根管充填後1カ月目に ヘミセクションを行 い、その抜歯窩に 移植を行う
clinical findings				
	手術日	1年4カ月後	2年4カ月後	(備考)
臨床所見	S59/10/14	S61/2/25	S62/3/24	
ポケット測定値	5 mm	3 mm	3 mm	
プロービング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	5 mm	測定不可	測定不可	
歯の動揺度	M ₂	ブリッジ	ブリッジ	
歯肉の状態 腫脹	+	-	-	
発赤	+	-	-	
排膿	+	-	-	
出血	+	-	-	
X線所見	+++	+	±	

clinical card

カルテNo. 745

姓名：伊●久●子 性：♂，♀ 年齢：39歳 生年月日：明治，大正，昭和 18年1月3日 初診日：昭和60年3月9日 主訴：欠損補綴、 <u>6</u> 違和感 手術日：昭和60年10月25日 移植部位： <u>6</u> 根分岐部（口蓋根切除、搔爬部） 移植材料：Alveograft				（備考） 根管充填後約1ヵ月 目に手術を行う。 移植2年後では若干 の透過像が見られる が、歯肉の状態、歯 の骨植状態は良好
clinical findings				
	手術日	10ヵ月後	2年後	（備考）
臨床所見	S60/10/25	S61/8/19	S62/10/6	
ポケット測定値	2 mm	2 mm	2 mm	
ブローピング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	9 mm (G.A:6)	測定不可	測定不可	
歯の動揺度	M ₁	M ₀	M ₀	
歯肉の状態 腫脹	+	-	-	
発赤	+	-	-	
排膿	+	-	-	
出血	+	-	-	
X線所見	+++	+	±	

clinical card

カルテNo 419

姓名：和● 歌● 性：♂，♀ 年齢：47歳 生年月日：明治，大正，昭和 13年 8月 15日 初診日：昭和61年 3月 24日 主訴：└ 6 疼痛 手術日：昭和61年 5月 29日 移植部位：└ 6 近心頬側根、根切除 移植材料：BONETITE				(備考) 根管充填1ヶ月後に ルートリゼクション を行い、根除去窩に 移植、臨床的経過は 良好である。
c l i n i c a l f i n d i n g s				
	手術日	6ヵ月後	1年3ヵ月後	(備考)
臨床所見	S61/5/29	S61/12/4	S62/9/12	
ポケット測定値	5 mm	2 mm	2 mm	
プローピング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	6 mm	5 mm (G, A: 2)	5 mm	
歯の動揺度	M ₁	Splint	Splint	
歯肉の状態 腫脹	+	-	-	
発赤	+	-	-	
排膿	+			
出血	+	-	-	
X線所見	++	+	+	

症例No 10

clinical card

カルテNo. 6065

姓名：藤● 恵●子 性：♂, ♀ 年齢：41歳 生年月日：明治, 大正, 昭和 16年12月24日 初診日：昭和59年11月29日 主訴：1 根尖部圧痛 手術日：昭和60年11月29日 移植部位：1 根尖骨欠損部（根尖搔爬） 移植材料：Synthograft				（備考） 根尖病巣があったため 歯内治療を行い、 1カ月経過後に移植 を行う
clinical findings				
	手術日	1年後	1年6カ月後	（備考）
臨床所見	S60/11/29	S61/11/18	S62/5/12	
ポケット測定値	2 mm	2 mm	2 mm	
プロービング時の出血	+	-	-	
アタッチメントレベル	5 mm	5 mm	5 mm	
歯の動揺度	M ₂	M ₁	M ₀	
歯肉の状態 腫脹	+	-	-	
発赤	+	-	-	
排膿	+	-	-	
出血	+	-	-	
X線所見	+++	++	+	

clinical card

カルテNo. 305

姓名：畑● 常● 性：♂，♀ 年齢：75歳 生年月日：明治，大正，昭和 44年7月12日 初診日：昭和59年11月10日 主訴：┌45 咬合痛 手術日：昭和61年2月8日 移植部位：┌4 根尖搔爬部 移植材料：Synthograft				(備考) 歯内治療終了約1カ月後に根尖搔爬を行い、その部に移植をして、経過を観察したが、1年2カ月後予後不良のため抜歯
clinical findings				
	手術日	9カ月後	1年2カ月後	(備考)
臨床所見	S61/2/8	S61/11/11	S62/4/8	
ポケット測定値	6 mm	4 mm	5 mm	
プローピング時の出血	+	-	+	
アタッチメントレベル	7 mm	7 mm (G,A:2)	8 mm	
歯の動揺度	M ₃	A-splint	M ₃	
歯肉の状態 腫脹	++	++	++	
発赤	++	+	+	
排膿	++	-	+	
出血	++	-	+	
X線所見	+++	+	++	

症例No. 12

clinical card

カルテNo. 415

姓名：田● 佐●子 性：♂，♀ 年齢：43歳 生年月日：明治，大正，昭和18年9月19日 初診日：昭和57年2月6日 主訴： <u>1</u> 歯の動揺 手術日：昭和61年10月17日 移植部位：歯内一骨内インプラントとの併用（ <u>1</u> ）骨欠損部 移植材料：Synthograft				（備考） 歯内治療約2カ月後に歯肉剥離掻爬術を行い、歯内一骨内インプラントと骨欠損部への移植を同時に行った
clinical findings				
	手術日	6カ月後	1年後	（備考）
臨床所見	S61/10/17	S62/4/27	S62/10/21	
ポケット測定値	9 mm	4 mm	3 mm	
プロービング時の出血	+	—	—	
アタッチメントレベル	10mm	7 mm (G.A:2)	測定不可	
歯の動揺度	M ₂	M ₁	Splint	
歯肉の状態 腫脹	+	—	—	
発赤	+	—	—	
排膿	—	—	—	
出血	+	—	—	
X線所見	68%	65%	測定不可	

定年退職記念講演

S63. 3. 12

名誉教授 筒井正弘



学生時代も含めて50年間、わが家と同様に親しみ、こよなく愛してきた大阪歯科大学を定年退職することになり、過ぎ去った長い年月を回想し、苦楽共に豊かであった有形無形の事柄が恰も走馬燈のように私の脳裏をかけめぐって、永かったようにも感ずるし、ほんの束の間であったとも想われ、感慨無量であります。

本日は教職員の皆さんの他に、学生諸君が多数出席して頂いておりますので、本学に奉職して42年の間、私の歩んで参りました跡ところどころを、主に大学での人との出会いと、教室同人と共に学んだ研究のあらましを中心にお話を致します。

昭和21年8月、4年8ヶ月間の軍務を終えて、スマトラのパレンバンから帰国して直ぐ、学生時代から研究室で病理標本作製などのお手伝いをさせて頂いて、先生の学徳を敬慕していた恩師小野寅之助先生に帰国の挨拶に伺ったところ“若い間に医・歯学の基礎的な知識をしっかりと身につけておくことが何より大切です。早速、私が手続をしておくから研究室に来なさい”との温かいお言葉を頂き、本来好きでもあったの

で、それ以来42年間、私は歯科基礎医学の道をただ一筋に歩んでまいりました。

当時の口腔解剖病理学教室には、小野寅之助主任教授の下に白数美輝雄教授と中村正雄助教授がおられただけで、私が入室して4名となり、その後、青山敏男、柴田寛一君らが入室し、昭和24年4月には織田正豊、武田謙二君らの新卒業生が4名も入室し、教室も活況を呈しましたが、戦後の復員学生などが多く増員されて専門学校を終り前後の学生の組織実習や病理組織実習等は実習室が狭いために、同じ実習を2～3回に分けて行ったことも3～4年間続きました。しかし、教室員が一致協力してこの繁忙期を無事乗り越えることができました。

私は昭和23年講師となり、昭和26年1月、それまでに纏めた「口腔（口、歯、顎）の歯科法医学的研究、特に犯罪者の双生児法研究に就いて」の論文を、当時本学に非常勤講師として法医学の講義に來校しておられた、京都大学名誉教授、京都府立医科大学講師の小南又一郎博士の推挙を得て、京都府立医科大学の2月の学術集談会で発表、同年10月、学位請求論文を提出し翌昭和27年2月、私どもとしては同医科大学への持込み第1号の医学博士の学位を得ることができました。そして、昭和28年大学助教授に昇任いたしました。

昭和27年5月西村典三君が入室し、そして平野嘉男君が同29年4月、卒業して直ぐ入室し、教室は一層活気に溢れましたが、同年秋に、牧野学舎本館3階のバルコニー上に研究室が増設され、口腔解剖学教室が口腔病理学教室より分離独立し、白数美輝雄教授が主任教授となり、中村正雄教授、古橋九平、織田正豊両講師、堀口助手らが同教室に移籍いたしました。

昭和29年当時の教室の主な研究課題は、文部省の科学研究費の交付を受けた「老人の歯、口、顎に関する研究」で、私が老人歯病学に関する調査研究班長となり、西村典三、平野嘉男助手と数名の専攻生とで研究班を編成し、それに当時学生であった。内海順夫君他数名の有志学生の献身的な協力を得て、関西全域の養老施設と鳥取県、大分県のほとんどの同施設の老人の歯、

口、顎の調査研究を3年有余の日時をかけて行い、老人歯病学に関する一連の研究成果を各人が分担して取組め発表し、研究班員のうち9名が京都大学の鈴江懐教授の紹介を得て論文を京都大学に提出し、医学博士の学位を授与されました。

平均寿命が「人生50年」といわれたころに比べて1.5倍にものび、高齢化社会に向って着実に進んでいる今日、歯科でも老人医療の問題が切実なひびきを持って来ていることから、昭和29年当時、私たちが行った老人の歯口顎に関する統計的な調査研究成績が学術会議の専門部会で参考資料として役立っていることを知り喜んでいる次第であります。

研究室には、永年収集された奇形歯が、その種類や数において、我が国屈指の至宝として保管されていますが、これらの奇形歯に関する詳細な形態病理学的研究によって、昭和35年から38年の間に芦田佐仁氏ら8名の研究生が京都大学より医学博士の学位を得ています。

なお昭和36年と37年には渡辺凡夫と井田勝造の両君が、本邦固有の木床義歯の医史学的研究により京都大学より医学博士の学位を得ていますが、私は入室以来、小野教授のご指導の下、研究生の各種の広範囲にわたる研究の手伝いをすることによって、数多くの人々と出会い、そして、その人達から種々の貴重なインスピレーションを受けましたし、口腔領域は勿論、幅広い知識と経験を得ることができたことを無上の喜びと思っています。

昭和36年4月、待望の大学院歯学研究科が設置され、大阪市内の天満橋学舎に現在の大学院の基礎系新学舎が6月に完成しましたので、夏期休暇中を利用して新学舎に移転、6階の東北に位置する現在の研究室が与えられ、教室員一同感激し、今後一層努力して教育研究の整備充実に励むことを誓いあったのも昨日のこの様に思い出されます。

移転当時の教室員は、小野寅之助教授、筒井正弘助教授、西村典三講師、平野嘉男講師、内海順夫助手、小島佐野研究補助員の6名で、病理学総論の講義のため京都大学の鈴江懐教授に

週1回水曜日の午後、非常勤講師として来校願ひ、一般病理標本の収集その他種々お世話になって、学生の教育や研究上非常に益するところ多く、幸い致しました。

昭和37年4月、栗岡博良君が当教室の大学院生の第1号として入学し、同39年5月、椿本九美夫君が卒業して直ぐ副手として入室し、教室は一層充実してまいりました。

昭和39年、本学に初めて定年制(67才)が設けられた結果、昭和40年3月末を以って小野寅之助教授と飯塚淳一郎先生が定年退職され、永年の本学の功績により、両先生に本学では最初の名誉教授の称号が贈呈されました。

小野寅之助教授のご退職の後、昭和40年4月1日付で口腔病理学教室の主任教授の後任に、不肖私が選ばれて就任いたしました。

小野寅之助先生の退職記念行事の1つとして、「根管(歯髓腔)解剖図鑑」小野寅之助著を翌41年11月3日に記念出版されました。

昭和41年3月当教室の大学院生の第1号である栗岡博良君は大学院を修了し、歯髓腔の形態とくに狭窄化の成因に関する病理組織学的研究という卒業論文を提出し、歯学博士の学位を得ましたが、以後、今日迄10名の大学院生の卒業者が出ていて、現在在籍している教室員のほとんどがそれらの人達で、教育、研究活動を熱心に行っています。

昭和43年4月16日、慈父のようにお慕い申し上げていた恩師・小野寅之助先生が享年78才で逝去され、私は心の支えを失った思いをいたしました。

同年5月11日、大学葬が天満橋学舎の大講堂でしめやかに取り行われましたが、在りし日の先生の学徳を偲んで、全国から多数の会葬者が参列されました。

文部省の科学研究助成金の交付を受けて購入された西独製の万能顕微鏡などの新しい諸種の研究機器類を駆使して、それに私共が独自に開発したScratch methodを応用し、象牙芽細胞を新鮮未固定の生きた状態で分離し、in vitroで本細胞の細胞生物学的研究が開始され昭和45年以降、臨床上多くの示唆に富み有益な研究成

果が毛利彌、島原健夫、吉田国厚君らによって公表され、それぞれ歯学博士の学位を得ています。

歯髓腔とくに根管形態の観察所見については、先の小野寅之助先生の著述になる「根管（歯髓腔）解剖図鑑」などに詳細に記載されていますが、歯の外形と歯髓腔の大きさの比率や副根管の発現部位と発現率、また、とくに歯根の外形（圧扁度）と根管形態の相関関係等を統計的に数値で表わした詳細な報告が見当らなかったもので当時、教室に在籍していた研究生のうち堀内正啓、久家安造、小野正中、淡井一郎、青木昭一、斎藤精司君らの6名の研究生により各歯種別の根管形態に関する解剖病理学的研究なる研究論文をまとめ、昭和45年から同46年の間に全員が歯学博士の学位を授与されています。

私は当時、多くの疾患や老化という生理的な現象までも免疫との関わりあい論ぜられ、生体における免疫現象の重要性が唱えられ、それらの究明に免疫組織学的方法が使われ、その中でも特異性の決定に蛍光抗体法が優れていることを知り、歯科医学界では未だほとんど注目されていなかった標識抗体法を口腔領域の疾患の研究に応用することに着目し、昭和39年4月から椿本九美夫助手を半年間にわたり京都大学の病理学教室に国内留学させ当時の浜島義博助教授、京極方久講師に指導を願い、蛍光抗体法の理論とその技法を取得させ、以後、その手技を歯牙う蝕症と辺縁性歯周炎の口腔の2大疾患をはじめ、歯髓疾患、根尖性歯周疾患などの口腔領域の各疾患の免疫病理学的研究に応用いたしました。

すなわち、昭和43年椿本講師により「蛍光抗体法による歯頸性歯周組織疾患の免疫病理学的研究とくに歯槽膿漏症患者の歯肉における *Staphylococcus* および *Streptococcus* 抗原の局在性について」、同44年本庄紘大学院生により同法による歯髓組織における Plasma Protein の局在性について、翌45年竹内宏大学院生は同法により、ラットの歯肉に注射された *Bacteroides Melanogenicus* の動態と歯肉組織の反応性について、翌46年には住谷道夫講師が標識抗体法に

よる歯牙う蝕症の病理学的研究により、同47年岡下守正大学院生により同法による歯根尖病巣の免疫病理学的研究によって、同50年西田健当時の講師により口腔常在細菌と体液性抗体に関する免疫病理学的研究が、そして同60年には岡村敬次助手は *Histological Study on the Localization during Caries* によって歯牙う蝕症におけるイムノグロブリンの局在性を研究し、それぞれ歯学博士の学位を取得いたしました。その前後に教室に在籍していた20名前後の専攻生も標識抗体法による一連の研究により口腔疾患における免疫機構関与の重要性を実証し、臨床的にも価値ある数多くの業績を挙げ歯学博士の学位を得ております。

なお、昭和57年、掛樋明助手は歯根膿胞におけるコラーゲン線維分解過程の電子顕微鏡的研究、竹内正幸専攻生による歯根膿胞におけるコラーゲン線維の形態学的研究—FLS線維の形成部位と形成機序—の研究論文により両名共歯学博士の学位を得ています。

昭和53年当時、大学院生の田中昭男君は辺縁性歯周炎ならびにモルモットに惹起させた歯周炎の歯肉に存在する各種細胞の種々な脱水素酵素活性の局在を光顕的にそして一部電顕的に明らかにして論文に纏め歯学博士の学位を得ましたが、その後も歯周疾患を酵素組織化学的ならびに電顕的および電顕細胞化学的な観点から解明する一環として、各種動物の歯肉やヒトおよびサル炎症歯肉を用いて教室同人と共に数多くの研究がなされ興味ある新知見を順次発表し、協同研究者の10数名が歯学博士の学位を得ています。1970年後半から、1980年代は細胞融合法を利用したモノクローナル抗体の作製および応用が世界的に研究されましたが、その当時歯科領域では全くといっていいほど自らそれらの抗体を作製し、研究や応用をしようとする者がいなかった状況でありました。

そこで私は細胞融合法を応用したモノクローナル抗体による分子レベルでの研究に着目し、昭和57年魚部健市講師を米国メリーランド州ジョーンズホプキンス大学医学部に一年間留学させ、モノクローナル抗体の作製法を修得させました。

昭和59年、モノクローナル抗体の作製と口腔領域の疾患への免疫組織化学的応用研究を開始し、大学院生の和田聖二、専攻生の武田良一、岡本浩、口分田学君などの他数名の教室同人が本研究によって歯学博士の学位を取得しました。

私は第28回春季日本歯周病学会の特別講演で「モノクローナル抗体の免疫組織学的応用」のテーマで教室で作製した、ヒト、サル、イヌの各種歯肉コンポーネント（歯肉上皮、フィブロブラスト、コラーゲン、リンパ球など）に対するモノクローナル抗体や各種のイムノグロブリンをはじめとする血漿蛋白や組織構成蛋白、細胞表面抗原、酵素、ホルモン、微生物、腫瘍関連抗原、細胞骨格成分など多岐にわたる市販モノクローナル抗体を使用して、口腔領域の疾病および腫瘍への免疫組織学的応用性について考察し、また、文献上の興味ある研究などについても紹介いたしました。

なおこの数年来、上海第2医科大学からの要請を受け、舌癌に対するモノクローナル抗体の作製と、その免疫組織化学的研究および臨床診断あるいは治療への試みを協同研究の形でやってきています。

当教室では昭和51年以来、実験腫瘍とくに口腔領域の扁平上皮癌に関する研究を始めましたが、まず、当時大学院生であった西川哲成君はハムスター・マウス・ラットに発癌物質（DMBA）で誘発させた頬部粘膜癌・皮膚癌の形成過程を病理組織学的に観察し、次いで、担癌化によるリンパ球とくに腫瘍に対して最も密接な関係にあると考えられる担癌ハムスターの所属リンパ節を含めた各部位のリンパ節リンパ球の機能の変化を、Con A, PHAなどによるマイトゲン幼若化反応の3H-チミジンの取り込みを指標に検索し、興味ある新知見を得てこれを発表し歯学博士の学位を得ましたが、さらに教室の専攻生らと共に癌性貧血にも注目し、その原因の究明のため、骨髓組織の造血機能を ^{59}Fe 標識クエン酸鉄の利用度から、また脾臓網内系組織の赤血球貪食性を ^{51}Cr 標識加変性赤血球の取り込みから検索しました。

これら3H・ ^{59}Fe ・ ^{51}Cr などのラジオア

イソトープ（RI）の使用によって、今まで生体の機能を固定した組織・細胞の一時期を形態的に観察していた方法から、生きた組織の機能をダイナミックに、しかも数値により把握することが可能となりました。

すなわち、病変を形態的のみならず、機能的な面からも検索することに注目し、私は昭和53年11月から2ヶ月間、西川哲成助手を科学技術庁の放射線医学総合研究所に派遣し、同56年に第1種放射線取扱主任者の資格を得させました。

今後、生態の機能を測定する際に、歯科領域においても、このRIの使用頻度がますます増えるであろうと考え、臨床上の診断、治療上は勿論のこと基礎的研究上からも、本学にも一日も早くRIの設置が望まれるところであります。

また、モノクローナル抗体法の発達により、各種抗リンパ球抗体を用いてリンパ球を分類することが可能となりました。

私は、昭和58年度科学技術研究費補助金による研究成果の報告書で、その有用性を述べ、前記の第28回春季日本歯周病学会の特別講演でも舌癌におけるリンパ球サブセットの局在性を紹介するとともに、癌抗原の解明にモノクローナル抗体の必要性をも説きました。

さらに、Fluorescence activated cell sorter（FACS）の開発によって、リンパ球サブセットの分類を数的に把握することが可能となりましたし、細胞の分裂程度を指標とした細胞動態の検索（BrdU法）が可能となりました。

なお、当教室では腫瘍免疫解明の一助として、マウスの担癌化によるリンパ球サブセットの変化を調べており、血液、脾臓のリンパ球に引き続いて、現在各部位のリンパ球の免疫担当細胞の割合の検索も行っています。

さらに、BrdU法を応用して各免疫系組織におけるリンパ球の細胞動態の測定から担癌宿主のリンパ球機能の解明に、また腫瘍細胞の細胞動態の観察から腫瘍組織の診断への応用へと展開しつつある現況であります。

本口腔領域の実験的腫瘍に関する研究によって所属の専攻生である岡本学、善睦彦ら9名が、それぞれ分担した研究成績を纏め、全員歯学博

士の学位を得ています。

1960年代からプロスタグランジン（PG）の分離、構造の決定が行われ、ついで化学合成されるに至ってその多種、多様な生物、薬理作用の研究が飛躍的な発展を遂げたPGに着目し、本教室ではその研究の一環として、辺縁性歯周炎の病態とPGの関連についての研究が和唐雅博大学院生を中心に始められました。

口腔領域においても1970年代より歯周疾患との関連が注目され初めたが、当教室ではいち早くその初期より研究を行っていたので、その成績の一端を1979年の第20回基礎歯科医学会総会で魚部健市講師らによって「辺縁性歯周疾患の組織化学的研究—ヒト歯肉中のプロスタグランジン（PG）—」と題して歯肉組織内のPGの局在を蛍光抗体法で検索し、その存在を明らかにしました。

その後も、教室同人の岡邦恭、三浦康弘、三浦克敏らによって、歯肉組織中のPGをGC-MS、ならびに高速液体クロマトグラフィを用いて定量方法を確立し、なお、PGおよびPG抗体のELISAによる分析と題する研究によって、従来のRIA法に比べ、抗体の確認ならびに定量の簡便な方法を確立していますが、これらの研究成績は将来、辺縁性歯周炎の診断上有用となるものと考えます。

以上が、昭和21年（1946）大学に奉職いたしましてから今日まで42年間の研究のあゆみの概要であります。いずれにしても、私のような微力で至らない者が、多くの輝かしい業績と伝統をお作りになった恩師・小野寅之助先生の後任教授として、また、学校法人の理事職までも永い間勤めさせて頂くことができましたのは、全く恩師ならびに教職員の皆様および昭和21年以降、本学を卒業されました7,300有余名の同窓会の方々ととの大学での出会いとそれらの皆様の温かいご懇情によるものであります。

ここに衷心からお礼を申し上げますと共に、大阪歯科大学の一層の発展と皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

（追伸 本原稿は最終講義時間の関係上、当日の講義内容に加筆したものである。）

支部だより

東 北

東北支部として発足、東北六県支部長会議

8月21日仙台市茂庭、鐘景閣に於て東北六支部合同支部長会議が開催された。同窓会本部より奥野同窓会長、新田専務を迎え東北支部設立について話し合わせ全員一致で可決された。本部の承認を得て東北支部としてスタートする。

新支部長は山形県支部長だった片山俊彌先生を選出し今後は支部会則に従って運営される。

現在六県で26名の同窓会員がおるが、近年県内及び隣接県内に歯大が乱立し子弟も近隣歯大に入学する場合も多く同窓会員も増加する傾向にないが、今後は東北支部として同窓の絆を太くし連結を密にしてゆきたい旨決議、奥野会長より支部の今後の発展と激励の言葉を給わり一同決意を新たにした次第である。今後共益々の御指導をお願いする。

(宮城県 高橋記)





愛 媛 県

大阪歯科大学夏期学術研修会開催さる

昭和63年度、同窓会夏期学術研修会が、7月30日（土）、31日（日）の2日間にわたり、同窓会学術部と愛媛県支部の共催により、愛媛県口腔保健センターにおいて開催されました。

この研修会も既に14回目。今回は古跡、藤井両教授による日常臨床に欠くことの出来ない、X線写真とコンポジットレジン充填に関する学術研修会を行いました。参加された90名の先生方は、臨床にすぐ役立つ内容の講義に、熱心に耳を傾けておられました。1日目に講演された古跡教授によるレントゲン先生に関する珍しいスライドも印象的でした。2日目の藤井教授によるコンポジットレジンやライナー等の市販品について比較検討された使用上の勘どころなど

も臨床家にとって大変有難い内容でした。講演後の質問も次々に出ておりましたが、時間の関係で閉会となり、もう少し時間があれば良かったのという感じがしました。

30日の懇親会は、平田淳愛媛県支部専務理事の司会で始まり、同窓会々長を20年間務められた奥野半蔵先生からバトンを受けて、今年4月に新しく同窓会々長になられた奥野喜一先生が次のような挨拶（要旨）をされました。「今回の夏期研修は、愛媛の野村会長はじめ同窓の先生方に大変お世話になりました。生涯研修ということで、65年からは2年間に40ポイント取らなければいけないということで、特に厚生省の保険の関係の方では、この生涯研修のポイントいかんによっては、保険医の指定を拒否をする場合もあるというような事まで言っております。大変情けないことを、厚生省はいうものだと思う



ているのですが、私共は、生涯研修につきましては、強制されるまでもなく、自らが研修をしていく事は当然なことで、同窓会と致しましては、それらを側面的にご協力を申し上げて行く考えでございます。愛媛県同窓の先生方は勿論ですけど、四国の同窓の先生方にも、これからのご厚情をお願い申し上げます。先生方には是非お願いしておきたいことが一つあります。それは、きたる11月13日に京都の都ホテルにおきまして、第10回の全国同窓会員大会を開催させて戴きます。是非ともお出ましをお願い致す次第でございます。本日はどうも有難うございました。」

続いて田窪才祐愛媛県歯科医師会々長、野村寿郎愛媛県支部会長の歓迎の挨拶がありました。次いで、同窓会副会長村上勝先生の乾杯の音頭で、宴会は賑やかに開幕、同じ釜のめしを食った同窓の仲間が旧交をあたため、教授とひざを交えて胸襟を開き、懇親を図りました。時間の

経つのを忘れた楽しい一時でありました。最後に、森松貞民愛媛県支部副会長の挨拶があり閉会しました。

(平松昌俊 記)

研修会参加者

昭和63年7月30～31日

於 愛媛県口腔保健センター

大 分	(専32回)	内尾 政信
岡 山	(大18回)	小山 直樹
広 島	(大8回)	鎌田 久史
	(大8回)	前場 政巳
山 口	(大16回)	山本 陸紀
香 川	(大26回)	谷口 晃
愛 媛	(専21回)	日野 文雄
	(専21回)	長野丑太郎
	(専26回)	田中 實
	(専29回)	野村 寿郎

(専29回) 森松 貞民
 (専29回) 野村明治郎
 (専30回) 徳高 良造
 (専31回) 三上 晃生
 (大3回) 井笹 慶一
 (大4回) 馬越 脩
 (大5回) 田中 雄三
 (大8回) 二宮 浩治
 (大8回) 井出 博文
 (大9回) 日野 満
 (大9回) 日野 幸子
 (大10回) 大井 修
 (大12回) 長谷川郁夫
 (大13回) 平田 淳
 (大13回) 保田 国雄
 (大13回) 青野 紀昭
 (大14回) 高橋 一郎
 (大15回) 中島 将元
 (大15回) 和泉 功一
 (大16回) 松岡 洋平
 (大16回) 田中 逸朗
 (大16回) 米田 征司
 (大18回) 亀田 邦彦
 (大18回) 長谷川 章
 (大18回) 平松 昌俊
 (大19回) 新谷 光夫
 (大19回) 宮本 哲博
 (大19回) 石丸 明
 (大19回) 石野 憲二
 (大20回) 直野 良信
 (大21回) 坂田 秀敏
 (大21回) 浪瀧 豊
 (大22回) 布井 憲治
 (大23回) 道田 寿彦
 (大23回) 坂田 茂樹
 (大25回) 古城 望
 (大25回) 中村 稔
 (大25回) 浅井 仁
 (大26回) 石崎 和彦
 (大26回) 清水 信興
 (大27回) 田中 徹
 (大28回) 佐々木勝英

大 阪

(大28回) 浅野 一郎
 (大31回) 吉見 裕史
 (専28回) 松本 博
 (専30回) 大塚 禮三
 (専32回) 坂口 可子
 (大2回) 岡本 圭史
 (大9回) 中村 守良
 (大10回) 磯田 欣二
 (大10回) 白神 正夫
 (大10回) 中庭 寿朗
 (大12回) 田治米保夫
 (大12回) 黒川 森夫
 (大13回) 中村 孝子
 (大4回) 直田 清康
 (大5回) 久保 龍三
 (大10回) 柏木 新介
 (大10回) 永井 清方
 (大13回) 畔脇 良逸
 (大16回) 豊川 輝久
 (大17回) 矢富 義昭
 (大17回) 牛嶋 宏幸
 (大20回) 菊池 肇
 (大23回) 舛谷 利文
 (大28回) 狩谷 幸夫
 (神奈川歯大) 宮山 研一
 (愛知学院歯) 加藤潤一郎
 (専24回) 片尾 信之
 (専25回) 鈴木 能弘
 (専28回) 村上 勝
 (大3回) 斉藤 精司
 (大14回) 富井 章
 (大29回) 荒井 亮雄

兵 庫

京 都

富 山

愛 知 県

奥野喜一先生大阪歯科大学同窓会 会長就任祝及び学術研修会の開催

昭和63年9月18日(日)、名古屋都ホテルにて午後3時より朝日大学第3補綴学教授藤井輝久先生を講師としてお迎えし「無歯顎の咬合を考える」とのテーマにて学術研修会が開催されました。明日からの臨床に役立つようにと多数の先生方が熱心に耳を傾けていました。

学術研修会終了後、午後5時より奥野喜一大阪歯科大学同窓会会長による時局についてのお話がありました。

「とにかく暗い話題の多い歯科界ではありますが、我が同窓が心を一にし、力を合わせ歯科界の連帯と発展のため一身を捧げたい」との力強いお言葉がありました。又、11月13日に京都にて開催される大阪歯科大学同窓会第10回全国会員大会にぜひ多数の参加の強い要請がありました。

午後6時より本部より新田専務理事、岡常務理事同席のもと奥野同窓会会長就任祝の宴が開かれました。愛知県歯科医師会会長宮下和人、坂井剛専務理事他多数の先生方の出席のもと盛會裡に祝賀会のひとときを過ごしました。奥野先生の今後益々の御活躍をお祈り致します。

奈 良 県

去る6月19日(日)神原神宮会館に於て、63年度大阪歯科大学奈良県同窓会が、新卒者6名、来賓17名、会員129名の計152名の出席のもと開催されました。

新会長には平井康允前副会長が、花岡会長に代り承認されました。

これにより8月28日(日)奈良のあやめ館に於て、役員会、及び評議員会が開かれ、新役員と評議員が出席しました。新役員は次の通りです。

会 長	平井康允	
副会長	青木昭一、米本 優、大江正倫	
理 事	森 高廣(総務)	熊本邦恵(庶務)
	西浦 宏(会計)	吉田國厚(広報)
	金子 勝(広報・共済)	
	北折忠之(学術)	小池恭弘(福祉)
	岡下守正(渉外)	神吉利郎(組織)
	松井喜雅(厚生)	森本清治
	大野忠彦	藤本吉孝
	下岡史男	中林祥价
	岡本吉行	米田攝郎
	吉野次信	美登路雄一
	木下好雄	
監 事	北岡敏男	浦崎忠行
顧 問	有山金吾	花岡繁一
参 与	福岡保郎	

その他42名の評議員と16名の各委員となっています。

和 歌 山 県

同窓会総会並びに辻本先生藍綬褒章 受賞御祝および新入会員歓迎会開催

8月27日(土)午後3時から県歯科医師会館において実施された。来賓として大学側より稗田豊治教授(9月1日より学長に就任される)を、同窓会本部より副会長松本博先生を又、近府県よりは京都、滋賀、兵庫、奈良の各同窓会長及び地元県歯科医師会長辻本信輝先生をお迎えし、出席会員80余名の参加を得て盛大に挙行された。和中理事の司会で溝上副会長の開会の辞に続いて、先ず久保会長の挨拶があり、冒頭に稗田次期学長の御両親は和歌山県の方であり、今回県内御出身の学長を出す事は非常に名譽であり又、心強いと述べられた。次に62年度5名の物故会員に対し黙禱を捧げた後、来賓祝詞に移る。最初に稗田教授より大学の近況について話されその中で、米年度は歯科医師削減計画の線に沿って募集定員は128名に減少する意向を示された。次に本部代表松本先生は20年間に亘る奥野半蔵会長の勇退に伴い、4月より現大阪府同窓会長奥野喜一先生が本部同窓会長に就任

せられ新しい体制下の同窓会活動が、始まることとなり、同窓会員こそって新会長の為一層の努力と団結を賜りたいと要望された。近府県代表として京都府同窓会長野添先生は来る11月13日同窓会全国大会が京都で開催される事になっており、これを成功させる為、特に1人でも多くの会員の出席を望まれた。又地元県歯会長辻本先生は、非常に数少ない藍綬褒章受賞の歓びとその責任の重大さを述べられると共に、大歯同窓会に対し感謝の意を表された。続いて辻本先生に対し久保会長より御祝品を贈呈。以上で来賓はひとまず退場。これより総会議事の審議に入る。議長には堤宣人先生が選出され議事事項は全員一致で可決承認、尚役員改選の件については会長以下留任と決定された。

新入会員歓迎会は今年より県同窓会に入会の意志ある先生に限定し、卒業生6名の中4名が入会。そのなか岡泰大、高田積両先生が出席され、久保会長より歓迎の辞と記念品贈呈あり、岡先生より謝辞を述べられた。最後に大橋副会長の閉会の辞により総会は滞りなく終了。

引続き4階大広間で恒例の懇親会が催され、ショーを鑑賞しつつ和やかに飲み、且つ語らい乍ら特に去年から始められた抽選は集いに一層の興味を添え、楽しい夕べのひとつきを過ごし6時半頃解散した。

兵 庫 県

新築の新神戸オリエンタルホテルに700名が集う。

第34回大阪歯科大学兵庫県同窓会会員大会、新入新卒歓迎会は、昭和63年10月15日（土）新築オープンしたばかりの新神戸オリエンタルホテルの大宴会場、真珠の間（10F）に700余名が参加して盛大に開催された。

毎年この会員大会は、7月に開催されていたが、今年はぜひ神戸に新しくオープンするホテルを会場にという当番の神戸分会の企画で、時期をホテルのオープンに合せて開催された。

会は志築専務理事の司会により松本副会長が開会のことばを述べた後、村井会長が、「我が母校、大阪歯科大学は1万名の会員を有しているが、兵庫県に於いても、1,500名の同窓が健在である。兵庫県同窓会は同窓会本部と緊密な連絡を保ち母校の発展を助け、会員の福祉と相互の親睦を計ると共に歯科医学の研修に努める目的をもって今日迄活動を行って来た。

現在歯科界は高令化社会の歩みの中で極めてきびしい環境にあります。しかし私達は歯科医として価値ある尊い職業を目指して母校で得た技術と知識を社会のために役立てなければならない精神は後退することはない。後10年で21世紀を迎える今日私達は力を合わせて多くの困難を克服して行かねばならない。

本日結集したこの力を11月13日の京都の会員大会につないでいかねばならないと思っている。」と挨拶を述べた。つづいて来賓として御出席の奥野喜一同窓会長、北川正夫理事長、稗田豊治学長らから祝辞があった

つづいて新入会員、新卒業生の紹介にうつり志水常任理事により、23名の新しく会員になれる方々が紹介され盛大な拍手をあげた。

来年度は丹波但馬分会の当番ということで瀧野先生のあいさつの後、会員で声高らかに学歌斉唱して式典を終了した。

文化講演会は、神戸新聞コミュニティー交流センター専務理事の、三浦保氏による「21世紀を目指した緑高時代の遊生人」と題するユニークな講演があり時間の過ぎるのを忘れる程の楽しい文化講演会であった。

懇親会は午後5時より広い真珠の間も溢れんばかりの参加者で、同級生同志のテーブル配置が好評で楽しい懇親の輪を拡げた。

高 知 県

子供の頃、何故アメリカを「米国」と書くのかと疑問に思っていたが、今や間違いなく「米の国」であって、日本へ米を買えとやって来る。瑞穂の国と自ら称していた国は、いつの間にやら先端技術工業国となって、世界の大金持ちであるそうなの（？）。NIESが、その後を追いつけて来る。もう戦前戦中生まれの子供、昔ものには考えられないご時勢である。日本の歯科医師会も同様に、昔からのしきたりや考え方や機構を、はやく変遷させて行かないと、メガ・トレンドの流れに置いて行かれますよといった。ハッキリ申し上げて、此の儘では近い将来歯科界は完全に崩壊します!! 政治屋（家ではない）さん、大学屋さん、目先のことは思い切って捨てて、もう少し先を読んで考えて下さい。お願いします。……また愚痴になってしまった。聴於無声、観於無形。

大阪歯科大学同窓会高知県支部総会開催

日時：昭和63年10月15日土曜日

午後5時30分より

場所：高知市本町4丁目2-50

高知新阪急ホテル3F（月の間）

此の1年フロンガスの影響なのか、どういふわけなのか気候不順で、冷夏、梅雨明け宣言があってもずっと雨が降り続いたり不安定な日々でした。秋を通り越して、一挙に冬が来るのではと思われたのですが、大歯の御仁は日頃の精進が良いものとみえて、この日は快い秋晴れに恵まれた。

山下善彦理事司会にて、まず永吉正武支部会長挨拶から始まり、多忙の中駆けつけて下さった佐川寛典副学長の挨拶は、大学の近況報告が主で、稗田豊治先生の学長就任、大学隣地の所謂三角の土地の件の話等々に加えて、優秀な子才を大学へ送って下さいというお願いが終りに出て来たことは、昨今の大学事情を案に物語っている様に思われた。議長選出では、例に依ってというか名の字が付く、川添光一議長が登場、会務報告（中村哲）、監査報告（高橋昭二郎）と進み、議事に入る。

1. 昭和62年度収支決算の承認を求むる件、承認可決。
2. 昭和63年度予算案の件、承認可決。
3. 会則一部改正に関する件、役員任期を県歯等と足並みを揃え、2年を3年に改めること承認可決。
4. 役員改選の件、永吉支部会長引退辞意にはじまり、岩田監事の強い辞意主張また高橋監事も辞意と、一時はどうなるかと気を揉ませたが、特に不都合な人もないのだし、この際御苦勞ですが現役員揃って引き続きやってもらいたいという長野勲氏をはじめとする会員の声で結着した。
5. その他、県歯会長にそろそろ本同窓会員の優秀な人材を推してはという谷口喜世治氏の意見が出た。そうした話は、酒を飲みながらしようという川添議長の声で、一応総会は閉会した。記念写真撮影の後、朝日大学、城西歯科大学の兄弟校卒の同窓も交じえて、宴会に入った。乾杯の音頭は出席者の最長老になる川村満氏（専13）にお願いしました。

大歯同窓会独特の雰囲気をかもしだしながら、高知市街の秋の宵は次第に夜のしじまの色を濃くしていった。

（中村 記）

クラス会だより

専 5 五回生会

「老医師夫婦が焼死西宮の歯科医院で火事」との神戸新聞7月17日の朝刊の記事を見て夢かとはばかり驚きました。前月の6月26日の紀寿厚生年金贈呈式に「今回は体の調子が悪いので欠席

する。」と又「電話で逢えなくて残念だが御用心を」との言葉が最後になり五回生会の代表世話役としてクラス一番の元気者の阿部勉君御夫妻が事故死されるとは胸のふさぐ思いです。早速に五回生会の埼玉の柳生嘉雄君、名古屋の徳田善右衛門君、伊勢市の金剛暁君、今治市の田中仁一君に電話で通知しますと、皆一同呆然として驚くばかり、中に二名は難聴で出られない人には伝言してもらいました。皆さん外出困難で弔電を打ちますとの事、19日告別式場は西宮市役所前の楠会館で、阿部君の業界に対する永年の功労者として誠に荘厳な祭壇で西宮市歯科医師会葬委員長、長浜禎昭先生の御世話で大阪歯科医専五回生会として花輪一對をお供えて阿部君御夫妻の御冥福をお祈りしました。合掌

告別式には私と金剛君の代理として次男君と孫娘さん（大歯五年生）が来られました。

61年6月貴和荘で五回生会を阿部君の主催でしたが、参加者は金剛君夫妻、阿部君夫妻と私とで、62年6月は矢張り貴和荘で阿部君が案内状を出したら皆さんより出席不能との返事で今後の集まりは中止と通知があり代表を失った会も消滅の運命となりかねません。



在りし日の故阿部勉君ご夫妻

63年8月6日五回生会 橋本 六也
貴和荘で五回生会最後の写真 61年6月12日

金剛夫人 金剛君
橋 本
阿部夫人 阿部君

が死ぬまで、面倒を見て欲しかったのに。それが事故で一挙に奪われたのである。

天は無情か、神仏も無いのか、世の為に尽してきた善人を連れ去るとは、残念・無念。天を仰いで慨嘆せざるを得ない。

合掌

(柳生嘉雄 記)

附記 名簿を見ると、元気にしておられる方が可成りおられる。葉書で結構です柳生までご消息を聞かせて下さい。

専 7 七 生 会

阿部 勉君を弔う

7月17日、その日は雨降りであった。日曜日なので朝寝坊をしていると、珍らしく橋本六也君から電話、神戸の新聞でみた、阿部君夫妻が自宅の失火で焼死されたと第1報。あわててしまって、何が何んだかわからない。夫妻とも逝去されては何処え問合わせればいいのか茫然自失であった。

私は難聴なので、電話は駄目、手紙で問い合わせしているうちに、お通夜も葬儀も皆さんの好意で盛んに済んだ由。専7回も橋本六也君の世話で面目を保ったらしい。葬式には金剛君が、二男君と孫娘さんとが代拝として派遣して呉れた由。結局私は何も出来なかった。身体の不自由と遠方だったので役立たずであった。聞くところによると、当日は兵庫県歯科医師会の生涯研修会に元気な姿を見せ、夜7時頃には、来訪の妹さんや長女の方々と楽しい夕食の膳を囲まれた由、そして来訪のお二人が帰られた後の出来ごとであったらしい。

永い人生で何が起るかわからない。他の者は何かと故障の多い老体なのに、級一番の元気者、世話好きで、温厚者、我らの代表である。西宮歯科医師会の名誉会長だとか、いろいろな役職で外出されることも多かったらしい。我らの級は、日野・太田両君を失ったあと、阿部君夫妻にお世話をかけることが多かった。級の者全員

【挨拶】前晩の計こそ、翌一日を其の人生的堆積を占うと称するも不可無きか、精神の緊張と緩和、対応する「リズム因子」の認識と操縦、是又、肉体的健康基盤造成の鍵であるまいか。やあ、こんにちわ！お元気、ご機嫌は？就いては、生活環境一般は？この掛け声、連綿2,500キロ、西南より北東、長大の列島と言うも、文字通り単純に、親密なる、此の側、日本民族社会での麗わしき挨拶標語であるのみならず——隣邦中華共和体制での、心安さたっぶりの伝統ある言い草、訛でしかない所の〔こんにちわ= ニンハアアサ 你好〕なのである。

- 1) 你(你) 好 → 我希望你好。
2) Good Morning → I wish you good
(afternoon) morning.(afternoon)
3) Guten tag. → Ich wiinsche Ihnen guten
くうとうん たあさあい いいひい ぶいんせふ いいひめん くうとうん
たあさあい tag.

<こんにちわ>、<にいい、はああお>、円熟化、平々凡々として、日本語常識の一般である以上、勿論其の旋律に即応した楽譜と聴覚こそ、是又重要喫緊の問題たら使めねばならぬ、況や斯の事点、外国人同志、異民族相互間に採っては好箇学習課題たるや、時代を追って益々認識増大するであろうことが想われる、果敢筆者強調して、冒頭序言を弄する次第。頻りなり、近来筆者心静かに自問自答する——地球上【人間の心情 der Menschen sinn】は一緒であったよな／

【訃報】岡生佳男君、大阪市出身、芳壽87歳。
昭和63年7月21日西成区今宮「老人憩の家」に於て天来に身を託した時恰も瀬戸大橋、クラス会施行の2ヶ月後である、驚愕悲痛、哀悼の極冥途安泰を祈る切なり。因みに同夫人はいとし、主人の死も知らず、現下入院加療中と聞く。長男、寿生氏は区内某処にて「望月書店」を経営中と加筆します。

【近況】以下、列挙の3名は四国地域を限っての同期生恰も5月開催の「瀬戸大橋」行、琴平G.Hotel 場面にも生憎、同列同席の好機は逸脱したのであったが、抑々事前、若干日、筆者の書面探査に対して、一人宛2乃至3通の消息を洩らされた故に、其中の代表的筆跡を選考転録紹介する。

A) 香川宗仁君(香川県坂出市4ノ10) お便り有難う、昔懐しい貴兄86才、小生もです。元氣です。然し毎日、薬は必要です。七生会も生残り少なく心細い。瀬戸大橋完成して便利になった。是非同窓に拝眉し度い。何時も七生会の御世話感謝します。今日も卒業「アルバム」見て居ます、感無量です。益々お元気で居て下さい、電話番号お知らせ下さい。

B) 大塚良一内 代筆4ノ9愛媛県新居浜市。
代筆ご免下さい。重病にて45日間意識不明、2度終りを告げられましたが、生き運あって退院し目下リハビリに専念中です。心不全と高血圧と不眠症と、頭が極度に悪く、外出は無理ですので、この度は失礼します。皆様に宜敷くご諒声の程願ひ上げます。快方に向いましたら写真など送らせて頂きます。

C) 宮田眞澄君 徳島県美馬郡3ノ18— 懐しいお手紙嬉しく拝見しました。お忘れもなく小生に迄親切なるお便り、真実に嬉しく存じます。小生も七生会の事は何時も同窓会誌にて嬉しく読ませて頂いて、懐しく思っています。小生も是非参加し度いと念願してはいますが持病があり、慢性便秘症にて隔日に下剤を用いなくてはならず少くなくとも旅行出来る状態でなく、歯科開業も十年前からやめている状態です。

子供は三人、男子は京都にて外科医となり、

娘二人とも医者に嫁ぎ、家内と二人暮らしと言う所です。其の婆さんも慢性気管支炎を病んでいます。折角のご勧誘ですが、不悪御了承下さい。七生会諸兄のご健康を祈ります。

(西川黄波 記)

専 11 十一会

齢ひ80にもなると良い話は伝って来ない。前会報に故内海潤君に哀悼の辞を載せ別れを告げ今回も又、神戸の玉川善男君と鎌倉の長井丈二君の訃を載せねばならなかった。玉川君は故永井正三君の死去の哀悼の辞を寄せてくれたり、(会報〔114号〕) 126号には神戸のT君として生前の様子を知らせせもしましたが、遂に昭和63年6月22日死去(心臓病)兵庫淡路の一瀬君葬儀参列。又長井丈二君は十一会総会には常に出席、昨年京都には夫婦にて、特に翌日の亀岡にての小牧、藤井(東)君等と元気に愉快地松茸狩を楽しんで僅か10ヶ月思いもかけない同君の死、驚くというよりいい様がない。3月頃発病7月6日死亡、肝気腫。宮田慶三郎、藤田実雄の両君葬儀参列。津村勝君の玉川君を偲ぶ又藤田実雄君の長井丈二君を偲ぶの両君の追悼文を載せる。

玉川義男君を偲ぶ 津村 勝

嗚呼又1人懐しい旧友の姿が消えた。

神戸市中央区北長狭通3丁目。玉川義男君(81才)実に寂しい限りである。

思えば彼は母校大阪歯科医専の在った生野区の母校に神戸から梅田を経て城東線に乗り継ぎ桃谷迄毎日通学していた。当時彼は学業の傍ら剣道部員として活躍し又、生来の酒脱且多彩な話術で級友達を抱腹させる評判の人気者でもあった。昭和6年卒業後、神戸市で開業、地元住民に溶け込み斯界の発展浸透を計ると共にたえまなく、剣道の練磨に励んで、遂に7段を贈られるに至った。と同時に趣味の絵画・俳句にも親しみ絵画では既に玄人の域に達していた。従って兵庫県歯科医師会誌にも度々絵画や随筆等を掲載して親しまれ好評を受けていた。真に文

武両道に徹した士というべきであろう。又彼は愛妻である須美子夫人との間に3人の男子に恵まれ、今日3人共医師として現在活躍しておられる。彼の後継は二男浩君である。

追句

空蟬の世と知りつつも書を読める（善男）

佗び住みて、閉日月を蠅叩く（淡路疎開中）

今から4年程前、未だ彼の健在の頃彼を訪ねた事が有った。兼ね々彼の画才を知っていたので、是非1枚画いて欲しいと頼んだ処、快諾してくれ1ヶ月程して額にまで入れて1枚の静物画を送って来てくれた。それには何枚も何枚も画きつぶしてやっと1枚画き上げたのだと書いてあった。深い感銘を受けた。その絵は今私の手許に在るが、作者である彼は既に天国に去ってしまった。寂しい限りである。 合掌

長井丈二君を偲ぶ

藤田 実雄

大歯入学以来3年間、席が離れていたせいとか2人で親しく話をした事がなかった。4年生の時鳥ヶ辻の附属病院に通う事になり、僕が枚方の下宿先から、大阪生野区の旧校舎裏、猫間川の左岸の素人下宿に移った翌日、真人前の家の二階にいた彼と顔合せた。これが彼との60年に及ぶ付合の始めであった。彼は卒業後京都祇園の真中頗る粹な場所の医院に暫く勤務後、東京品川に開業したが、戦災の為郷里に疎開、終戦後新宿に開業、鎌倉から通勤していたが、老境に至って新宿の医院を人に譲り、長谷観音の横高級住宅で、「ハイレベル」の診療方式が当り、医院頗る盛況、裕々たる生活振り、羨望の的とか。先年箱根に「リゾートハウス」を建て、台所道具その他生活用品式一切調べ、只食料だけ持参すれば、自炊出来る様準備してある故何時でも使用してくれと誘われたが、遂にお伺いする機会がなかった。君は新潟県の旧家の出「スキー・檣球・麻雀・音楽・ダンス」等多趣味、社交も上手、それに加えて、生来の謹厳実直な人柄、世人患者から信頼され好評を受ける。更に研究心旺盛、高齢に達しても白数教授の研究室に鎌倉から長年月通い、学位を得た篤学の士で私の敬服する処である。一昨年私が脳梗塞で入院した時、度々電話・手紙で見舞激励を頂き、

一応回復後主治医の紹介で、和歌山の勝浦温泉病院に「リハビリ」と保養の為3ヶ月入院した時、御夫妻で鎌倉より見舞ってくれた時は厚い友情に感激した。昨年10月総会の節、梅田「ターミナルホテル」に宿泊、旅行、その他君と泊った時は、いつも同室で「ベット」2つを並べて寝る習慣になっていた。解散後、小牧君の骨折りで有志数人亀岡「加舎の里カントリー」近くで松茸狩の二次会、雑木林の陰に丸々と肥え育った茸を見つけ、子供の様に喚声。好天の秋空の下、わら席に坐してつつく松茸入りの鶏肉鍋は又格別、今でも思い出せるその時の君の顔、御冥福を祈る

合掌

藤田 実雄

御二人の死去により十一会も45名で同窓会総会等を開催する事になりました。57回総会には多数の御参加を期待しています。（市村記）

専 15 拾五回生会

今夏季は本当に不順な年でした。如何お過ごしでしたか。これから向寒季に入ります。一層の御自愛下さい。

10月、18日・19日、1泊2日、奥志摩、賢島方面のクラス旅行を計画致しました。皆様種々事状がありましたか、参加者少なく、12名でした。色々相談致しまして、今回は残念乍ら中止となりました。

来春も計画致しますので、体調を整え、万障の繰り合せ御参加下さい。

新春は恒例の新年互礼会、1月15日に催しますので一人でも多く御出願い、お互の健康を祝おうではありませんか。

最近の状報を列記します。

川村輝雄君。突然滋賀医大に入院、重症でしたが、九死に一生を得て、8月13日に目出度く退院、目下自宅療養とか、早く以前の様に元気になって下さい。

芦田佐仁君。田守悦男君。長期入院中。

服部光典君。完全老人化、山本甚五左エ門君も同じ

吉田寿男君。5月に残り的大腸ポリープ除去後良好。

難波 貢君。胃全摘出、一年もてばと家内に宣告されたが、10年近く入退院を繰返し、旅行など夢又夢、健康な人が羨ましい。

三木憲二君。多病息災

横井時道君。体調調節中

篠原良文君。歩行不自由、難聴

斉藤延夫君。磯田次男君、目下入院精密検査中

諸兄の一日も早い御快癒を期します。

(尾崎 記)

専 18 聚 蜂 会

前略、昭和63年は、我々が犬齒卒業50年にあたりますので、毎年の総会に加えて、慰霊祭、記念誌、記念品等を考えました。京都・奈良・兵庫・大阪の先生方で準備会を作り、4回程会合を致しまして、係も決めて、細部決定し、ご案内をお出し致しました処、会員39名、ご家族11名の出席を得、加うるに、遺家族9名のご参加をいただきました。役員一同喜んでいます。

どうか、お元気で、11月11日午前11時、京都国際ホテルロビーにご参集下さいますことをお祈り致します。

最後に、又、訃報を書かねばなりません。四国の真鍋（杉浦）祈君が、昭和63年8月7日にお亡くなりになりました。益井君、白山君等より連絡がありましたので、山本君より、御佛前を差し上げてもらいました。ご冥福をお祈り致します。いつぞや、総会で乾盃の音頭をとっていただきましたのに。

合掌

(大崎 波真治 記)



専18 聚蜂会 於京都国際ホテル 昭和63年11月11日

大阪歯科医専卒業 五十周年記念誌



聚蜂會

昨年和歌山県の総会で、63年は京都の同窓会大会にあわせて、聚蜂会も11月11日～13日の3日間、卒業50周年記念行事を京都で実施する事に決定しましたが、去年暮、早や早やと滝野英二君が、彼のご実懇の京都国際ホテルと妙心寺塔頭、天球院との両方とも交渉、確保して下さいました。早速本年2月11日在阪の同期相寄り、50周年準備委員会を編成し協議する事になりました。

準備委員会担当別

設営関係 慰霊祭、総会等の司会其の他

担 当 滝野英二君、中沢武雄君、安井寛一君

記念品担当 田村猛君、加藤信一君、寺田常一君

記念誌担当 古跡清孝君、浜田勇君、山本義武君

粗供養担当 滝野英二君

会計担当 山本義武君

案内、連絡 大崎波真治（会員家族、遺家族）

総会内容 1. 経過報告 大崎波真治
2. 日齒の關係 大浦波夫君
3. 大阪歯科大学關係

加藤信一君

以上11名で準備委員会を4回実施し、会員家族、遺家族の方々に案内を出した。会員59通、遺家族23通を発送した。

会員出席27名、家族13名、遺家族9名の出席を得、例年以上の出席に喜んでいる。昭和13年卒業時は130名でしたが、10年前の慰霊祭（大阪四天王寺）には36名の物故会員があった。しかし、本年妙心寺で読み上げた物故会員は26名、不明7名を入れると69名となり半数以上となった。加えて、慰霊祭の3日前に兵庫県の野田一郎君が亡くなり、総会で改めて黙禱を捧げた。

合 掌

次に日をおって3日間の事を簡単に述べよう。

第一日、正午より妙心寺での慰霊祭は厳肅そのもの、昼食の精進料理でやっとなごやかになり、紅葉の庭を見ながら久し振りに会った大浦君等も話に花を咲かしていました。

京都国際ホテルに帰り、総会を開催、卒業50年の記念品を開いてびっくり、記念誌の表紙の図案（浜田勇君の画）に感心したり、宴会に入ると次々に病気の経験を披露し、お互いの健康も願い合っていた。

宴会の最中に、同窓会々長の代理として京都の村上勝副会長のご来臨に接し一同感激し、感謝の拍手を送った。

来年の予定について、広島県の斉藤順太郎君が発言、昭和64年10月20、21、22日、金、土、日の3日間予定して置いてくれとの事、一同賛成。

又、65年度は大阪花の万博にしたいと古跡清孝君が発言。

病気を押して参加して下さいました佐谷武雄君が宿泊せずに帰宅、拍手、閉会。

第2日は観光、昨日の妙心寺、本日の大徳寺、南禅寺、金閣寺と禅寺ばかり、滝野君は禅宗かな？ 実は浄土宗、紅葉を求めて花頭窓の塔頭の間を歩き廻りシャッターを切った。全景紅葉の所は少なかった。

夕刻、四条通りのすき焼屋「かのこ」（滝野君の推奨）で夕食、加茂川の夜景を見ながら二日目の感想や来年の事、山本武雄会計のご苦労に感謝の拍手、滝野、中沢君にお世話していただき、又、準備委員会全員に御苦労の拍手を送り、名残りつきない解散となった。

第3日、京都都ホテルでの同窓会大会に出席、大浦波夫、加藤信一、中沢武雄、滝野英二、前田嘉正、大崎共の他、聚蜂会の面々2000名を越す会員の熱気の裡、各界代表の興奮めいた姿、中でも前会長奥野半蔵先生を讃える光景は圧巻であった。

11月17日、浜田君、滝野君の写真発送整理のため、天王寺都ホテルで、山本、大崎と会合、欠席者を含めた今後の配送品の確認をした。

(大崎波真治 記)

専 20 はたち会

はたち会（専20回）古希大会

母校を後にして48年が、戦前、戦中、戦後と慌ただしく過ぎていき。有史以来の経験を重ね、気が付いてみると仲間は半減し、私達は70才に成っていた。将に夢物語りである。半世紀近い間に色々な場所で色々な方針で、或は時世に流され、又は抵抗もし。戦地を駆け、虜囚を味わい。様々な生き方をした同期生だけれど。久方振りに一夜を語り明かしてみると、昔のままのクラスメートでしかないのが不思議であり、また嬉しくもある。

紅葉萌ゆる京都松ヶ崎会館アピカルイン京都と云う広いホテルで京料理に舌鼓を打ち、酔う程に話は弾み。中尾辰義勲一等君がマイクの先鞭を受け持ち国会質問演説で鍛えた咽を披露すれば、京都の綺麗どころの手拍子が賑やかに席を盛り上げる。宴席はタイムカプセルに乗って50年の昔に返り、50年前の唄が流れていた。そして私達は青春時代を、しっかりと確かに取りもどして居た。これこそクラス会なのだと…。皆同じ事を感じていたに違いない。そして最後の話題は出席出来なかった友の話題になる。皆が案じている、やはり顔を出して欲しいのである。この次の機会にこそ！出席を待っている。

宴酣の頃、同窓会本部より森副会長が陣中見舞を持って挨拶に来てくれた。新しい奥野執行部の姿勢を窺う事の出来る様な本部報告がなされ、二年先輩とはいえ同じ世代を生き抜いて来た「はたち会」の面々も出来るだけの協力を惜しまないとの意を込めた拍手が送られた。

尚、当日の出席者は21名であって。連絡し得る生存者の3分の1であった。

(磯島 記)



大阪歯科大学はたち会 アピカルイン京都 昭和63年11月12日

専 21 天作会

「小寺君より」季節はづれの不順な夏も彼岸をすぎた頃はすっかり秋らしい凌ぎ易いよい気候になりました。

10月は沢山の行事がめじろおしでいろいろと会に所属しておられる方ほど忙しい月であります。その忙しい中をさいて九州天作会に出席される事はまことに健康な証拠で、顔の色つやもよく生きる希望に輝いて居られる事と思います。

福岡では樋口君が天作会はじめての九州開催に日夜準備万端整えて待って居ります。

この記事をご覧になる時はすでに会は済んでしまっていますが出席された方は勿論、今年出席出来なかった方もどうかいつ迄も今の元気を持ち続け来年度の総会に出席される様祈って居ります。

来年は古稀を迎える方が多いと思います。古稀特別大会を盛大に行っては如何でしょう。

以上

はじめての九州総会を控え出席状況は如何と心おだやかならぬ昨今であります。一時出席のお返事が少なく、再度催足がましく都合合わせの便りをしたりしましたが、予定の人数に達した様で喜んで居ります。

やはり体の不調を訴える方が圧倒的に多く、次に役職につかれています方、何かの行事と一緒にになった方等です。

総会で久し振りに顔を合わせますと不思議な事に思いもしなかった幸運にめぐり会う事がしばしばです。プラスになることは必ずあるので。療養中の方はともかく総会には少々のはあっても出席するという癖をつけて頂きたい。そして限りない友情を深め、健在をたしかめ合うではありませんか。

(尾持 記)

専 22 清澄会

11月12日(土)、錦織綾なす絶好の季節、日本情緒、京情緒を大切にする楠荘で63年度総会を開く。

午後4時過ぎフロント受付に竹内一郎、吉川顕兄の出迎えを受け一風呂浴び記念撮影後セレモニーに移る。

守下辰弘兄の司会で旧交を温め健康で楽しい人生を送る様、励まし合い、9月17日高垣雄一郎兄がオリンピックの開会式に招待され、韓国国花(ムクゲの紋章)で飾られた牌を韓国政府から受章された由を、又64年総会は64年5月27日(土)、28日(日)、同兄のお世話で瀬戸大橋を予定していることを伝えた。

次いで森宏大阪歯科大学同窓会副会長(奥野喜一同窓会長代理)及び筒井正弘名誉教授の挨拶、渡部凡夫兄の会計報告後、吉川顕兄の司会になり毛利彌(前日歯専務)の乾杯の音頭で宴に入り美人の酌で大いに飲み、生田仁、和田茂之兄らのカラオケで懇親会が盛り上がった。

終了後、部屋で芸妓を囲み夜の耽けるのを忘れられた様です。

「出席者」は、口分田耕一御夫妻、毛利彌御夫妻、小生及び愚妻、生田仁、大橋懋、岡本俊武、小倉雄一郎、川口秀夫、木南文雄、木村美郎、斉藤昇、佐久間恒男、竹内一郎、筒井正弘、富田民也、葉山卓見、益田憲二、森宏、守下辰弘、山下宰、吉川顕、和田茂之、渡部凡夫の諸兄。

「公務その他の方」は、井上喜代士、今村博三、上田実、片山敬三、粟林敏夫、蔡春林、嶋本忠正、清水義弘、杉村薫、鈴熊豊、千田貞雄、高垣雄二郎、竹下長男、錦織喜明、山崎希義、山西康友、山本和男、吉田孝の諸兄。

「病氣療養中の方」は、岩崎和夫、木原敏雄、葛谷隆一、西塔明治、酒井仁一、杉山安正、杉山明、住友博文、椿正美、森本開登、山口勇、吉田弘之の諸兄、一日も早く回復されんことを!!

(橋高邦典 記)



大阪歯科大学清澄会 於京都楠荘 昭和63年11月12日



木村正二先生を送る。

医療法人 葵会 待鳳診療所 前所長木村（旧姓西野）正二氏は、かねてから宿痾の肝疾患の為、療養中でしたが、酷暑中の8月2日急逝（享年68）されました。氏は卒後、われわれと同期に入隊、甲幹将校一教育隊区隊長となり、戦後発展の核となった有為の人材多数を育成されていましたが、復員後は軍隊時代の無理がたたって、TBにかかり、当時流行の胸廓成型一

Plastic ball の填入手術をうけられましたが、経過は不良、その後再三の手術時に受けた輸血の影響もあって、慢性肝炎一癌化の経過をたどり、ついに不帰の客となられたものであります。氏の職域は零細機械工業地帯、氏自身の身体不調に拘らず、仲間内でも定評のあった医師としての手腕と、誠実な人柄で、経済的に恵まれな人々に、献身的に診療に従事され、多くの患者さんたちに敬愛されておられましたことは、葬儀における人の波が、如実に物語っております。なお氏は、歯科医師会にあっては、社会保険部参事、広報部TV部員としても長く、斯界の発展の為に尽力されておりました。

ここに、深く哀悼の意を表します。

「山下 宰」



服部君を偲ぶ

9月12日の昼休みに食事をしている時に、橋高君より電話があり、服部君が亡くなられた事を知らされた。突然の事とて一瞬言葉も出ませんでした。卒業後一度もお会いした事がなく、何時かは清澄会に出席されるだろうと楽しみにしていましたのに、こんな知らせを受けるとは残念です。学生時代親しくした仲でしたので是非追悼文でも書く様に依頼されましたので昔を偲びつつ1つ2つ思い出話でも申し上げます。卒業後もう40数年経っていますので記憶に残っている事も少ないのですが、彼は大変器用でした。技工作品は実に立派に作っていたので何時も羨しく思っていました。そこで面白い事を思い出しました。学生時代は毎日難波駅より天満橋まで市営バスで通学していたのですが、バスの回数券を二枚続けると丁度5センチ位の正方形になるので、この券で乗車より降車までの短時間のうちに折鶴を作って車掌(女の子)に渡したものです。始めは変な顔をして受取っていたが何回か同じ車掌に会っていると笑顔で受取ってくれた事を思い出しました。勿論彼の方が数段上手に作っていました。その他技工実習で全部床義歯の真鍮の鋳造床を作らされた時には、完璧なものを作るのに彼はなかなか満足せず徹夜で何回も何回も作りました。勿論私の分まで作ってくれました。何れ又時間が経てば色々と思ひ出す事もあるでしょうが今はなかなか思ひ出せません、何分突然の事とて今まで病気があった事も知らず御見舞が出来なかった事を残念

に思います。

拙文ではございますが、少しでも服部君の事を懐しく偲ぶ事が出来ました。

彼の御冥福を心よりお祈り致します。

—合掌—

「佐久間恒男」

【消息】

奥野喜一 大阪府歯会長

大阪歯科大学同窓会長
大阪府同窓会長

9月17日(土) ホテルプラザにて理事並びに支部長、クラス代表者合同会議を開催された。

10月1日(土) 大学同窓会。全国支部会長及びクラス代表者会議を太閤園で開かれた。

11月13日(日) 第10回全国会員大会(京都府当番)団結と躍進をテーマに都ホテル(京都けあげ)で行なわれる。

高垣雄二郎 元大阪府歯副会長(交通評論家)

「新生JRの展開と夢」をテーマに鉄道の歴史、変遷について尼崎中央公民館で講演された。なお、高垣兄が考案された日韓国際切符がJR西日本で実現売り出された。

9月17日、オリンピック開会式に招待され韓国政府から韓国花(ムクゲ国の紋章)で飾られた牌を受賞された。

64年5月27日(土)28日(日)瀬戸大橋を予定しております。御意見をお寄せ下さい。

(橋高邦典 記)



大阪歯科大学専23回(ふみ会) 於渭水苑 昭和63年9月17日

専 23 ふみ会

昭和63年度、ふみ会は9月17日岡山駅PM1時集合、快速マリンライナーで瀬戸大橋を渡り高松(渭水苑)で開催しました。参加者は、川居森・岩村・佐々木(武)・小沢・中本・佐々木(義)・吉田・村田以上同伴。

坂本・繁益・下田・八竹・永田・牛島・若林・笹井・角田・上村・松本・永吉・香川・伊藤・西川・花岡、以上34名で、今年は初めて熊本より森先生夫妻が参加下さいました。

総会は PM 5:30

1. 幹事長挨拶

2. 議長選出

(1) 物故会員に黙禱

兼平・中村 先生

天野先生奥様

中村先生奥様

(2) 会務報告

(3) 会計報告

(4) 次期幹事長選出(小沢先生)

(5) その他

3. 写真撮影

4. 開 宴 PM 6:00

以上総会を終り次期幹事長、小沢先生の乾杯の音頭で1年ぶりに和やかに歓談に入り、西川

先生の名司会でビンゴ・ゲーム、カラオケで楽しく宴会の幕を閉じました。翌日はバス貸切で栗林公園、屋島を観光し昼食は出発時間を延長する程楽しい一時でした。

来年度は館山寺温泉方面を予定して居りますので、皆様方には健康に留意され今年以上多数参加し、盛大な総会に成る事を楽しみにして居ります。私、幹事長を辞任致しましたが、小沢先生・西川・伊藤先生次期御苦労様ですがよろしくお願い致します。

(花岡 記)

専 24 にしき会

私ども専門24回生も早や卒業後45周年を迎え、去る9月17日(土)に京都の都ホテルに於いて総会と記念同窓会を開催いたしました。

私どもは全員国民年金を受領している老人社会の一員とはなっていますが、誰一人還暦前のように年を忘れて元気な者ばかりで、これが老人の一員かと思わす者ばかりでありました。然し既に1/3の友が他界されております。寂しいかぎりでありました。



大阪歯科大学卒業45周年記念 にしき会総会 於京都 都ホテル 昭和63年9月17日

今回は45周年という節目の年であるので、大学より理事長北川正夫先生、そして今年の9月より大阪歯科大学学長に就任されたばかりの種田豊治学長先生、同窓会よりは奥野会長の名補佐役の副会長で、京都府同窓会長の野添静里先生の御三方の先生の御臨席を得て、それぞれの先生より結構な御祝辞と励ましのお言葉を頂き、母校の発展を喜び、共に健康で長寿を誓ったのであります。

そのあと浜松の鈴木君の提供になる昭和26年（丁度37年昔）に行った「にしき会」の記録写真集のアルバムを配布し、そのスライドの上映を行い、昔を懐かしく偲んだのであります。

例によりスィートルームで、夜遅くまで西川君が懸命に撮影してくれたビデオの再製をして、ガイガイ、ワイワイとおしゃべりに花が咲き時の過ぎるのを忘れたのであります。翌日は京の朝粥をご馳走になり、バスで二条陣屋の忍者屋敷を興味を持って見学し、続いて島原の輪違屋で太夫の踊りとお勺で楽しい昼食を頂きました。

その後古代友禅会館で友禅染のできる手順を見学し、染だしの実習もさせてもらい、奥様のお土産が出来たのでした。あと京都駅で11月13日の同窓会総会での再会を約して家路についてのでした。終わりに当日参加した会員の方々を紹介しておきましょう。

写真後列左より、富坂・福井・遠藤・天日・磯野・伊智地・内田・川西・内田夫人・大住・橋本・橋本博介・中浜・西東・宮田・片尾・鈴木・天日夫人・河上天人・中村夫人・川西夫人・金子・古谷・米本・米本夫人・岡崎夫人・今井夫人・河上・岡崎・中村・稗田学長・北川理事長・野添同窓会副会長・井田・塩見・山崎、の諸君。

写真に入って居られませんが、内海君と角田君が来られました。

最後に来年は能登の和倉の加賀屋で開催の予定です。多数のご参加を期待いたしております。

（岡崎 記）



大阪歯科大学専門25回生会 於楠荘 昭和63年11月13日

専 25 廿五回生会

少なくとも和やかに63年度総会

美しく紅葉した11月13日（日）、京都の都ホテルで、団結と躍進のスローガンのもとに全国同窓会々員大会が盛大に開かれ、そこに集った専門25回生は午後4時30分より栗田口の楠荘で、63年度総会を村井本部副会長、京歯長谷川会長を迎えてなごやかに開かれた。

出席者は岡山県から木庭君、岐阜県から太田君、兵庫県から村井、寺西、島津、前川君、大阪からは木田、山口君、京都からは平塚、鈴木、西崎、矢谷、岩井、野瀬、高岡、高屋、宮内君等の17名であったが、なごやかなひとときを過ぎた。

次期開催地は遠隔地で一度という意見も出たが、大阪で開催ということに決定した。期日については大阪に一任することになった。

63年度会費のご請求は総会通知にかえさせていただいた為、未納が多いことをお詫びいたします。従って次の方々は納入者ですから記名のない方は至急ご送付下さい。

会費納入者 総会出席者全員、笠原、片山、河合、川崎（八）、河野（通）、小林、坂口、杉平、塚田、山崎、馬場、森本（太）、大和、山田、前納（11月10日現在）

未納者の送金先

太陽神戸銀行 店番号 296

口座番号 3 1 3 3 4 8 4

宛先 大歯25回クラス会代表 平塚哲夫宛
(平塚 記)

専 26 二 六 会

今年の二六会総会も10月29日白浜、古賀乃井で恙がなく多数の出席を得、盛大に催されました。これ偏えに和歌山県在住諸兄の御努力の賜と存じ厚く御礼申します。又、本年度会報も多数の投稿あり、後藤兄の玄人はだしの編集で充実した会報が出来、諸兄の手許に配送いたしました。来年もよろしく投稿に協力して下さい。

訃 報

奈波文雄君 7月12日、心不全にて亡くなりました。昨年秋の京都に於ての総会に元気な姿を見せていたのに実に哀惜に堪えません。

小山 一君 9月11日、亡くなりました。

食道癌にて手術されましたが、再び元気な姿を見せてくれるものと信じていましたが、実現出来ませんでした。

昨年12月10日には武田順也君：今年1月25日には菱本四郎君が亡くなりました。4名の御冥福を謹んでお祈りいたします。同窓諸兄、十二分に健康に留意し、来年の総会には元気な姿を見せて下さい。

（西田 記）

専 27 牧 陵 会

会員の諸兄にはその後ご壮健のことと存じます。すでに御承知の方々も多いと存じますが、このたび山中彬君が7月1日より神奈川歯科大学学長に就いて、9月1日より稗田豊治君が母校大阪歯科大学学長に就任されました。このことは両君の多年に亘る教学への業績の高い評価と円満な人徳による大方の御支持によることでありますが、戦中、戦後を通して教室を共にした私達の中から2人の新学長を送り出した同期生として心から御祝いとお喜びを申し上げます。又、覚道幸男君が学校法人理事に、野添静里君と益川武夫君が大阪歯科大学同窓会副会長に就任しておられますし、福岡保郎君は奈良県歯科医師会長として活躍中であります。いずれの方々も

波高き歯科教育界、歯科医療界に英知と決断をせねばならない重責を負われる要職であり、激務ともなりますので健康には充分に気をつけて頑張ってください。

さて、41回牧陵会の63年11月5日紅葉酣の和歌山高野山持明院において開催の御通知と共にかねての40周年記念誌をお送り申し上げましたが如何でしたか。音信の少なかった2、3の方々の貴重な寄稿もあり30周年誌と読みくらべ10年の歳月の経過は一と昔を思わせる様です。50周年ではどうなっていることでしょうか……。

（Y K 記）

追伸：協力金未納の方は、何卒御送金下さるようお願いします。

専 28 にはち会

にはち会のみなさん!!

お元気ですか。11月13日の第10回の同窓会全国大会の京都へお出でになることと思います。「団結と躍進」の旗印のもとに全国から集まる同窓生の暖い雰囲気の中に自己を見出す意義、そして今日に生きる喜びも又、この大会の大きな指標の一つではないかと思ひます。

何としても京都はわれわれにはち会の者にとっては青春の思い出の地、京都の四季には、消そうとしても消し得ない思い出、鴨川の流れに、河原に、三条・四条、そして、戦中、戦後にかけての京都を最もよく知っているのがわれわれにはち会のものではないかとも思ひます。六十路のひとつとき秋の京都は全く錦繡、その紅葉は君に何をか訴えてくれるのではないだろうか。

そしてその縮尺、その前日12日のわれわれにはち会のクラス会、もう出席と御返事を頂いている人もありますが、まだの人もあります。返事を出していないがと思っている人もあるのではないかと思ひます。かまいません電話で（伊崎、綴谷、あるいは大内まで）返事して下さい。

昨年は岡山で元気に集まりました。今年は卒業40周年、大きなふし目の年です。案内にも書きましたが自分の「舞踏会の手帖」をくりひろげよう。あの名画のスクリーンではないが、数々の青春のひとこま、ひとこまがよみがえる。そして静かに40年をふりかえるのもいいのではないか。又、これからの心の糧をお互いに胸襟を開いて語り合うことも意義あるのではないだろうか。11月12日は、大阪はプラザで、13日は京都都ホテルで!!

(大内弘 記)

11月12日のホテルプラザと13日の都ホテルでお会いするのを楽しみにしております。

それから、田中正忠君、佐川 肇君、岩崎行男君の3名が藍綬褒章受章の栄に浴されましたのでクラス会総会の席上、皆んなでお祝いをいたします。

それに引き替え悲しいお知らせをしなければならぬのは大変残念ですが、7月13日に京都の大城和一郎君が、9月19日には香川の津谷 諒君が他界されました。心から両君のありし日を偲んで、ご冥福をお祈りします。

(志築照和 記)

専 29 29回生会

今年も残り少なくなりましたが、諸兄姉の皆様にはご壮健のことと存じます。130号同窓会報でお知らせしました辻本信輝君の藍綬褒章受章記念祝賀会が、去る9月24日(土曜日)、和歌山ターミナルホテルにおいて盛大に開催されました。昭和56年に加藤喜久雄君、昭和59年に並河治君、今回の辻本信輝君で3人目です。まことにおめでとうございます。当日は折悪しく台風接近で、雨天のなか、和歌山県知事始め多数の来賓及び来会者は400名を越す盛大な祝賀会となりましたことを御報告させていただきます。

来年は卒業後40年です。昭和64年11月11日(土曜日)、ホテルニューオータニ大阪(予定)において40周年記念同窓会を盛大に開催したいと思っています。皆様多数の参加をお待ちします。

(庶務 武鹿莊治郎 記)

専 30 みとわ会

みとわ会の諸兄姉お元気ですか。

このクラス便りが、お目にとまる頃は京都のみとわ会同窓会、並びに全国会員大会が、終わった後ではないかと思えます。今は同窓会の準備に追われ、返信葉書の整理をしている毎日でございます。そして来年の同窓会の希望場所の選定と企画にとりかからなければなりません。

予てからの要望でもあり、瀬戸大橋の完成に伴い、瀬戸内海をひとまたぎして高松あたりでと、考えております。

「人・モノ・文化を運び、未来へ延びる道、瀬戸大橋を渡って四国の地に同窓会で集みましょう。」

四国の諸兄の御協力をお願い致したく思っております。

◎香川県の合田君より、四国地方同窓会の案内と会員便りを報告していただきます。

「クラス会にはいつも出席して旧交を暖めている小生ですが、今年は当日、四国地区役員協議会が、香川県の当番で主催する為出席できなくなりました。先日、品川君より、瀬戸大橋の完成をみた事だし、昭和64年のクラス会を高松でどうかと相談がありました。

会員の皆様に満足していただける様なお世話ができるかどうか、危惧の念を抱いていたのですが、県内の3名の諸兄(谷口君、三谷君、本川君)に電話致しました所、出来得る限りの努力をもって、御満足いただける様、会員の皆様

をお迎えしたいと申しておりますので、文面で御案内申し上げます。詳細なプログラムは品川君と相談の上、逐次、御通知申し上げる予定でございます。

級友の殆んどが御子息、御息女共に一人前となられ悠々自適の人生を歩んでおられる事と推察申し上げます。どうぞ是非、“蒼い瀬戸内海を渡って”多数、奥方同伴での御来駕をお待ち致しております。

世紀の大事業と言われる巨大な瀬戸の大橋は、現地で見れば写真とは又、別にそのスケールには目を瞠る事と存じます。又、高松近辺には源平の古戦場屋島、森の石松で有名な琴平神宮等、車で一時間以内で行ける所もあります。以上、御案内迄。

尚、県内級友の近況を簡単に報告致します。高松市内では谷口勝君、御子息は大歯大26回卒、親子で仲良くやっています。御子息卒業の年、体調を悪くしましたが、現在では元気です。が、往年の斗酒辞せず、猪突猛進の気概は薄くなっています。丸亀市の三谷晶彦君、御息女は大歯大27回卒、徳島市の歯科医に嫁がれています。】R丸亀駅のすぐ前で税攻勢に音をあげながら奮闘中。本川準平君、一時体調を悪くしたそうですが、現在は回復しておられる由、御息女は大歯大30回卒、我々の級友である伊勢の田口先生の御子息に嫁がれています。最後に小生ですが、長男は大歯大32回卒、仲良く親子でやっています。長女は大歯大34回卒、2年間矯正で木下教授に御世話になりました。現在は長男の同級の級友に嫁ぎ、滋賀県甲賀に在住しております。

以上、近況報告致します。

(合田民雄 記)

私達の年齢になれば家族の中にあっても、同窓生同士であっても、又歯科医師としての仕事の中で人間性の円熟さが出てきますが、一人一人の性格は、頭の回転性、運動の敏捷さが無くなり、ひとつの物事に固執する様になります。しかし家族の中や友人達の中で愛し、愛される実年になりましょう。「まず、自分を愛する事、人生に対して明るく肯定的・積極的になる。そ

して他人を愛する事。他人の求めるものを与える様心掛ける。」

私達実年が、幸せかどうかは、人に受け入れられ、尊敬され愛される度合によるものではないでしょうか、同窓生の諸兄弟、皆でがんばりましょう。

京都での同窓会の報告は次回にさせていただきます。

(品川武人 記)

みとわ会諸兄妹の皆様お元気ですか。

今年のみとわ会同窓会は京都パークホテルにて盛大の内に無事終わりました。

「団結と躍進」の第10回全国同窓会会員大会への参加をかねて、前日の11月12日(土)に行いました。

式 次 第

司会 鈴木能和

・島原大夫ショー 解説

・映 画「こったいさん」

16%鈴木能和製作

・記念撮影 (地階写真室)

司会 鈴木能和

・開宴の辞 当番県代表 田伏治夫

・挨拶 クラス代表 品川武人

・物故会員に黙祷

・来賓紹介

・来賓挨拶

・乾 杯 楠岡重隆

太夫道中、お茶接待

・地方会員報告、次期当番県挨拶

・閉宴の辞 北村 弘

午後3時より受付を行う為、京都の会員諸兄の御協力を得て、午後1時から準備にとりかかりました。三々五々と集まって来る会員、お互いに「よう、よう」と懐しき一杯の力強い握手が続きます。4時前には恩師、新田先生もお見えになり大変お元気なので安心致しました。

自主製作を行った鈴木能和君の司会、解説によりはじまりました。島原太夫の時代考証、そし



大阪歯科大学(専)30回生 みとわ会同窓会 於京都パークホテル 昭和63年11月12日

て今は完全に消えた島原に、元太夫親子の物語は胸をつくものがあり、「こったいさん」の髪を結う81才になる母親の横顔に哀愁を覚えます。

カメラを通し、消え行く島原の表情を良くとらえた鈴木能和君の努力に敬意を表します。

5時に同窓生一同、新田先生を囲んで記念撮影を行いました。

5時20分、予定通り100名以上の出席者を迎えて、1階、バッキンガムの間で宴会が、鈴木能和君の司会、京都みとわ会を代表して田伏君の開宴の言葉で始まりました。計画をたてた段階から、御来賓の先生方の御出席は無理なのではないかと、心配しておりましたが、野添大阪歯科大学同窓会副会長、緒方常務理事、そして長谷川京都府歯科医師会会長の御出席を仰ぎました。各先生方には、次の会場への出席を控えて分刻みのスケジュールの中、貴重な時間をさいていただけた事、大変感謝致します。

乾杯は次期、同窓会開催の四国を代表して楠岡君にお願い致しました。乾杯が終わった時、奥野大阪歯科大学同窓会会長が同窓生でもある新田同窓会専務を同道のもと、駆け付けられました。

日頃からみとわ会会員が大変お世話になり、今日、又、分刻みのスケジュールの中、万障繰合わせておいでいただいた事、心より感謝致すと共に、今後とも益々大阪歯科大学同窓会の発展にみとわ会一同、一層努力致したいと思います。

宴会が行われる中、映画「こったいさん」をみる様な、高砂太夫による太夫道中が行われま

した。「こったいさん」とは島原花魁の太夫の中での最高位の名称であります。

可愛い禿に先導され、年配の曳船さんに手を引かれ、内ハ文字で歩く姿は、タイムスリップをして、江戸の昔に迷い込んだ様で、京都ならではという感が致しました。「こったいさん」は榎田和栄さんという方で、「こったいさん」の髪(勝山・長舟)は、母である81才の榎田梅さんが結われていますが、後継者が無くいずれは消えて行く運命にあります。

そして高砂太夫による藪内流のお手前の接待があり、高砂太夫を囲んでの記念撮影が各テーブルにて行われました。

飲む程に、酔う程に話しが弾み、学生時代に戻ったかの様に時間がたつのを忘れ、いつの間にか7時30分、閉宴の時間が参りました。

奥野大阪歯科大学同窓会会長は、「もう、一人一人増える事の無い、減る一方の同窓会の絆を強くして友情を大切にして下さい」

又、新田先生は80才の誕生を迎えるにあたって、「長生きする事は、頭を使う事と、常に脚を鍛え、タクシーに乗らず歩く事、そして美食をせず栄養を考え、粗食である事」の経験に基づきお話しを聞き、「先生のお年迄頑張らねば」と皆、ささやく事しきりでした。私達にとって今後、不言実行すべき事でもあります。

来年は、御家族同伴の上、一人でも多くの同窓生諸兄姉、瀬戸大橋を渡って、四国の地にてお会いしましょう。

京都の諸兄姉の皆様、御協力ありがとうございました。

四国の諸兄、来年はよろしく願い致します。

“人生に停年なし”

(品川武人 記)

専 31 みそひと会

もう数日で師走、深秋朝夕肌寒さに加え越年の心の準備もままならず年代的にも還暦前後の諸兄が多いことでしょう。本来ほんけがえりといってその齢を祝し楽隠居？ といかないのが長寿日本の実情で、心身共に若く生かされることは有難いことであるが不安定な社会経済、低迷する医療界にあって実のない日々は本当に虚しいものである。その中であって心とませてくれるのが年一回の同窓会で、今回は京都代表諸賢の野勢、吉田（実）、多田（丞）、その他各氏のお世話で、去る11月12日（土）午後5時より四条大橋・京料理「ちとせ」で開催。全国からその意に賛賀馳せ参じ、珍しい面々懷古を語り大いに友誼を暖め合い楽しい思い出をつくったことでしょう。（実はこの原稿／＼切が10月1日、発行予定1ヶ月後とのことで総会内容は次132号に報告させていただきます。）

○お知らせ

・計 報

63. 8. 14 後藤 優君（岐阜市今川町）

62. 10. 27 武内治彦君の長男（大阪府）

63. 1. 19 黒田雅行君の父（青森県）

前号発行後に連絡があったもので改めて紙上慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

・災 害

河野弘彦君（広島県）在住加計町にこの梅雨期、記録的な集中豪雨に合い一時電話不通、床下浸水程度、事無きを得、会よりお見舞。

○大阪支部だより

定例総会本年も7月30日（土）曾根崎「多幸梅」にて開催。長谷支部長、大迫会長をはじめ16名が参集、会運営、秋季総会協議、現状情報交換など多々ますます弁じ凌暑に大いに浩然の氣を味わった一宵であった。（写真参照）

＜当日出席者＞

白井、西村、山本（和）、秋田、井上、大迫、橋本、長谷、福田、安田、山下、山根、分野、安野、中川、笠谷。

（笠谷周弘 記）



専31 みそひと会 於京都ちとせ 昭和63年11月12日



青雲会 於 神戸ニューオリエンタルホテル 昭和63.10.15

医 定

昨年は大阪在住のお世話により大丸前の日航ビルで開催し、次年度の開催地の話になるべく交通の便利なところだと話し合っているうち、新幹線神戸駅前に高層で、眺めもよく、なお一日中退屈しない設備や劇場迄あり、と噂に聞いている。又、周辺散策にも便利だし、名称も神戸ニューオリエンタルホテルと言うんだとしゃべっている間に「口は禍のもと」、それに決めよう。神戸の先生よろしくになってしまいました。予定の日迄に完成出来るだろうかと、当初悩んでおりましたが、幸い予定通り10月15日（宿泊）を予約しましたが、偶然当日は大阪歯科大学兵庫支部同窓会の総会が、同ホテルで開催され大変盛会で賑わいました。私達の学友も年令のせい、病人や老化による種々な事情で出席者も徐々に少なくなってゆく淋しさ、身にこたえる年となりました。明けて16日各位の希望により須磨離宮散策。モノレールに乗車した事のない方の為、三宮駅より乗車。ポートピアホテルで休息し、三宮へ帰り昼食、来年度は広島でを約し解散す。

（青雲会 医定）

大 1 一 黎 会

“一黎会昭和63年度総会開かれる”

一黎会の諸兄お元気ですか。錦秋11月12日（土）、午後4時より大阪南の料亭旅館大野屋迎賓閣で行われた。

総会議事は庶務及び会計報告後、次年度総会場所を執行部一任で終了した。

引きつづいて藤井学兄（大歯保存学教授）より「裏層」という演題で、修復物直下の歯髄保護処置及び裏層のもっている意義を再考して、base及びliningにより歯髄をできるだけ保って、修復するという現代的歯科医療のフィロソフィーにマッチした有意義なテーマだった。

宴会は、先づ来賓としておいでいただいた大歯同窓会副会長村井俊郎先生より、卒業35周年を迎えた一黎会々員にお祝いのお言葉を戴き、乾杯後、大野屋自慢の紅葉がちらりと舞う晩秋の膳の懐石料理に舌づつみを打ち、杯をかわし、和気藹々のうち、宴も盛り上がりいつしか時のたつのも忘れるぐらいだった。

尚、今年は永らく病氣療養中だった山中、仙崎両学兄の元気な顔が見られ、健康であるということの尊さを各自かみしめた。



一黎会 於大阪南 大野屋迎賓館 昭和63.11.12

翌13日（日）、京都、都ホテルで行われる大
 歯同窓会々員家族大会に参加組は、車で京都に
 向う途中、40年前の学び舎牧野分校に立ちより、
 正面校門の緑したたる森、立派に整備された学

舎、運動場を眺め、懐しさで一杯だった。以後
 淀川の堤を京都へ向い、都ホテルで来年の再会
 を約し解散した。

大 3 三 輪 会

昭和63年11月12日、京都嵐山嵐亭に於て、第
 34回目のクラス会を開催、翌13日に第10回全国
 同窓会々員大会を控えて多数の参加が期待され
 たが、折角の好天氣に紅葉がちらほらの景勝地
 にもかかわらず40名をやっと越す参加者、地元
 京都三輪会の入念なる準備と企画に加え河野、
 内藤、水野、江口君のご夫人と塩田、水野両君
 のご令嬢の特別参加で何とか盛りあがりを見せ、
 懇親会前の総会も、今後の運営につき意見輩出、
 懸案の三輪会々則設定委員会も新海クラス代表
 に一任され、記念撮影後、楽しい懇親会が開幕
 となり、ご来賓として多和明海大学々長、谷口
 名誉教授、益川大歯同窓会副会長、橋本常務理
 事、小鳥京都府歯副会長をお迎えし、賑やかに
 開幕の運びとなった。冒頭、新海クラス代表幹

事より「ご来賓のご出席に対して感謝の言葉の
 後、明日の全国同窓会々員大会への参加呼びか
 けと共に京都三輪会の一丸となったご協力に対
 する感謝と久しぶりの歓談を心ゆくまで楽しんで
 頂き、来秋大阪全日空ホテルでの35周年には
 賑々しくご参加願いたい」旨、要請と感謝の挨拶
 の後、美味しい京料理に堪能しながら「しのぶ
 とみさお」の民謡ショウに西嶋君の炭鉾節の踊
 りまで披露され、会場もどっと盛り上がり、時の
 たつのを忘れる始末、今回は大分から高橋君、
 岡山から西嶋、城西より清村、片山の3教授と
 忙しいところを出席してくれた事は何よりの収
 穫であった。締切日も迫っており写真が間に合
 わないので次回号をお楽しみに。

（新海研志 記）



大 4 一新会

晩秋の京都、都ホテルにて11月12日一新会クラス会総会が午後5時30分予定が多少遅れて小林先生議長のもとで、目黙に始まり会計報告等無事終了した。

本年は翌日第10回全国同窓会々員大会が当ホテルにて「団結と躍進」の旗印のもとで開催される関係上、12日夜19のクラス会が2、3時間の間に有ると云う盛況ぶりで、大阪本部はもちろん、京都も会長以下役員が手分けして大体1人4会場担当で廻ると云う多忙ぶりだそうです。我が会には、本部副会長村上勝先生、並びに京都同窓会副会長水谷光孝先生のおこしの栄をたまわった。

午後8時30分懇親会終了して帰宅する者、ホテルの部屋へ行く者、夜の街の赤や青の灯をもとめて消える人、様々で13日午前中に錦秋の京都周辺の寺院や、博物館を見学し開宴時刻にはどこからともなく参集し昨夜から今までの状況を語り合っている人達でした。

尚、一新会総会にて次回は四国道後温泉と決定しました。

来年の再会をたのしみに、皆さんお元気で！
(嶋村克美 記)

大 7 七夕会

目に青葉の好季節を迎え待望の七夕会岡山がやって来ました。泣き出しそうなあいにくの天候ながら瀬戸大橋の魅力のお陰で家族同伴も多くゲストを入れて110名の参加。地元岡山は感謝感激。ゴルフ勢30名を最後に東急ホテルに全員集合。総会も定刻通り終了。次いですし詰めと爆笑の記念撮影。いよいよ懇親パーティーへ。浅野君の名司会でスタート。先輩森本県会長の母校愛に満ちたご挨拶に始まり筒井先生の「青春とは」の名言入りのスピーチに胸打たれ、山本先生の詩情あふれるお言葉で乾杯。待機する美人ホステスとコンパニオンがテーブルに散って最高のムード。ほろ酔気分となれば自分の席はどこへやら、テーブルからテーブルへ乾杯又乾杯。歓談は趣味から健康、子供の縁談から孫の話まで。年のせいかやはり学生時代の懐かしい思い出話を中心。

想い出は巡りて牧野天満橋

あっと言う間の2時間半のパーティーもこれにてお開き。夜の岡山観光は一流どころのクラブ、ラ・パロマへ直行。美女に囲まれ飲んで歌っての歓談。恩師、奥様方もご満悦のご様子。こまでは一応の団体行動。これから先は個人の

自由行動。夜明け迄岡山探訪がつづいたとの由。ちなみに小生5次回3時にてダウン。翌朝失礼、今朝は8時から目玉観光瀬戸大橋へ60名バス2台で出発。世界初の4つ目トンネルを抜けるとバスは瀬戸の上。下津井櫃石の両吊り橋、岩黒島の双子斜長橋を一気に渡り、与島に降りて一休憩。島より見上げる大橋のスケールに只々感嘆の声しきり。橋は下から見上げるものなり。島ありて大橋あり。島に感謝する。

大橋を担いで島より重かるう

北南備讃大橋渡ればここは四国。雨中を一路屋島へ。四国村入口でタライの様な桶で名物讃岐うどんの昼食。さすが本場の味に全員満足。雨降りやまず屋島観光は断念。高松へ引返し早便のフェリーへ。豪華なキャビンで雨に煙る瀬戸内海を眺め船旅を楽しむ。宇野からはゴール岡山駅へ一直線。来年の大阪記念会での再会を約して全員家路へ。皆様本当にお疲れ様でした。雨に始まり雨に終わった観光でしたが、大勢のご参加を頂き楽しい一日でした。ゴルフ、総会、懇親会、二次会、観光等ご不満の点多々ございましょうが同じクラスのよしみ、ご寛容の程お許し下さい。来年の30回記念大阪七夕会のご盛会と皆様方のご健勝をお祈りしてペンを置きます。

(妹尾(昌) 記)

大 8 おやしらず会

第28回クラス会総会が昭和63年9月10日(土)、11日(日)の両日会員42名、来賓3名の参加を得て、ラジュウム温泉で有名な名湯鳥取県三朝温泉で開催されました。

9月10日(土)ゴルフは三朝CCで行われた。早朝スタートの為9月9日(金)みささグリーンHに伊藤君、糸田君、岡田君、神田君、瀬尾君、高田武君、田中フク子さん、野坂君、藤田君、前野君、吉岡君、灘尾君、船木君、三代とつどい前夜祭を行った。席上お互いの体の調子の事、子供達の将来の話など談笑早々に各自の部屋に分散する。AM1:30亀岡君、小倉君が到着、一方倉吉シティホテルに伊集院君、片野君、清原君、西松君が宿泊。

明けて10日(土)ゴルフ場に嶋崎君、山田寛君も集り、20名参加の下、8時21分第1組オーナーの第一打は9番ホールへ打ちO・Bでスタートする。午後になれば雨との事、雲が多く暑くもなく絶好のゴルフ日和の中、お互いの舌戦きびしくその中にクラスメートの思いやりのなどやかさの内にプレー、17番から雨の中プレーする。成績は各自のプライバシーのため発表しませんが、糸田君が優勝、B・G、ドラコンを獲得した。その他は?



大阪歯科大学第28回おやしらず会 於三朝温泉永楽苑 昭和63年9月10日



総会、宴会、地元幹事より早く桜井君、白石君、林君、村上君がPM2:00頃に総会会場である永楽庵に到着。谷口充世さんも加わり4時より受付。雨の中扇田君、河合君、金月君、古跡君、田村君、三谷君、森谷君、森本君、和気君ら又、樋口君は御子息（大歯大3年、1年生）と来鳥との事、5時雨のやみまを見て記念撮影。次いで総会となる。その頃宮尾君も加わり、①三谷君の挨拶、②古跡君より学内報告、③前年度開催地神戸の会員を代表して清原君より会計報告、④次年度開催地について徳島、山口、岡山、三重、京都と候補にのぼったが、各県の事情により辞退、結局大阪にお願いすることに決定する。この間に龍田君、守田君、吉田種男君参加、席上守田君より山中君の病状につき報告ありカンパをお願いするとの事（約20万円集まる）。6時森谷君の乾杯の音頭で宴会が始まる。そして来賓の大歯大鳥取県副支部長仲洋典先生の祝辞を頂く。料理は三朝温泉周辺の山菜、魚は山陰地方でとれたイカ、イワシ等のサシミ他この地方の品物ばかり。宴の途中鳥取県歯科医師会会長上田務先生、鳥取県中部歯科医師会会長小川温夫先生がお見えになり祝辞を頂く。又、白神君も到着、出席予定者全員そろいにぎやかな内に8時頃瀬尾君の万才三唱にて終宴となる。その後各自露天風呂に入りおやすみとなる。11日（日）朝食後自由解散となる。

15年ぶりに当地にてクラス会を開催したが、返信の中に身体の不調を書いている人が、四、五人いましたが、いまさらながら自分の健康について考えさせられました。元気で診療できることの尊さを知りました。来年は大阪です。病氣療養中の方の一日も早く回復され、お顔を見せて頂けるのを楽しみにしています。

最後一言御案内通知を出し、返事なき人が70名ありました。お世話する身になってせめて返事だけは出して下さい。

（三代一成 記）

大 9 久 栄 会

11月12日（土）、全国大会の前日、おりしも紅葉に賑わう京都の新京都ホテルにおいて79名の会員の参加を得、63年度の久栄会総会、並びにこのたび目出たく明海大学教授に就任された時岡君の祝賀会が開催されました。当日は3時半より受付開始の予定でしたが、2時前より来られている方もあり、3時過ぎには多数の友人が集り、行楽で混雑するロビーでも我々の声ばかりが聞えておりました。始めは久しぶりの友人もあり、やや他人行儀のところもありましたが、時間が経過するにつれ、頭、体形は変わって



いても気分は完全に昔に戻っていました。卒後27年も経過するとスタートは同じであっても、色んな面で個々には随分と差が出てくるものですが、それをかなぐり捨てて本音の付き合いの出来るのが級友の良いところだと思います。

さて総会は途中より稗田学長が参加されスムーズに進行し、次期会長には石堂現会長の留任、監事も高田君、時岡君の留任ということになりました。そして次の級会は広島の上根君のお世話で福山で行うことが決定しました。又、時岡君には久栄会から記念品及び花束が贈られ、時岡君のスピーチの後大盛会のうちに終了しました。

続いて部屋の装を改め懇親会に移り定刻まで酒、料理に舌鼓をうち玄人はだしの歌声の間える中始終笑い声のうちに無事閉会となりました。

不慣れな幹事のため皆様に多々御迷惑をおかけしたと思いますが、二次会にも過半数の人々に参加して頂き幹事一同非常に喜んでおります。どうもありがとうございました。尚当日来賓として村上先生（全国同窓会長代理）、稗田学長、野田教授、上田先生（京都同窓会長代理）、時岡教授夫妻、長谷川京歯会長が出席されました。

追 伸

当日時間的な都合で一部しか御披露できませんでしたが、現在闘病中の中川君から皆様へのメッセージが届いておりましたので、全文を掲載させていただきます。

（高畑操 記）

中川 弘君の手紙

久栄会の皆様お元気でいらっしゃいますか。

私も今度こそ元気になってお目にかかれる事を目標にリハビリに励みましたが、残念乍ら今回は出席する事が出来ませんので近況報告で参加させていただきます。昨年3月26日深夜突然の頭痛で意識を失い、救急車で舞鶴市民病院に入院、破裂脳動脈瘤、クモ膜下出血、脳内出血との診断で午前2時半から翌朝10時過ぎまでかかる緊急手術を受けました。1年13日間に亘る入院生活を終え、本年4月8日に退院いたしました。症状が重かった為、その間に合計4回の手術をいたしました。

現在は左上肢機能全廃、左下肢著しい機能障害、右眼は視野はあるものの視力ゼロと言う後遺症が残り、車いすの生活となりましたが、補装具をつければほんの少々歩行は可能で、週

に2回リハビリテーションに通っています。

医療を与える側から受ける立場に逆転し、障害者手帳なるものを持つ身となれば人生観も変わりましたが、その間にお寄せ戴きました久栄会の皆様からの過分なお見舞とご温情は誠に有難くうれしくお礼申し上げます。

特に地元の平野先生、小川先生にはお世話になりました。時岡先生、中村先生、秋田先生、高畑先生、阪口先生、長谷川先生には公私共にご繁忙中のところ遠路お訪ねいただきお励ましの言葉をたまわりたく心に刻んでおります。

家族の者はもう一度白衣を着せてやりたいとの強い希望をもってありますが、実際のところは再起不能と言うのが本当のところでしょう。でも左片方麻痺と言っても片方は健在です。要は考え方だと思う様にしています。

愚息も大歯の4年生になり実習その他で気をもんでおりましたところ、中村守良先生のご厚意で診療所に預かっていただき卒業までの間いろいろとご指導いただき大変なお世話になるとの事で、はっと胸をなで下しています。今回の病気でたくさんのものを失いましたが、それ以上にこの様な数々のご親切を受ける事が出来ましたことを深く感謝いたしております。

では久栄会の皆様、健康には充分ご留意下さいまして益々のご活躍をお祈り申し上げます。

いつの日か久栄会に参加することを希望しています。誠にありがとうございました。

昭和63年11月2日

久栄会様

(中川弘 記)



大 9 久 栄 会

時岡孝夫君 明海大学歯学部教授に

同級生の皆様方お褒りなくお過ごしの事と存じおよろこび申し上げます。この同窓会報がお手元に届く頃には、11月12日に開催いたします第27回久栄会総会も京都府の幹事の先生方はじめ同級生の先生方のご協力により無事終えている頃と思います。さて、此の度同級生の時岡孝夫君が明海大学（元城西歯科大学）歯学部教授に10月1日就任されました。誠にめでたうございました。我々久栄会々員一同、君の関東の地での大いなる活躍を期待し、又、益々の発展をお祈り申し上げる次第です。大歯大の先輩、同級生、そして後輩の諸先生方の御指導、御鞭撻を時岡君に賜いますよう心よりお願い申し上げます。

(石堂越夫 記)

ご 撻 挨

大阪歯科大学解剖学教室を9月30日付で辞し、10月1日より明海大学歯学部（元城西歯科大学）の口腔解剖学第二講座の教授に就任することになりました。この第二講座は久栄会の先生方が大学3年生のときに解剖学を教えて頂いた谷口善之先生が城西歯科大学創立と同時に開講されたところですが、その後先生はご退任なされ京

都のご自宅で元気に悠々自適の日々を過ごしておられます。谷口先生と共にご苦労された花井先生がご後任として引続いておられました、花井先生も皆様にはご記憶があると思いますが、やはり3年のときに大学を出られたばかりの若々しい先生から解剖実習で手を取って教えて頂いたのです。そして先生は教育に研究に頑張っておられましたが、残念なことには62年9月5日に他界されました。その後、今日まで当講座の教授席は空席のままでありましたが、このたび明海大学の多和学長と橋本歯学部長からのご要請があり、谷口善之名誉教授、太田義邦教授、多くの先輩はじめ、解剖学教室の同級生の皆様方、久栄会々員で京都府歯科医師会々長の長谷川君のご援助により決ったような次第であります。思い起しますと、昭和36年に卒業すると同時に解剖学教室に残りました。あえて入室と書かずに残りましたと書きましたのも、先生方がご存じの様に私や2、3の友達と共に昭和32年の秋から教室に出入りさせていただき、標本作りや研究のお手伝いの傍ら教室におられた谷口先生をはじめ太田先生、故植平先生、岡野先生、花井先生、紺田先生方から歯科医となるための勉強や技工など手を取って教えていただきました次第からです。新しい就任地で教授の大席を全うできるか一抹の不安はありますが、しかし牧野時代から33年の長きにわたって多くの諸先生方からお教えたいただいたことを念頭において埼玉の新就任地で頑張っていきたいと思っています。これからも今までと同様に指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

(時岡孝夫 記)

大 10 ひとわ会

紅葉の便りが届く良い季節を迎え、ひとわ会の皆様には、ご活躍の事と存じます。今年は冷夏の割に残暑が厳しく、体調を崩された諸兄もおられたかも知れません。お互い体を気遣う年齢になった様ですが、元気に頑張りたいものです。

ひとわ会総会まで1ヶ月となつてまいりました。10月上旬現在、80名を越える参加の御返事をいただいております。ありがとうございます。10月1日に、総会場所となる「左阿彌」で京都ひとわ会の方々と最終打ち合わせを行いましたが、100名迄は参加が可能ですので、より多くの方のご参加申し込みをお待ちしております。

又、ゴルフコンペの方は、京都の竹内君の御尽力により、瀬田ゴルフクラブで16組のエントリーという大コンペを開催出来る事になりました。巷のゴルフブームが我がクラスにも押し寄せた様です。どうぞ、楽しみにお待ちしております。

さて、機関紙「ひとわ会北から南から」の創刊号は如何でしたでしょうか。総会が終了すれば、第2号の発行を予定しております。どうぞ、皆様の積極的なご投稿をよろしくお願い致します。

又、既に皆様ご承知の事ですが、11月13日に大歯大同窓会全国大会が京都で開催されます。10月1日に行われました大歯大同窓会役員会の席上で、一人でも多くの会員の参加要請がありましたので、こちらへのご参加もよろしくお願い致します。

では、錦織りなす京の町での再会を楽しみにお待ちしております。

俺お前 禿も白髪も 年忘れ

(加藤晴彦 記)

大 11 士 会

大11士会25周年記念同窓会報告

秋冷の候、士会の諸先生には益々御清祥のこととお慶び申し上げます。我々が大阪歯科大学を卒業して早や25年、1/4世紀を過ぎようとしています。この25年の間には様々な出来事がありました。嬉しいこと、お目でたいことでは我々同級生の御子弟が本学あるいは他大学に入学されたり、無事卒業され国家試験にも合格されたことなどではないでしょうか。反面悲しい事も

多々ありました。なかでも我々の同級生が、志半ばにして他界されたことは最も悲しい出来事であります。理由は定かではありませんが、特に11回卒業の我々の学年物故者の数が極めて多く、十数名に及んでいるという事実であります。このことから日頃の健康管理には従来にも増して、気配りを怠らないように願っております。

そこで、全国同窓会の大会ならびに今回の士会同窓会が京都で開催されることを勘案し、士会同窓会の記念事業として、現在までに他界していった同級生の物故者合同追善供養を南禅寺境内“清涼殿”にて行うことを計画しましたところ、多くの同級生の御賛同を得、11月12日の当日には百数名の同級生に参拝していただき、3名の僧侶による御読経のなか、他界していった同級生の御冥福を祈りました。このように多数の同級生が参集していただいたことに対し、本事業を計画しました準備委員一同、本紙面をかりて心より御礼申し上げます。なお、当日物故者の御身内の方々にも御出席をお願いしましたところ、故川上忠厚君、林 茂樹君、北山孟彦君、村上弘次君の奥様と大見 尚君のお嬢様の御出席を戴き、我々と共に故人の御冥福をお祈りいただきました。

追善供養の後、山上君の司会、大野君の議長による士会同窓会の総会が行われ、準備委員長の新井君の本同窓会にいたるまでの経過報告ならびに戸田君の学内報告、宮崎君の会計報告などがあり全て出席者全員による承認を得ました。なお、次回同窓会開催の件で、2～3年後に兵庫県が当番で行われることが決定し、準備委員等の構成については兵庫県の同級生に一任することになりました。なお、30周年記念同窓会は大阪で行う予定であります。詳細は次回同窓会総会時に決定することになりました。また、総会が始まる直前に奥野喜一同窓会長が御多忙な中、我々士会のために時間をおとり願ひ馳せ参じていただき、お祝いのお言葉を賜り、出席者全員拝聴させていただきました。

総会終了後、御身内の方も含め記念集合写真を撮り懇親会場へと移動し、山本卓也教授、和

歌山県同窓会長の久保昌弘先生をお迎えし御祝辞を戴いた後、浜田君の司会進行による和やかな懇親会が時間の経つのも忘れ盛大に行われ、宴たけなわの懇親会途中に稗田豊治学長と木下善之介教授が忙しい中をおして我々士会のために駆けつけて戴き、お祝いのお言葉を頂戴しました。また、懇親会がお開きになってからも、お互い旧交を暖めるべく親友同士が三々五々、京都の夜の町へと歩を運ばれていったようであります。

一方、我々の同窓会の翌日に予定されていた全国大会にも、士会からは50数名の登録を戴き、士会記念同窓会出席と併せクラス代表として御礼申し上げます。

最後に、今回の同窓会開催に際し、準備その他の面で種々お世話願った京士会の諸先生方には、士会一同を代表しまして御礼申し上げます。

向寒の折、士会の諸先生方のご健康を祈念しつつ、士会25周年記念同窓会の御報告とさせていただきます。

『追伸』

同窓会当日の集合写真を掲載する予定でしたが、現像その他の事情で間にあわず、次号にでも掲載させていただきます。

(今井久夫 記)

大 12 十二支会

十二支会の皆様お元気ですか？ 診療に興味にと頑張っておられることと存じます。64年7月8日（土）に25周年記念大会がロイヤルホテルで開催される予定です。10月1日にはその準備のための幹事会がもたれ魅力あるゲストを招くことやおいしい食事の相談をいたしました。幹事一同張り切っております。皆様のご参加をお待ちしております。



次に去る63年9月24日に初めて十二支会の二世会が開かれました。多数の親子が参加して楽しい会となりました。その様子をお知らせしましょう。

(時岡寛子 記)

十二支会二世会

昭和39年十二支会が誕生、24年後、その数実に50人を越えた二世会が発足しました。6年生（上村君、植平君）の二名を頭に次第に増えるばかりのたのしい若者の会です。9月24日（土）OMMビルの東天紅において大歯大現職の白数（口外）、川本（矯正）、松川（解剖）、崎山（口解）、清水（保存）、北条（口診）を含め十二支会の20名と、二世約40名の参加で第一回が開かれました。遠く九州から松成君、四国から長谷川君も来てくれました。白数君から“二世とは”のお話を聞いたあと、父母の代弁者として徳永さんから、特に現職者に対し“立派な歯科医の二世になるまで、しっかり見守って下さいよ”と心からなる挨拶がありました。ついで二世の自己紹介があり、彼等の姿の中に若き日の友人の面影を見つけ“そっくりや”と

か“親よりええで”など当日一番楽しんだのは親の方ではないかというような会になりました。二世達も安心して話しあえる仲間の様子が、初回にもかかわらずにぎやかにさわいでおりました。当日世話をしてくれた5年新井君、4年花田君を中心に次の幹事を選んだり名簿の充実、予定など見事な運営に感心しながら会を閉じました。次回は来年父兄会当日と決められましたのでより盛会を期待しています。

第一回二世会 十二支会よりの参加者

徳永、小田、松成、足立、白数、清水、増田、神山、高橋、橋谷、川本、木下、植平、高安、平田、松川、安東、長谷川、蘭、北条、崎山

(北条博一 記)

大 13 登美栄会

同窓生の皆さん、11月12日（土）と11月13日（日）の京都での再会100名を越し、大変な思い出の数々と現況報告で時間のたつのを忘れてしまうほどでした。皆さんが各地で、歯科医療はもちろんのこと、いろんな仕事に精を出して



飯塚教授就任祝賀会

おられることをつぶさに耳にして、心強い限りなのと、同窓会を通じて連絡を密にとり情報交換をし、より助け合わなければと強く思いました。11月12日（土）の京都大学医学部口腔外科教授に飯塚忠彦君が就任された祝賀会については、この度大変お世話になった京滋登美栄会の方々を代表して、速水君と鈴木正弓君に経過報告と当日の厳粛な雰囲気の記事にいただきました。

（速水・鈴木正弓 記）

今季節は初冬、虫の音をすっかり絶え、街路には枯葉が舞いはじめた。

級友、飯塚忠彦君が4月1日付で京都大学医学部口腔外科教授に就任されてからもはや8ヶ月が過ぎ去ってしまったが、先日登美栄会主催の教授就任祝賀会が行われたので、その準備の段階から順を追って報告することにする。

5月21日、大阪より松田毅登美栄会々長を招き、第1回の祝賀会準備委員会を開く。準備委員長は速水順君に、開催日は『一人でも多くの友とこの喜びを分かちあえるように』と、大阪

歯科大学同窓会全国大会の前日である11月12日(土)に決定した。

「私のために出席をしていただく会員の先生方には、極力御迷惑、御負担を掛けないようにしてほしい」という飯塚君の希望や、『京都での良き思い出を全会員に持っていただく』との我々の願いから、10回余りもの準備委員会を開き、入念に検討を重ねた。

祝賀会当日は、天候も祝福してくれたかのように、すばらしい秋晴れとなり、午前中は女医さん方(太田くみ先生、川崎登代子先生、佐野操子先生、中村久枝先生)の以前からの希望をかなえるべく、錦秋の東山周辺を散策する。紅葉の美しい清水寺・高台寺・大雲院そして二条城近郊のカラクリ旅館、二条陣屋と大いに疲れを癒やしていただく。

午後4時からは祝賀会場の京都国際ホテルにて飯塚教授記念講演が鈴木智之君の軽快な司会で始まった。演題は「全身疾患と歯科治療」これからの歯科医師も一般内科学に精通する必要性が縷々説明され、その重要性を再認識した。

歯科医の地位向上・保険点数のupを唱えるのも大切だが、その前に看護婦に負けないだけの基礎医学の知識をもたなくてはと痛感する。次に、松田会長より来年7月15日、16日北海道にての大会の報告があり担当地から「特徴のある北海道大会にしてお待ちしている」とのうれしいメッセージも披露される。続いて、鈴木正弓君の考案したM. S式 $\frac{1}{2}$ 頭・全頭バイトレーの簡単な説明があり講演会は賑わい終了した。

急いで記念写真を撮影・祝賀会場へと移動した、12日当夜は前述の如く京都の各所で同窓会が開催されていて、大変お忙しき中、来賓として稗田豊治学長、西川元造名誉教授、高須淳教授、大野敬一郎教授の臨席を得る。また飯塚君の父君、令夫人を迎え級友110名と共に同君の教授就任祝賀会を盛大に催した。

古原英男君の絶妙なタッチとユーモラスな司会で幕を開く。各来賓よりの祝辞そして記念品と花束の贈呈へと進み、飯塚教授より級友に対する心からの謝辞がある。乾杯後すぐ舞妓の美しい踊り、旧友達はあちら、こちらで歓談の輪

を結び始める。同窓生の岸教授、藤井教授、中村教授、井上教授の祝辞をもらったり諏訪ダンシングチームの歌と踊りで祝賀会は最高潮に達し全員美酒に酔う。閉会後は同級生でありながら歯科よりカントリー&ウェスタンミュージックを本職として歩み続け、今年テネシー州の名誉市民の称号を贈られた永富研二君のライブハウスに60名が押し寄せ、大いにサタデー・ナイト・フィーバーをやる。彼は一週間前30周年記念コンサートを終えたばかりの疲れた「喉」にもかかわらず遠来の友のために11時過ぎまで熱唱熱演奏をしてくれる。

以後三々五々に終着駅である「祇園」へと脚を運び、夜の耽けるのも忘れて語らい、夜の明けるのを待つかのように痛飲し、笑いが弾んだものであった。東山連峰がしらじらとなる頃、我が家に帰りポケットからとり出した飯塚君よりお礼としてのテレホンカードには、

“Nur guter Mensch kann ein guter Arzt sein”

(善良な人しか良医であり得ない)

(善良な人のみが良き医師となり得る)

なる座右の銘が記されていた。

最後に遠方より出席して下さった方や、記念品を送って下さった同窓の皆様に登美栄会々長の松田君はじめ、飯塚君や京滋登美栄会の皆様からよろしくお伝え下さいとの事でした。では又会う日までさようなら。

(後藤進 記)



於渡月亭 昭和63年11月12日

大 14 寿 歯 会

謹啓

向寒の候、先生方には益々、ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて先日（11月12日）第7回全国寿歯会総会を開催しました所、公私とも御多忙の折、多数の先生方が紅葉の名勝京都嵐山の“渡月亭”に全国津々浦々から集まり、全国寿歯会総会も滞りなく盛大に終わることが出来、準備させて頂いた京滋寿歯会一同心より感謝して御礼申し上げますと同時に十二分に満足して頂けたでしょうか？

昭和53年11月11日京都にて開催して以来10年が経過しましたが、その後我々を取り巻く環境は大変な様変わりですが、変わらなかったのが各先生の話し方、癖、学生時代の姿ではなかったかと思われます。また当日は40名程の先生方が早朝より瀬田カントリーでプレーを楽しんで頂き、日頃の練習成果を発揮された高木卓二先生が優勝されました。

総会は、先生方の御協力で滞りなく終わり、再度寿歯会々長に大西洋二先生に、評議員に木原秀文先生に万場一致でお願いする事になり、今後とも会員の皆様のご支援、ご協力により益々全国寿歯会が発展するものと思われます。又、

学術研修会では我が寿歯会8人目の教授、明海大学口腔外科山本美朗先生に自信に満ちあふれた施術を沢山のスライドを使って講演して頂き有意義な一時であり、尚一層の山本先生の活躍を期待します。懇親会では本部より益川副会長、橋本常務理事、京都小島副会長に大変お忙しい中御臨席賜り、翌日の13日の全国会員大会に向けて蘊蓄のある挨拶を頂き、更には北川理事長をはじめ、稗田学長、法人理事中村先生、多和明海大学々長、他多数の先生から祝電を頂きました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。つづいてアトラクションとして、舞妓による京おどり、京都無形文化財の六斎念仏を觀賞しながら、夜のふけるのも忘れ、飲む人、語る人、繁華街へ出る人と古都京都を十分に満喫して頂けたでしょうか。

今後とも寿歯会発展の為に、健康に充分留意されてご協力、ご指導、ご鞭撻を切にお願い致します。

（京都 佐々木貞 記）



大16 天章会20周年記念総会 於 ホテルプラザ

大 16 天 章 会

盛大に、天章会20周年記念総会開催ノ

私たち192名は、昭和43年3月、あの天満学舎を巣立って、早や20年が過ぎました。

東に西に、北に南へと日本全国に学友は散らばりましたが、この記念すべき大会に、北は静岡、富山、南は宮崎から138名がホテルプラザに馳せ参じ、一同に会して、本当に楽しく、暖かで、思い出に残る時間をもつことができました。

総会では、会長挨拶、会計報告の後、長年会を引っ張って今日の立派な同窓の会を構築して下さいました温厚な生駒等会長の辞意の後をうけ、これまたファイトあふれる岡本学君に、バトンタッチされました。

生駒等君おつかれさま、ありがとう。新会長岡本学君お願いします、というのが私たち全同窓生の気持ちです。

つづいて記念式典にうつり、同窓会より奥野喜一会長、新田孟専務、大学より稗田豊治学長、私たちの主任であった小森富夫名誉教授、山岡昭病院長、井上宏補綴学教授、大阪府歯科医師会より岡邦恭専務がご臨席下さいました。

生駒会長の式辞。来賓の奥野、稗田、小森の諸先生方より、今日の政界、経済界、歯科界の中での私たちのおかれている立場、今後の取り組み方について、一歩立ちどまって、よく考え

てはどうか一など、医療人として生きていくための誠に示唆に富んだご祝辞を賜りました。

祝宴は、“ありがとう”浜村淳氏の司会で軽妙に始まり、アトラクションに漫才のオール阪神・巨人、歌手の都川愛子、演奏にはアルファベッツを迎えて、楽しい語らいの一時をすごしました。

みんなで語り合っていると、とても卒後20年が経っているとは思われません。

髪の毛に白いものが混じり、少々おつむも薄くなり、お腹も多少出張ってきていますが、「おい」「おまえ」と学生時代そのままに、ワイワイ、ガヤガヤ、と笑顔、笑顔です。

つい昨日卒業したのではないか、というような錯覚におちいります。が、話題はもっぱら子どものこと。（卒後20年なんですね）それも進学のこと。大学受験、高校受験、いずこもみんな同じ悩みなんですね。

そうかとおもいますと、2歳児を抱えるお父さんもいらっしゃいます。

学生時代の面影が残り、全員美男、美女になっておられるのは、地域社会において大いにご活躍され、生きがいのある人生をおくっておられ、幸せさがしみ出ているようにおみうけしました。羨しいかぎりです。

あっという間に、予定の時間が過ぎ、その場を、その雰囲気から去り難く、ラウンジにコーヒハウスにとくりだし、交歓を深めていました。

その夜、久方ぶりに興奮し、思い出が走馬灯のごとくめぐって寝つきが悪く、眠れぬ夜をすごしたのは、私だけだったのでしょうか。このようなすばらしい機会を与えて下さった生駒会長、岡本学準備委員長はじめ大阪天章会、実行委員のご同輩に感謝します。

次期天章会の開催は、北陸地区（牛村君、黒川君、湯浅君他）です。

この感動を再び味わいましょう。

今回以上の多数の諸学兄（姉）の参加をお願いします。

ゴルフの結果を報告させていただきます。北六甲カントリークラブで、早朝から寒さと強風

のなか、35名の参加者がありました。

優勝	小山 勲男
2 位	釜下 嘉信
3 位	堰口 新二
4 位	田中 脩司
5 位	志水 三郎
6 位	山根 勇
7 位	斉藤 稔
8 位	福田 宏
9 位	佐本 高明
10 位	北川（平野）武彦

以上の順位です。

（内藤 記）



昭和63年度とわ会 於別府ホテル白菊 昭和63年 7 月 9 日

大 18 とわ会

会員の皆様方にはお元気におすごしの事と存じます。さて第17回総会が昭和63年 7 月 9 日（土）～10日（日）に大分県別府市ホテル白菊にて開催されました。何分遠方故に飛行機利用ということで参加者の減少を気にしていましたが、39名の参加をいただき遠方の開催地としては盛会でありました。

特別幹事として、準備にあたっていただきました、数野、沢宮、杉山、福原、四君には大変御世話になりました。

日程により総会が開催され、20周年（第19回）には、記念大会を開催する事を決定し、日時、大会役員等については、幹事会に一任されました。又、次回、開催地には広島県と決定し、当日出席の家頭、豊岡両君よりぜひ多くの会員においていただきたいとの挨拶がありました。尚、御来賓には大阪歯科大学同窓会大分県支部長、数野正先生（数野君のお父様）においていただき、親しく歓談させていただきました。

懇親会は今回は特に料理を厳選したという幹事の言もあったのですが、さすがにすばらしく、二次会も25名と盛大に夜をすごしました。翌、

7月10日（日）は名門の別府ゴルフクラブにて第6回とわ会杯争奪ゴルフコンペが行われました。恒例のダブルベリア方式にて競技の結果、優勝蓮舎君、2位和手君、3位深沢君、ベストグロス是和手君の74ストロークと今回もレベルが高く参加26名中90以下が10名、90～100が8名、100以下が8名、スコアも74～110の間と最高でした。そういうゴルフも無事終了し、飛行機にて各地に帰りました。それでは第18回大会、広島県での同窓会を楽しみに報告を終わります。

（とわ会会長 蓮舎勝克 記）

大 20 ニ 斗 会

二斗会の皆様方、相変らずの御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、11月13日の第10回全国同窓会会員大会に先立ちまして、11月12日、京都都ホテルにて、クラス会を催す事となり、森定君を中心に京都在住の同級の先生方の御尽力によりまして、現在、出席予定者約50名、又、御参加予定の御来賓の先生は、

大阪歯科大学	学 長	稗田 豊治先生
明海大学	学 長	多和 敏一先生
大阪歯科大学	教 授	木下善之介先生
大阪歯科大学	教 授	佐川 寛典先生
大阪歯科大学	同窓会 会長	奥野 喜一先生
大阪歯科大学	同窓会 副会長	野添 静里先生
大阪歯科大学	同窓会 専務理事	新田 孟先生

京都府歯科医師会 専務理事 尾上 徹先生

各先生方には、当日、数十ヶ所にて、クラス会が開催されますので、数分ぎだみのスケジュールの中を我々の為に、御出席の事でございます。新装なった京都ホテルの会場にて、久しぶりの再会を喜び、すばらしい時を過したいと思っております。

さて、63年度の会計報告が、山岸会計幹事より届いておりますので、紙上にて報告致します。

昭和63年3月31日現在

収入の部

前期繰越金	2,760,996
会費収入	880,000
交付金収入	22,000
受取利息	81,899
その他	12,820

合 計	3,757,715
-----	-----------

支出の部

総務費	16,840
慶弔費	184,400
通信費	18,500

合 計	219,740
-----	---------

残金及び預貯金

1. 現 金	94,725
2. 定期預金	2,549,584
3. 普通預金	893,666

合 計	3,537,975
-----	-----------

以上の様になっております。まだ会費未納の会員は、山岸会計幹事まで振込まれますようにお願いします。

昭和62年4月13日	古川 浩三 父
4月15日	中井 幸利 母
6月18日	奥田 昌義 母
6月22日	高松 恒美 父
6月26日	河合 寛良 父
8月22日	渡辺 道雄 母
9月10日	山本 雅介 母
12月1日	涌本 昇 父
昭和63年2月9日	山岸 哲夫 母
3月11日	皆木 靖通 父
3月13日	安東 栄一 父

以上、謹んで御冥福をお祈り致します。

合 掌
（森井 記）



於ホテル ニューオータニ札幌 1989年 8月20日

大 21 大学21回生会

皆様お元気で御活躍の事と存じます。此の度恒例の同窓会を8月20日(土)、八戸君のお世話により札幌にて開催致しました。当日天候にもめぐまれ家族を含め52名の参加を得て、楽しい思い出をつくる事が出来ました。又、御来賓として同窓会会長奥野喜一先生、同窓会専務理事新田 孟先生、東日本学園大学坂口邦彦先生、北海道副支部長青野 東先生をお迎えし、盛大に且つ有意義なひとときをもつことが出来ました。今回の総会により15年間会長を務めてまいりましたが本年度より会長に諏訪君が選出されました。長い間御協力有難うございました。今後共今まで以上に御協力の程宜しくお願い致します。さて新役員は次の通りであります(敬称略)。諏訪文彦(会長)、加藤信次、藤田厚(副会長)、多田 逸(総務)、恩田信雄、沢 茂、鈴木善雄、藤本嘉治(渉外)、島津薫(学内)、蔵前勝彦、入船忠史(会計)、瀧

口喜郎(監事)、地方役員は、八戸正巳(北海道、東北)、向井美恵(関東)、倉知正和(中部、東海)、大森正男(北陸)、樋口淳一(大阪)、入船忠史(兵庫)、鈴木慶彦(奈良)、岡本純児(和歌山)、三宅晴記(京都)、瀬戸俊男(滋賀)、蒲原繁美(中国)、坂田秀敏(四国)、田村尚治(九州)以上であります。最後になりましたが、病氣療養中でありました北上君もだいぶ回復し、週2、3回、一人で市民病院に通院出来るようになり、診療においてもスケーリングも出来るようになりました。一日もはやく従来通り院長として診療に復帰出来ることを同窓生一同お祈りしたいと思います。

次回の開催地は蒲原君のお世話により広島で開催する事が決定致しました。では、皆様と広島でお会い出来る事を楽しみにしております。

(瀧口喜郎 記)

大 22 甲 寅 会

甲寅会の先生方、いかがお過ごしですか。

過日、ご案内をさし上げましたように、昭和63年9月3日(土)田中昭男、明坂年隆両君の教授就任祝賀会が、ホテルニューオータニ大阪で開催されました。

北は北海道から南は九州まで、全国から130数名の出席を得ました。記念撮影の後、来賓として稗田豊治新学長、筒井正弘、織田正豊両名誉教授、私達の指導教授であられた山岡昭病院長をお迎えし、小出武君の司会で始められました。教授就任までの両君の経過や業績、海外留学でのエピソードなどが披露され、両君に甲寅会からの記念品として、時計と金一封が贈られました。山岡病院長の幹杯の音頭の後、フルコースに舌鼓をうちながら同期生多数の両君へのワンポイント祝辞や、記念のサインボールの抽選など久し振りに和やかな語らいがみられました。予定の閉会時刻を随分とオーバーして、両君の出席者一人一人への握手の後に散会となりました。

甲寅会総会は、予定では64年5月(滋賀県担当)に開催することになっておりましたが、本年に祝賀会を開催いたしましたので、1年延期して65年5月(滋賀県担当)に開かれることになりました。皆様との又の再会を楽しみにしております。

尚、甲寅会から両君への記念品贈呈のため、190数名の方よりご厚情をいただきました。誌上をおかりいたしまして、厚くお礼申し上げます。

(覚道健治 記)

大 23 慈 山 会

慈山会会員の皆様、毎日御元気で診療にあたられていることと存じます。

来年5月に金沢で慈山会総会を開催する予定であることは、前号および前々号ですでお知らせ済みですが、この総会が開催されるのを機に、(1) 電話連絡網の再編成および(2) 慈山会会費の徴集方法の改正が、前回の幹事会で提案されました。

電話連絡網については現在使用しているルートがあるのですが、作成してすでに10年近くなっており住所あるいは診療所が変わった人および大学を退職した人など、現在のルートのどこかに改たに編入しなければならないケースが出てきており、既存のルートの再検討が必要となってきました。現在その作業に入っておりますので、前述の項目に該当する先生は神戸の杉本啓一先生まで連絡して下さい。

慈山会会費の件については、従来2年に一度徴集することになっていたのを1年づつ徴集することにいたします。2年に一度の徴集ですと2年に一度開催される慈山会総会のときに徴集するようになりますが、そのようにすると担当の先生方に迷惑をかけてしまいますので、会費はすべて振込みの形式にいたします。そこで、今回61、62および63年度分の計9,000円の会費を近々請求させていただきますので、何卒よろしく御協力の程おねがいたします。

追伸：肺の病気で入院している仲先生、一日も早くよくなって下さい。ゴルフ場のティグランドが君を呼んでいますよ。

(文責 杉村 記)



早蕨会卒業十周年記念大会 於東天紅 昭和63年11月12日

大 26 早蕨会

卒業十周年を記念して早蕨会総会が昭和63年11月12日、母校である大阪歯科大学において開催されました。十年ひと昔と申しますが、この十年の間にすでに大半の者は開業し一国一城の主となっております。大学に残っている者や勤務医は数えるほどになっていました。外観の方も、額が広くなったり腹部に貫録がでてきてすっかり変わった者もおれば、卒業当時のままの者など様々でした。

総会では諸報告等のあと会則について協議し、弔慰規定しかなかった会則が卒業十年にしてようやく完成することとなりました。続いて地元大阪の連絡網の完備、会長留任、次期開催地九州を決め閉会としました。引き続き記念講演が開かれ、上海第一医科大学口腔科医師であります方一如女史に最近の中国歯科事情についてご講演いただきました。

中国は社会主義国家で日本と異なり個人開業医はなく、医師はすべて勤務医で、勤務先もすべて口腔科専門の大病院で、日本の大学病院のようなシステムをとっております。診療内容としては座位診療で、すでに光重合レジンを使

用しており、歯のマニキュア専門の科があることには驚きました。また、口腔科（歯科）医師は少なく、北京のような大都市でも12,000人に一人、広東省ではなんと125,000人に一人しかいないという、なんともうらやましい実情でした。

講演終了後、東天紅OMMビル店において懇親会が開かれ総勢100名にも達する盛大な会となりました。とくに女子6割にもおよぶ出席率で会に大きな花をそえてくれました。大歯同窓会本会からは村井俊郎副会長ならびに中塚裕常務理事にご出席たまわり、とくに副会長からは近い将来やってくる長寿社会への危惧と、その将来の歯科医療をになう我々働き盛りの年代に対する期待を挨拶の言葉としていただきました。続いて中塚常務理事に乾杯のご発声をいただきました。

早蕨会総会ならびに懇親会の開催地はここ数年、神戸、京都、奈良、和歌山と近畿を一巡し、大阪では久しぶりに開かれたためか高出席率で、とくに本四架橋開通のためか四国からの参加者が多いように感じられました。懇親会ではこれ

といったアトラクションはありませんでしたが、数年ぶりに再会した近くや遠方の同窓との話に花が咲きいつの間にかお開きの時間となりました。

ひと口に十年といっても、人によっては長く感じたり、短く感じたりしていることでしょう。あるいは両方感じているかもしれませんが。感じ方に違いはあれ卒業二十周年記念大会を開く十年後には、我々は歯科界の中堅どころとなっているでしょうし、またそうならないければなりません。この十年間はそうなるよう努力を続けなければならない十年間なのです。

がんばりましょう！

(竹村明道 記)

大 28 庚申会

南禅寺に向う参道は、ぬける様に空が青く、紅葉狩は今が盛りでありました。「菊水」の玄園の敷石は、庚申会の盛會を祝う様に清く水が打ちかけてあった。2時30分頃から京・滋会員と役員（理事、委員）による打ち合わせがあり、4時丁度に「第9回庚申会総会」が開かれた。司会西村健君、開会の辞：加々美君、会長挨拶、議長に長尾保君が選出され、会務報告を佐古君、物故者の冥福を祈り黙禱（長尾君の御母堂様、森田君の御尊父様）会計報告を更谷君、又覚道君より庚申会連絡網中継幹事の変更等についての報告と注意があった。（北大阪支部長：大塚俊裕君、南大阪支部長：北坂弘行君）さらに佐古選挙管理委員長より4月の会長、監事についての説明があり、会長より役員（理事、委員）の発表があった。

副会長 覚道芳樹、角田 淳

専務理事 加々美恵一

1. 庶務部 西藤隆弘
委員 川野 晃、木村純朗
2. 会計部 更谷啓治、米谷裕之
3. 組織部 山野上幹雄、中道 哲

4. 学術部 中村壮一郎
委員 南 正高
5. 福祉部 佐古好正
6. 編集部 堀内道郎、長谷勝也
7. 渉外部 内海 努、井本達也、森 孝
委員 大塚俊裕、上野泰寿
平山幸市郎、瓜尾直人
長尾 保、西村 健

監 事 岡崎 吉孝、岡本一起子

本会評議員 森 孝

続いて、内海君より閉会の辞があった。

さらに、徳島大学講師有田恵司君、佐藤修斎君による学術講演を行ないましたが、同級生の中で、「よくぞここまで頑張ってくれたものだ」と感心し、座布団の上で膝を付き合わせて同級生の講演を聴くということは、今までに無かった良い雰囲気と、何とも言えない心地よさが、畳の部屋全体をおおっていた。本当に両君には大変御苦労様でした。（モリタのCRインレーの話もありました。）

続いて6時丁度より2階の大広間に上り懇親会にうつった。多くのクラス会が開催される忙しい中を本会からは、副会長野添静里先生、常務理事田治米保夫先生、京都からは、府歯科医師会専務理事尾上徹先生に御臨席賜り、同窓会の団結について示唆あるお言葉をいただき、ありがとうございました。舞妓さん、芸妓さんのお酌で熱気ムンムンの宴会の最中に庚申会会員一人一人全員に正座をしてお酌して下さいましたことは、会員を「あっ」といわせ、感激致しました。本当にありがとうございました。さて舞妓さんの踊りも最高であったんですが、今回のトピックスは何と言っても、滅多に帰国しない奥田剛久君が、今回の同窓会出席のために米国（ロス）から帰って来てくれたことです。国内の遠方から来た人を「あっ」と言わせました。そこで、今回は奥田君に乾杯をしてもらいました。彼は、ミュージシャンの道を卒業直後より天職とし、米国で活躍中で、1989年5月東芝EMIよりデビューするので、庚申会も可能な限りバックアップしたいと思います。その節は宜しく御願い致します。（宴会の畳にいたく感



激!) 次期開催地は、兵庫県なので堀内君が閉会にかえて挨拶し、1次会は終わり、2次会、3次会……朝までといったところです。(でも13日全国大会は、多数の人が頑張って行ってくれました。)

さて、会計から年会費は今回集めておりませんが、後日よろしく御願いますとともに、年会費のことについて疑問のある人は更谷君か米谷君に申し出て下さい。

最後になりましたが、京都・滋賀会員の皆様には「さすが」と思わせる「思い出」に残るクラス会を開催してもらい、2次会、3次会、宿泊等々何から何まで(この1年間の段取り)庚申会ひとりひとりに代って心より感謝申し上げます。

出席者：有田憲司、井奥尚也、石井雅之、磯野典正、井本達也、上野泰寿、内海努、瓜生直人、江原豊、大瀬周作、大塚俊裕、岡崎吉孝、岡本浩、岡本一起子、奥田剛久、加々美恵一、角田淳、覚道芳樹、加口雅之、柏井敬一、金山浩一、川原一郎、岸田博之、北坂弘行、北坂晶子、木村晋也、木村純朗、黒田収平、小阪広之、小佐田義久、小林雅代、小林裕一、米谷裕之、佐古好正、佐藤修斎、更谷啓治、生野博、田中威陽、田中康貴、内藤春生、中井孝佳、中川直人、中

道哲、中村壮一郎、長尾保、永谷敏、西村健、長谷勝也、速水裕、桧垣信之、久井良真、平山幸市郎、弘部俊彦、藤田成司、堀内道郎、益川稔邦、増田菊雄、松下順一、溝畑圭司、光安正守、南正高、村上博、森孝、森田享弘、葉師寺登、安井公子、山口毅、吉田誠規

(永谷 敏 記)



大 28 庚 申 会

日毎に寒さが増す今日此の頃、庚申会諸兄には元気に御活躍のことと存じます。先日は、南禅寺「菊水」にて庚申会同窓会が開催され、多数の出席を得ましたことは誠によろこばしいことです。この一年間、京都、滋賀の会員の皆様には、いろいろと本当に御苦勞様でした。「京都菊水」の思い出については次の同窓会報にて詳しく報告致しますので御期待下さい。

さて、連絡網のことについてであります、
「連絡網の全権」は、「支部長」に委任しますので、その点よく御承知下さいまして、「緊急連絡」が、正確迅速にいきます様に宜しく御願いますとともに、住所変更時には、「支部長」、「覚道芳樹」、「大阪歯科大学同窓会」の三方に必ず御連絡下さいます様御願い申し上げます。

来年は、兵庫県の当番で引き受けてもらいましたので兵庫県会員の皆様には、大変御世話になりますが宜しく御願い申し上げます。

ところで、昭和63年も、もうすぐ終わりです。まさに「光陰矢の如し」とはよく言われてきたものです。しかし、一日、一日は、確実に「新しい日」であり、「二度と帰らぬ日」なのでありますから、「時に流されぬ様に生き生きと生活」したいものであります。

年が改たまると、「年賀状」が手もとに届くわけですが、年々「ワープロ年賀状」、「印刷年賀状」が増えてきます。それでも（味気なくとも）「あいつ元気かなぁ」と思う。その上、「自筆」でくると、それがたとえ1行の走り書きであっても、何回も目を通す。同級生には、できるだけそうありたいと思いながら、つい「表書き、裏は印刷屋」でおわる。「今年こそ一枚一行かくぞ」と意気込みながら、どうなりますことやら……。

どうか庚申会の皆様、よいお年をお迎え下さいます様に御祈り申し上げますとともに、来年の同窓会には今年同様多数御参集下さいます様よろしく御願い申し上げます。

（永谷敏 記）

追伸：自分自身が、どの支部に属し、どう連絡をうけ、どう責任ある情報を次に連絡できるかを必ず今年中に「支部長」に確認し、わからない時は、連絡網担当理事「覚道」君に指示を受けて下さい。又、連絡があった場合は、連絡内容は、必ず「緊急内容連絡」でありますから、「昼夜を問わず」連絡することを、あらかじめ御容赦下さい。

大 31 癸亥会

癸亥会々員の皆様方、お元気でお過ごしでしょうか。

日々診療に励んでおられることと存じます。

毎度の事ながら、癸亥会への御協力を賜り心から感謝致しております。

さて、第5回クラス会総会懇親会を無事終える事が出来ましたので、御報告申し上げます。

今年は、11月13日（日）全国大会が、京都で開催されました。

癸亥会と致しましては、全国大会へ参加する事を含め、その前日11月12日（土）紅葉深まる京都全日空ホテルに於いて、癸亥会総会懇親会を開催致しました。

来賓として、大阪歯科大学同窓会渡部 潔先生・大阪歯科大学同窓会京都支部榎 茂光先生・京都府歯科医師会専務理事福田 滋先生・同窓会常務理事三谷 卓先生・29回代表栗原良浩先生・30回代表那須 馨先生・32回代表長谷川一弘先生をお招きし、我々会員53名と数の上では少し寂しい参加数ではありましたが、楽しい総会であり懇親会でした。

参加者は次のとおりです。

安東英弘・安斎久美子・磯貝厚典・伊藤禎雄・江見 丈・江龍多美子・大宮貞紀・海道 充・梶原 裕・片岡 淳・片山昌保・久保正裕・田中義人・戸田伊紀・内藤淳夫・長谷川善則・服部 均・林 裕司・中務利信・長井 一・西川庄治・平木紳一郎・本澤明義・前田康守・松本尚之・溝上修平・山口 昭・山口貴史・山下秀介・吉見裕史・有山金一郎・高橋幹也・龍野登志彦・田村直也・中川 学・深田拓司・前田潤一郎・笠井昭彦・榎 充弘・西谷尚純・疋田陽造・東野信男・樋口正弘・井田治彦・清水 豊・杉立光史・園田茂樹・高井清史・斉藤尚宏・斉藤至紀・田口 昇・田中球生。

秋の夜長、一年に一度の癸亥会各方面で、活躍している仲間と楽しい話に花を咲かせ有意義な一時を過せる事が出来ました。

名残はつきなかったのですが、学歌斉唱の後再会を約束し閉会となりました。

御来賓の先生方、ご多忙のところ御出席頂きありがとうございました。

当日は、遠方からも多数御参加頂きありがとうございました。そして京都での会を成功させてくれた前田潤一郎君を始め、役員の方々御苦勞様でした。

今回参加できなかった方も、是非次回の癸亥会へは出席下さいますようお願い申し上げます。家族ぐるみで親睦を深め、この癸亥会を発展していくよう皆様の御協力宜しくお願い致します。

次回は大阪で開催される予定ですので、来年の再会を楽しみにしております。

（癸亥会々長 西川義公 記）

大 36 嵩山会

晩秋の候、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

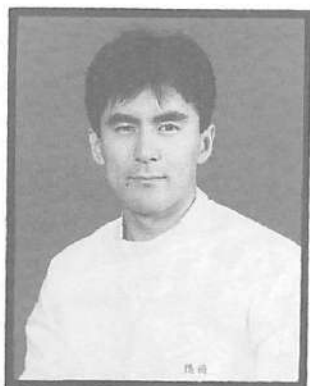
我々嵩山会は大学36回卒業生の集まりです。

“嵩山”というクラス会の名称は、中国河南省にある五岳の一つに少室山三十六峰に由来します。名山嵩山のようにこれから高くそびえゆく会にと願ひ命名されました。

さて嵩山会は昭和63年3月19日、卒業式の後夕刻よりホテルプラザにおいて謝恩会を催しました。

当日は森学長、北川理事長、奥野喜一同窓会会長を始め教授、助教授並びに諸先生方の多数御参加を賜り新たな旅立ちを盛大に祝っていただきました。

我々嵩山会は若輩者の集まりですが、名符ある大阪歯科大学同窓会会員としての誇りを失うことなく小さくとも確実な一步を踏み出そうと決意致しました。先輩諸先生方の御指導、御鞭撻の程何とぞ宜しく御願ひ申し上げます。



訃 報

徳田 仁君

大阪歯科大学牧稜山岳会のメンバーとして今夏パキスタン未踏峰P K6885を登山中、7月11日より高山病を煩い、7月15日午前9時30分永眠されました。

葬儀は8日18日午後2時より池田市葬祭場において、事故報告会は8月28日午後1時より本学病院3階講義室においてそれぞれと行われました。

徳田 仁君の生前の面影を偲び心から冥福をお祈り申し上げます。

合 掌



朝日大学歯学部ニュース

朝日大学歯学部 ニュース

人 事

退職	古橋 九平教授	口解Ⅱ	63. 3.31
		(定 年)	
	今西 嘉男教授	口解Ⅰ	63. 3.31
	吉岡 芳男助教授	口解Ⅱ	63. 3.30
	山下 晴男助教授	歯内療法	63. 9.30
	竹中 武久講師	歯内療法	63. 6.30

新任	岩久 文彦教授	口解Ⅰ	63. 5. 1
		(新潟大・歯・助教授から)	
	明坂 年隆教授	口解Ⅱ	63. 7. 1
		(広大・歯・講師から)	

名誉教授	太田 証次郎教授	進学物理	63.4.1
	志賀 伝三教授	進学ドイツ語	63.4.1

特任教授	古橋 九平	63.4.1～64.3.31
客員教授	吉岡 芳男	63.8.1～64.3.31

昇任	講師 吉田 隆一	歯内療法	63.10.1
	講師 中嶋 正人	歯内療法	63.10.1

行 事 等

◎63年度朝日大学公開講座は9月11、17、24日、岐阜市民会館小講堂で開催された。今年度は「くらしと科学」のテーマで、歯学、経営学、

法学、教養学部の教授6名が講師となり市民参加の講座をもち、好評であった。

◎学生部キャンパスニュース第2号(10月5日付)、3学部学生向けの新聞(タブロイド版6頁)を発行し、全学生に配布、さらに全父兄にも郵送した。

◎第18回朝日祭(大学祭)は10月21日～23日大学キャンパスで開催された。今年はトークショウに笑福亭鶴瓶、コンサートに森川由加里を招き、展示、模擬店、軽音コンサートなど近年にない賑いをみせた。

◎体験入学および高校生英語弁論大会開催、去る10月23日の大学祭最終日に本学において、歯学部体験入学および63年度英語弁論大会を開催した。体験入学には29名の高校生および付添えの父兄、弁論大会には25名の高校生が参加して行われた。

◎64年度指定校推薦入学試験を実施、11月3日に入試のトップを切って上記入試が行われ、54名が受験した。なお、11月27日に一般推薦入試、64年2月1日に一般入試が行われる。募集人員は合計で128名である。

◎志摩育英センター閉鎖、三重県度会郡南勢町の同センターは、管理人の辞職によって閉鎖せざるを得なくなり、当分の間閉鎖することになった。

◎大学20周年記念事業委員会スタート、昭和65年秋に大学創立20周年の記念行事を行うため、同委員会が発足した。記念行事として、1.講

演会、2.記念式典、3.記念誌発行、4.記念の建築などが考えられた。

◎本学が当番の各学会、本年度は、10月に日本

補綴学会、細菌学会中部支部会、11月に保存学会が当岐阜で開催され、それぞれの教授が会長となって盛会裡に終了した。

紫媛会だより

昭和63年度紫媛会は、去る6月11日(日)、午後3時より、ホテルニューオータニ大阪で開催いたしました。

総会には、90余名の会員の出席を得て盛大に開催することができました。大11回今井徳子会員の議長により議事が進行し、会務報告の後、前年度当番役員により会計報告があり報告の通り承認を得ました。その後、諸問題について審議を行い活発な意見交換がなされ、かねてより懸案の会則改正案が提出され原案のとおり満場一致で承認されました。引き続き、新会則に基づき、専32回坂口可子会員が初代会長に選出されましたことをここにご報告申し上げます。

そして、懇親会に移り、森学長、佐川副学長、山岡病院長のご来賓をかこみ、140名余の会員が集いました。

森先生のご祝辞を頂き、山岡先生の乾杯のご発声の後、坂口新会長の就任ご挨拶。紫媛会の再出発に向けて力づよい抱負を述べられ、全会

員の協力を要請されました。続いて、アトラクションに文楽の吉田簀助氏を招いて講演と公演があり、「艶姿女舞衣酒屋の段」のうちの一節「お園の唄きのひとりごと」を演じて頂きました。妖艶な人形の姿に深く魅了され、ひとときの静寂の後、割れんばかりの拍手が湧きあがりました。人形の使い方、文楽の歴史など、又、おんなの艶っぽさなど質問がつきない有様でした。皆様には、わずかなりとも、文楽に親しんで頂けた事と当番学年一同喜んでおります。

最後に一年を通じ、各学年幹事の方々や会則改正委員の先生方、また同窓会室など多くの方々のご指導、ご協力を賜り、無事、当番を終えられましたことを深く感謝いたし、誌上より御礼申し上げます。

尚、次年度総会は当番幹事より詳細にご案内がございますが64年6月10日(日)、ホテルプラザときいております。万障お繰り合わせ下さいませようお願い申し上げます。

(当番学年大23回生一同)



大阪歯科大学 紫媛会 於ホテルニューオータニ大阪 昭和63年6月11日

昭和62年度会計報告

紫 媛 会

収入の部

年 会 費	752,500
總會当日会費（174名）	2,958,000
寄 付 金	570,000
利 息	12,761
ホテル代返金分	10,850
新年度繰越金	3,797,805

合 計 8,101,916

支出の部

事 務 費	29,700
通信印刷費	138,100
總 会 費	3,399,042
雜 費	142,530
慶 弔 費	60,000
次年度繰越金	4,332,544

合 計 8,101,916

次年度繰越金内訳

郵便定額貯金	3,000,000
郵便普通貯金	1,173,411
銀行普通貯金	159,133

4,332,544

紫媛会62年度会計 西 中 波留美
笹 田 萬里子

紫媛会62年度会計、西中波留美先生、笹田萬里子先生より報告を受け、監査の結果、収入、支出、残高について適正であることを認めます。

昭和62年8月1日

紫媛会61年度幹事 草 間 由 紀
島 津 悦 子



ご 挨拶

坂口 可子

ご推挙をいただき栄ある紫媛会初代会長に就任致しました。身に余る光栄と存じますと同時にこの責の重大さに身の引締るおもいでございます。

私達のOG会と称しました当初から紫媛会26年の流れを考えますとき、紫媛会が会長制をとらないで自由な立場を貫いて今日まで立派に存続いたしましたことは天下に冠たるものであると自負して止みません。これは会員はもとより特に代々の学年幹事が中心となって共に心血を注いで会を運営してまいりました賜であると確信いたします。これからも北川理事長のお言葉“伝統は法律なり”を実感として、名誉会長に稗田学長を推戴しますことを心強くいたし、誇り得る伝統は大切に、気持を新しく温くきめ細やかな組織作りから始めてみたいと思います。私達女子が特に歯科医として抱えます問題の数々を、助けられたり助けたりの親睦を一層強固に愉しく魅力ある紫媛会でありますように。紫媛会が育ってまいりました環境と体質といったあたりをしっかりとみつめ直して、これからの方向づけを、ご一緒に検討し乍ら会務を推進して参りたいと存じます。大学と同窓会の繁栄とそして共に紫媛会の発展のために、不肖私、微力乍ら全力を傾ける覚悟でおります。みなさま方のご協力とご支援を心からお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

新役員紹介

会 長 専32 坂 口 可 子
副会長 大6 丹 田 佑 子
" 大9 三 谷 淨

理事

大12 徳 永 恵 子 大13 佐 野 操 子
大15 蒲 生 典 子 大20 近 森 楨 子
大23 福 岡 名 津 子 大28 小 林 雅 代
大30 樋 口 敦 子

幹事名簿

専30 宇治川 よし子 専32 奥 野 吉佐子
専32 川 野 幸 子 大 2 畑 昌 子
大 3 岡 本 睦 子 大 5 増 田 幸 代
大 6 瀧 井 佐智子 大 7 長谷川 真 澄
大 7 脇 幸 子 大 8 平 野 晴 美
大 8 別 当 和 子 大 9 佐 本 佳代子
大 9 朝 倉 幸 恵 大10 伊 藤 浩 子
大10 堀 町 江 大11 西 山 緋佐子
大11 中 村 節 子 大12 時 岡 寛 子
大12 辻 セキ子 大13 岩 見 聿 子
大13 鶴 身 真紀子 大14 木 原 道 子
大14 高 岡 眞 樹 大15 小 林 道 子
大15 大 山 利 子 大16 生 駒 佳 子
大17 香 川 芳 江 大17 虫 本 栄 子
大18 砂 田 直 子 大18 虫 本 和 子
大19 安 達 久 代 大19 桂 節 子
大20 橋 高 光 大20 妹 尾 みな子
大21 草 間 由 紀 大21 矢 尾 夕美子
大22 久 保 陽 子 大22 角 谷 真 枝
大23 宇 川 順 子 大23 田 中 茂 美
大24 坂 本 展 子 大24 山 崎 まろみ
大25 森 川 あけみ 大25 松 田 千 枝
大26 森 内 基久子 大26 松 本 百合子
大27 梶 比 佐 大27 河 野 明 子
大28 岡 本 一起子 大29 井 本 明 子
大29 高 橋 登史子 大30 安 野 千 里
大30 坂 尻 薫 子 大31 大 宮 真 紀
大31 安 斎 久美子 大32 八 竹 雅 美
大32 森 直 子 大33 夏 見 淑 子
大33 曾 我 昌 子 大34 藤 原 香
大34 久門田 美 香 大35 山 本 規 子
大35 大 森 理 代 大36 秋 山 純 子
大36 内 田 準 子 (昭和63年 9 月17日)

慶 報

専29回、竜門敦子会員が、昭和63年11月10日
於ける学校保健会総会（長野県）にて学校保健、
学校安全文部大臣表彰を受けられました。

訃 報

昭和63年 3 月29日、専29回小瀬木美智子会員
が亡くなりました。謹しんでご冥福をお祈り
致します。

学位獲得者紹介

- (1)主論文名 (2)副論文数
(3)受領日 (4)受領大学
(5)略 歴

梶 山 健 二 (大11)

- (1) 組織培養細胞との混合培養系における *Borrelia duttonii* の培養
- (2) 5 編
- (3) 昭和63年 6 月 8 日
- (4) 大阪歯科大学
- (5) 昭和38年 3 月 大阪歯科大学卒業
昭和55年 7 月 山口大学医学部微生物教室
研究生として入学

西 田 光 男 (大25)

(旧姓：砂辺)

- (1) 下顎変形症手術の術後予測に関する研究
- (2) 5 編
- (3) 昭和63年 6 月 29日
- (4) 大阪歯科大学
- (5) 昭和52年 3 月 大阪歯科大学卒業
昭和52年 8 月 京都大学医学部附属病院歯
科口腔外科医員として入局
昭和54年 1 月 愛媛県市立宇和島病院歯科
医員
昭和57年 7 月 京都大学医学部口腔外科学
教室助手
昭和57年 9 月 大阪歯科大学矯正学講座に
国内留学、現在に至る。
昭和63年11月 京都大学医学部口腔外科学
教室講師、現在に至る。

岡 本 一起子 (大28)

- (1) 口腔診断における免疫組織化学的研究
— 歯肉上皮に対するモノクローナル抗体の
作製とその免疫組織化学的応用 —
- (2) 1 編
- (3) 昭和63年 6 月 29日
- (4) 大阪歯科大学
- (5) 昭和55年 3 月 大阪歯科大学卒業
昭和55年 6 月 大阪歯科大学口腔診断科へ
研修生として入学
昭和57年 2 月 大阪歯科大学口腔診断学講
座へ助手として入局

岩 本 吉 則 (大29)

- (1) ペニシリン G に対する *Streptococcus mutans* HS-6 と Rn-10 の感受性に関する
電子顕微鏡学的研究
- (2) 1 編
- (3) 昭和63年 6 月 8 日
- (4) 大阪歯科大学
- (5) 昭和56年 3 月 大阪歯科大学卒業
昭和57年 4 月 大阪歯科大学細菌学教室入室

吉 竹 弘 行 (大30)

- (1) 歯周疾患患者口腔より分離した *Fusobacterium nucleatum* 由来 LPS の性状について
- (2) 2 編
- (3) 昭和63年 6 月 8 日
- (4) 大阪歯科大学
- (5) 昭和57年 3 月 大阪歯科大学卒業
昭和57年 9 月 大阪歯科大学細菌学教室入

村 田 洋 一 (大31)

- (1) 臼歯単独補綴歯冠の高さの調整が歯列咬合
接触に及ぼす影響
- (2) 4 編
- (3) 昭和63年 3 月 19日
- (4) 大阪歯科大学
- (5) 昭和58年 大阪歯科大学卒業
昭和59年 大阪歯科大学大学院入学
昭和63年 大阪歯科大学大学院修了

編 集 後 記

- ◆ この日がいつかは来ると思っていた。しかしいざその日に直面すると、大きな動揺と深い悲しみを覚えずにいられない。天皇陛下がお亡くなりになられた。激動の「昭和」がついに終わるのかと、深い感慨にとられる。長い昭和であった。波乱と激動の昭和でもあった。とくにあの悲惨な戦争と敗戦を経て、平和国家へ脱皮した歴史の明暗は忘れられるものではない。

新しい元号「平成」がよい時代であることを切望したい。

- ◆ 第10回全国同窓会会員大会が、大成功に終わった。全国津々浦々から2千有余名が京都の都ホテルに続々と集まった。奥野喜一会長を頂点とする大歯パワーが京都に充満した感じがした。「団結と躍進」のスローガンがぴったりの大会であった。

- ◆ 枯葉が舞い木枯しが吹き出すと、人々はコートの襟を立て家路を急ぐ。ビルの谷間に繰り広げられる都会の冬景色である。

キラキラと黄金色にまぶしかった街路樹は寒々としたモノトーンになる。

冬の到来はいつもせっかちである。急ぎ足で人の心を追い立てる。早く春にならないかなあと思いながら体を丸めて歩く。

医療界が冬の時代と言われて久しい。寒さが厳しければ厳しい程、体を寄せ合い暖をとる自然な人間の営みが組織化につながり、春を呼ぶエネルギーになるのだが。

この号を担当した編集部は藤原一成常務理事、井堂孝純常務理事、川村幸雄、村田安充、天方孝彦、米本 俊、水田吉彦、菱田 稔、後藤 進、金田順三、山口省三、豊川輝久、井芹令雄、濱田明嗣、岩井康容、比良野政彦各理事でした。

次号発行予定日

No. **133**

平成 **元** 年 **3** 月 **31** 日

<おねがい>

1. 編集部より原稿をご依頼申し上げました節は、締切期日をお守り下さいますよう、お願い致します。期日後到着分は次号(約3ヵ月後)となりますので、予めご了承下さい。
2. 支部だより、クラス会だより等は1000字以内、写真は一葉とさせていただきますのでご協力をお願い致します。また、同一支部、同一クラスより2篇以上の原稿到着の際は、編集部へ選択をお任せ下さるようお願い致します。

大阪歯科大学同窓会報 (132号)

平成元年 2月28日発行(年4回)

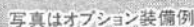
〒540 大阪市中央区京橋1の47

大阪歯科大学同窓会

TEL (06) 941-3186 (直通)

編集発行人 藤 原 一 成

スピリット



先生と地域の患者さんとがコミュニケーションできる診療台をめざして。

デジタルマーケティング時代に対応して、選べる「スペースライン」=これがスピリットです。

東京製作所 埼玉県与野市上落合355 平338 ☎(0488)52-1315



新発売

BIO-ADHESIVE MATERIAL
 接着界面活性剤・接着性キャッピングライナー・酸処理不要

世界で初めて、驚異の多目的生体接着剤

この一液型接着性キャッピングライナーは、なんとこれ一つで予防から保存・補綴・膿漏・矯正領域まで広範囲に使用できるので、一般開業医の先生には無駄なく使える21世紀へ向かっての理想的な材料です。

5次元の世界を拓く

パナグラフスーパーライナー出現

一液型接着性ライナーである本品については、臨床及び病理実験で歯牙切削面に用いると、疼痛や充血の消退・覆膜・細菌抑制・酸処理・接着及び封鎖性の6項目に関して、従来の接着材の概念を覆すような極めて優れた作用がある、との注目すべき報告がありました。予防(シーラント)・充填(コンポジットレジン)からセメント用としてインレー・クラウン・ブリッジ及び矯正用のブラケットの接着と動揺歯の固定、さらに金属床の裏装等広範囲な用途に使えて、しかも多彩な性能を有する芳香族モノカルボン酸誘導体の画期的な接着剤です。その上、象牙質の切削面に対しては遂に世界で初めて酸処理が不要になり、しかもエナメル質切削面には、本品の優れた表面活性効果により、酸処理に匹敵する接着力が得られました。

**(PSL)
(PAT.P.)**

歯科医院・ラボの未来に青空を



日本歯研工業株式会社

本社：〒141 東京都品川区西五反田5-1-10 ☎03(492)0927(代)
 支社：〒553 大阪市福島区海老江1-5-67 ☎06(458)7071(代)
 上野営業所：〒101 東京都千代田区外神田6-11-8
 イトビル2F ☎03(831)7031・7033



YATAの金合金・銀合金製品

用途に応じて
お選びください



金合金シリーズ

● 陶材焼付用金合金 / セラムハイゴールド・セラムハード・エコーセラム・セラムミディアロイタイプ I・III

● 歯科鑄造用金合金 / エムジーハイゴールドタイプ I~IV・ヤタハイゴールドMG-60・ヤタハイゴールドMG-50, 35・金バラMG-12(金12%健保適用品)

銀合金シリーズ

ヤタギン・シルディウム・ホワイトシルバータイプ I~IV・ソニヤ

お問合せ及び
カタログ請求
は右記へ——

よりよい歯科医療のために……

矢田化学工業株式会社

本社 / 〒537 大阪市東成区神路4-7-1 ☎(06) 981-3551 代表
東京営業所 / 〒101 東京都千代田区外神田6-10-6 ☎(03) 835-0750 代表

硬質レジン歯(白歯)

超微粒子フィラー含有による高い耐摩耗性(6倍)

ENDURA POSTERIO

エンデュラ ポステリオ
ハーモニーフォーム硬質レジン白歯

包装・価格

エンデュラポステリオ 承認番号62B第399号

1組 ¥960 1988年6月現在の標準小売価格

色調 #65, #66, #67, #70

形態 M28, M30, M32, S28, S30, S32

(S32は発売中、6ヵ月先になります。)

エンデュラポステリオは、硬質レジン歯(前歯)エンデュラアンテリオに続いて、新しく開発された新素材を使用した、硬質レジン歯(白歯)です。硬度や靱性、特に耐摩耗性等優れた物性を持っています。構造的にはエナメル部・デンチン部の二層からなる硬質レジン層と、義歯床用レジンと接するベース部にアクリル樹脂を用いた三層構造で、耐久性と審美性をも兼ね備えています。また、新しく作られた形態は、機能的に優れているために、咬合調整、配列が容易にできます。



世界の歯科医療に奉仕する

株式会社 松風

本社: 〒605 京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112代/営業所: 札幌(011)561-3846代/仙台(022)299-2332代/東京(03)832-4366代/名古屋(052)753-2291代/大阪(06)252-8141代/福岡(092)472-7596代

レジン製の補綴物を より美しく、より強く。

- 特殊な光重合性レジン液=パーマリンクをレジン表面に塗り、硬化装置にかけるだけ。
- レジン表面の歯ブラシ磨耗度が約1/100に。
- 極めて滑沢となるため、ツヤ出し研磨が不要に。
- 汚れが付着しにくくなるため、衛生的です。

※システムのパンフレットは、歯科商店または
G-C DICへお申し付けください。



レジン表面滑沢硬化処理システム

パーマキュア-システム

スターターキット

レジン表面滑沢硬化材

パーマリンクセット

被膜硬化装置

パーマキュア-UC-I



而至歯科工業株式会社 **G-C DIC**

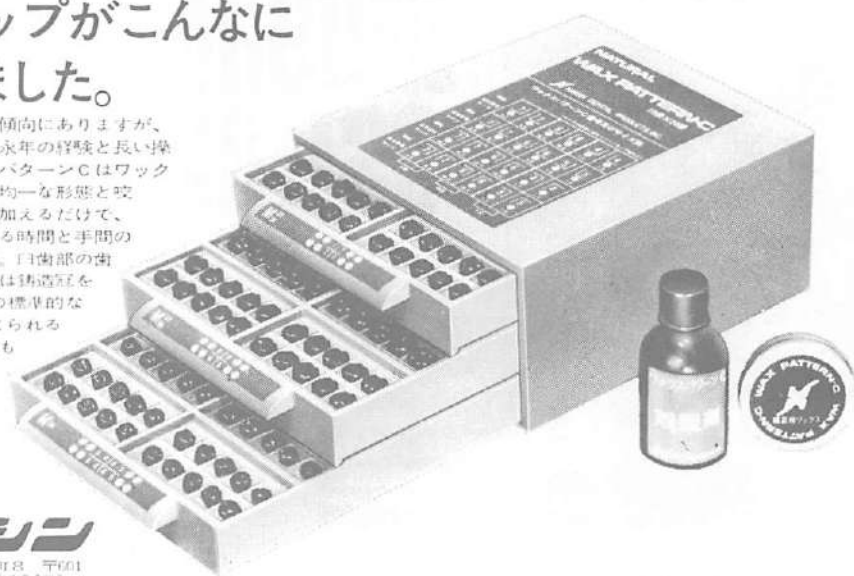
〒113 東京都文京区本郷3-2-14 Tel.03(815)1511 ●東京DIC 03(816)6480(直)

NATURAL

ナチュラルワックスパターンC

ワックスアップがこんなに
簡単になりました。

最近铸造冠の使用が増加する傾向にありますが、ワックスパターンの作成には永年の経験と長い製作時間を要します。ワックスパターンCはワックスを用いた既成のクラウンに均一な形態と咬合面を与え、わずかな修正を加えるだけで、支台歯に適合し、技工に要する時間と手間の省力化を目的とするものです。臼歯部の歯冠形態のうち、咬合面の形態は铸造冠を必要とする年代である30才台の標準的な自然歯を再現し、一見薄く感じられる部分でも断面図が示す如く最も薄い部分でも0.5mmの厚さがあり铸造冠に必要な強度も十分です。



株式会社 **ニッシン**

本社 京都市南区唐橋平町町8 平町1
TEL 075(681)5346(代)
東京営業所 東京都台東区上野3-18-13 平110
TEL 03(336)3691(代)

齧蝕を理解するための新しいアプローチ
齧蝕を適切に理解するには膨大な断片的知識を熟知することが必要。本書は全2巻で多様化した実験的ならびに臨床的専門分野からの所見を整理し、病因と予防に関する現在の知見のすべてを一貫した概説にまとめあげ、齧蝕を理解する上での新しいアプローチを提示。

G. Nikiforuk

齧蝕 1 一病因論とメカニズム

〔監訳〕 榊 鉄也

〔訳〕 阿部公生 亀山洋一郎 B 5
北野繁雄 竹内 宏 上製262頁
定価9,000円

G. Nikiforuk

齧蝕 2 一予防の理論と臨床

〔監訳〕 飯塚喜一

〔訳〕 荒川浩久 小西浩二 堀井欣一
小見徳子 上田五男 梅本俊夫
北村中也 可児瑞夫 神原正樹
境 脩

B 5 上製 274頁 定価9,000円

二大疾患がこの一冊でわかる

齧蝕と歯周疾患

—その基礎から臨床まで—

〔編集〕 森 政和 佐川寛典

並河 勇 北野繁雄
B 5 上製 327頁 定価7,000円

組織的な小児歯科の決定版

北欧小児歯科のすべて

稗田豊治 監訳

B 5・上製 369頁
定価18,000円

日常臨床でそのまま実行できる予防歯科マニュアル

チェアーサイドの予防歯科

小西浩二 編著

B 5・上製 397頁
稗田豊治 定価9,800円

歯の相談室の手引

歯の病気 Q&A

小西浩二 著

B 5 136頁

稗田豊治 定価2,000円

歯科の人間学の樹立の書

歯科医療心理

押鐘 篤 著

A 5・上製 174頁

定価2,800円

全身性疾患、隣接医学、救急処置など簡明に解説

歯科診療と全身状態評価

野口政宏 編

A 5 269頁

飯塚喜一 定価3,900円

〈最新刊〉

図説歯科薬理学

森政和／高木順彦／南直臣／佐藤精一／
成瀬悟／平松正彦／丸山七朗 著

多数の図・表により、歯科薬理学の基本と要点、そして現状を分かりやすく理解するための成書。

B 5・上製 350頁 定価7,000円

—小教科書シリーズ〈最新刊〉—

歯科臨床今日の水準を平易簡明に網羅

小クラウン・ブリッジ補綴学

羽賀通夫 著

A 5・上製 223頁

定価3,500円

小歯科放射線学

菊地 厚 著

A 5・上製 185頁

定価3,000円

小歯内治療学

長田 保 著

A 5・上製 284頁

定価4,500円

—小歯科カラーアトラスシリーズ—

口腔外科学(上,下)

〔編集〕 高橋庄二郎 園山昇 岡野博郎

上巻 B 6・上製 230頁 定価4,300円

下巻 B 6・上製 270頁 定価4,700円

小児歯科学

〔編集〕 稗田豊治 五嶋秀男

B 6・上製 196頁 定価3,600円

クラウン・ブリッジ補綴学

羽賀通夫 潤田和好 著

B 6・上製 192頁 定価3,500円

豊富なカラー写真と模式図、図、表による

図解口腔病理学

〔編集〕 久田太郎 須賀昭一

〔執筆〕 内海順夫 枝 重夫 片桐正隆

亀山洋一郎 須賀昭一 久田太郎

福島祥紘

B 5・上製 252頁 定価12,800円

わかりやすく解説した口腔病理学の手引書

新編病理・口腔病理学

竹内 宏 金久純也 著

B 5・上製 244頁 定価8,900円

小口腔病理学

田熊庄三郎 八木俊雄 柳澤孝彰 著

A 5・上製 370頁 定価4,300円

歯科材料学の術語に
明確な規定を試みた画期的な事典

歯科材料学事典

〔監修〕 山根正次

▶厳選した358の術語をキーワードとして
詳説

▶300余の図・表を駆使したわかりやすい
解説

▶索引は和文1100余語、英文950余語を掲
げ、事典としての機能を重視

▶100頁余の資料編を併設した総合事典

A 5・上製 521頁

定価8,500円

最新歯科理工学

〔編集〕 大橋正敬 中井宏之 橋本弘一

堀江港三 堀部 隆 森脇 豊

山木昌雄

B 5・上製 454頁 定価8,500円

新編歯科理工学

〔編集〕 住井俊夫

B 5・上製 259頁 定価8,800円

小歯科理工学

吉田隆一 著

A 5・上製 326頁 定価4,800円

最も新しい、口腔外科学の決定版

口腔外科学

〔編集〕 泉 廣次

〔執筆〕 泉 廣次 金澤正昭 金子賢司

工藤逸郎 鈴木邦夫 藤岡幸雄

谷津三雄 他 B 5・上製 546頁

定価15,000円

カラーアトラス 臨床抜歯学

長谷川明 著

B 5・上製 250頁

定価10,000円

今日の歯周病治療指針

明解歯周治療学

〔編集〕 原 耕二

〔執筆〕 岡田 宏 森田 登 中村治郎

長谷川祐司 原 耕二 堀 俊雄

村山洋二 他 B 5・上製 361頁

定価8,500円

臨床の場で活用できる

ルートプレーニング

鴨井久一 著

B 5 160頁

定価4,500円

カラーアトラス

歯・歯周組織の疾患と治療

長谷川明 著

B 5・上製 197頁

定価16,500円

〒113 東京都文京区本郷2丁目25-6

ニューライトビル

株式会社 学建書院

電話 東京(03)816-3888

振替 東京2-191357